

Canon

CANON DIGITALPHONE SYSTEM **DIGI16i/32i**

オプション取付工事説明書(総集編)

初版

SEPT. 1991

HY8-5033-101

Copyright © By Canon Inc.

1991

Printed in Japan (Imprime au Japon)

Use of this installation manual
should be strictly supervised to
avoid disclosure of confidential
information.

はじめに

本書はDIGI16i/32i用の全オプションの取付工事説明書を編集し一冊にまとめたもので、以下に示す工事説明書全てが掲載されています。

表 工事説明書一覧

工事説明書名	PUB. No.	ページ
4/2外線増設カード取付工事説明書	H-XJ-011A	3
4/2内線増設カード取付工事説明書	H-XJ-012A	13
4/2SLT増設カード取付工事説明書	H-XJ-013A	23
ドアホンカード取付工事説明書	H-XJ-014A	35
データ出力カード取付工事説明書	H-XJ-015A	47
音声応答カード取付工事説明書	H-XJ-016A	53
システム間接続カード取付工事説明書	H-XJ-017A	59
モデム接続カード取付工事説明書	H-XJ-018A	69
ISDN外線増設カード取付工事説明書	H-XJ-019A	79
ISDN内線増設カード取付工事説明書	H-XJ-020A	91
網同期カード取付工事説明書	H-XJ-021A	101
FAXアダプタ取付工事説明書	H-XJ-022	107
データ端末接続アダプタ取付工事説明書	H-XJ-023	113
高音量ベル接続用ローゼット取付工事説明書	H-XJ-024A	119
LD専用線アダプタ取付工事説明書	H-XJ-025A	123
OD専用線アダプタ取付工事説明書	H-XJ-026A	133
内部バッテリー取付工事説明書	H-XJ-043A	139

4/2 外線増設カード取付工事説明書

概要

- ・外線増設 (COT) カードは、外線を増設する場合に使用します。
- ・4COT カードは外線 4 回線、2COT カードは外線 2 回線の収容が可能です。
- ・2/4COT カードの組合わせで、DIGI16i で 6 回線、DIGI32i で 12 回線の外線増設が可能です。
- ・他のオプションカードが増設されている場合、増設数に制約があります。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・外線カード……1 枚
- ・工事説明書……1 部
- ・ビス (M3×6) ……2 本

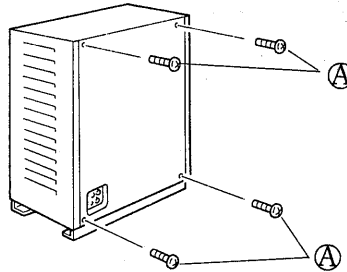
取付方法

1. 主装置電源を OFF します。

注意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源 SW が “ON” になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源 SW を “OFF” にして下さい。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビスⒶ (4 本) を外し、フロントカバーを取外す。



3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装します。

主装置	スロット No. (* 1)
DIGI16i	8
DIGI32i	12,13,14 (* 2)

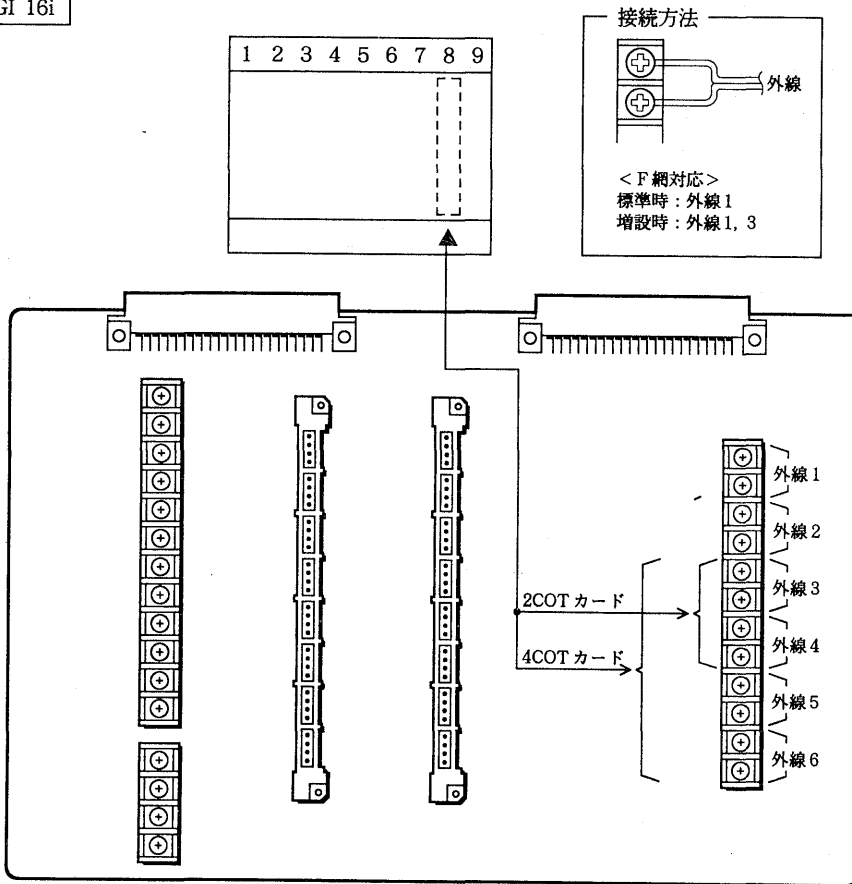
* 1 : どのスロットにでも実装可能です。

* 2 : 標準で 4COT が実装されています。

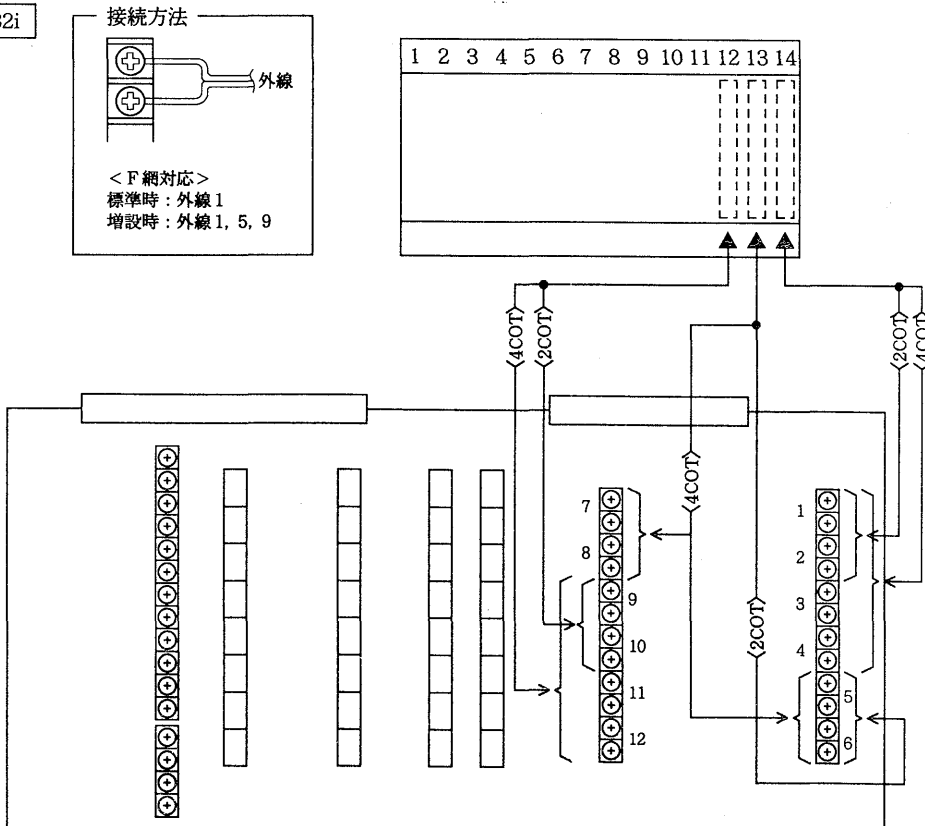
4. MDFカード上の配線

- ・外線ケーブルを端子台のビスで固定します。

DIGI 16i



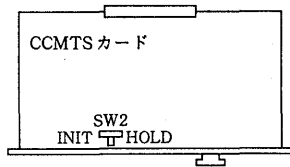
DIGI 32i



システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDF カード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

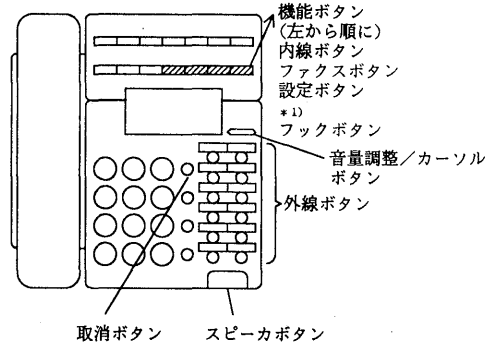
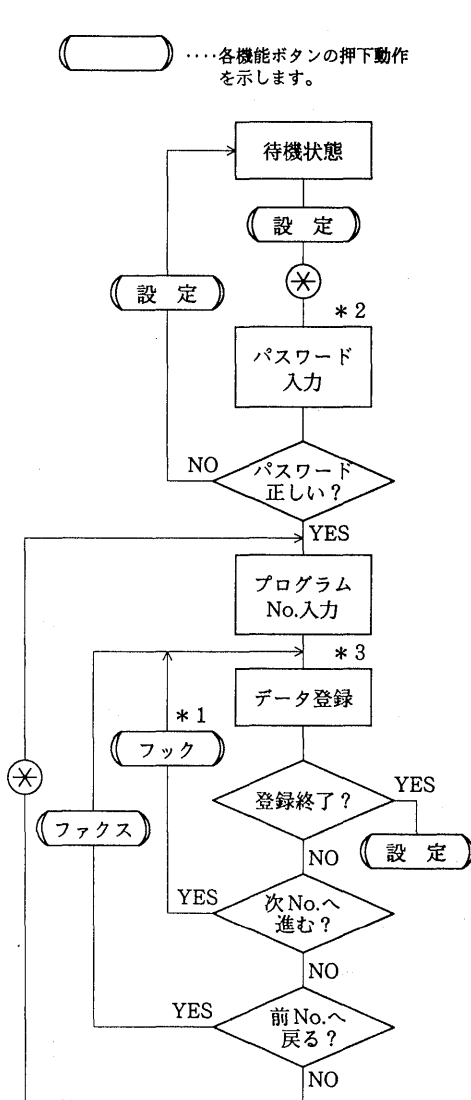
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中(約10秒間)点灯し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生(I/Fカード有) 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
2/4COT	CHK	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中(約5秒間)点滅し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー(カードの挿入位置誤り) 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



*1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

*3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ

音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(b) 外線別データ、内線別データ

i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力 (“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします)

ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCCデータ

ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

(1) システムデータ

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
114	PBX 発信番号	0~9	0	PBXの外線発信番号を登録
115	ポーズ時間	0~3sec	3sec	PBX外線発信番号送出後のポーズ時間
127	ダイヤルイン 番号桁数	1~4	4	ダイヤルインサービス契約時・NTTの交換機が送出するトーン信号の桁数を登録
128	ダイヤルイン 着信先			内線指定番号と着信先内線端子番号(3個まで)を最大16組登録可(DIGI32iでは30組)

(2) 外線別データ

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
201	トランクタイプ	NTT・CES・PBX・INS ルートKDD・ソノタ	NTT	取消ボタン押下にて未実装設定となる。
202	ダイヤル方式	PB・DP10・DP20	DP20	
203	応答リバース	アリ・ナシ	アリ	極性反転を行なわない回線では必ず“ナシ”に設定(保留ボタンが効かなくなります)
204	切断リバース	アリ・ナシ	アリ	極性反転を行なう回線では“アリ”、行わない回線では“ナシ”に設定
205	発信テナント	0~5	1	同じ発信テナント番号をもつ電話機からのみ発信可(“0”に設定した場合は共通テナント)
206	着信テナント	1~5	1	設定した番号と同じ内線グループの電話機に着信する
207	発信可否	カノウ・フカ	カノウ	“フカ”に設定すると着信専用回線となる
208	着信音	チャクシンオン1~3	チャクシンオン1	3種類の着信音から外線ごとに着信音を登録可
209	ダイヤルイン	アリ・ナシ	ナシ	ダイヤルイン契約のある外線には“アリ”と登録
216	NCC契約	0:なし 1:あり	000	左から順にNCC1~3の契約のあり/なしを登録
217	フッキング送出 時間	01~10(100msec単位)	800msec	通話時にフックボタンを押下した時の回線断時間
218	切断時間	1.5sec, 2.5sec	1.5sec	取消ボタン及び回線接続前のフックボタン押下時の回線断時間
220	電話番号			最大10桁まで登録可

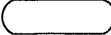
(3) NCCデータ

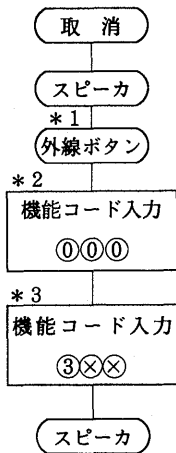
プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
401	NCC 選択番号		全て0000	左から順にNCC1~3に対応した電話会社の選択番号(各4桁)
402	NCC 対地番号			市外局番(0を除く)と電話会社番号(NCC1~3)を最大50組登録可

動作チェック

増設した外線端子での発着信動作チェックを行って下さい。

※外線ボタンが既に機能ボタンとして割り付けてあった場合は、以下の設定により外線ボタンの割り付けを行います。

 ……各ボタンの押下動作を示します。

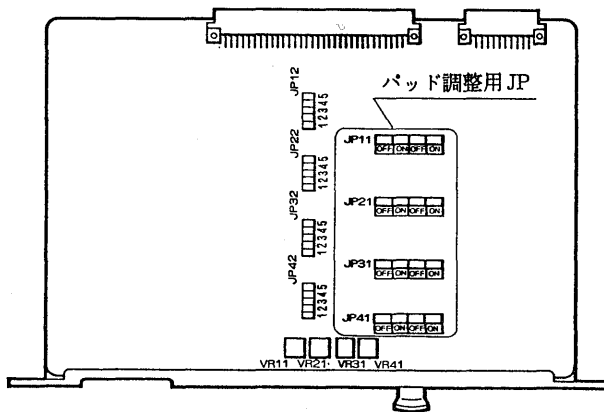


- * 1) 既に機能ボタンとして割りつけある外線ボタン
- * 2) 設定してあった機能ボタンを取り消します。
- * 3) xxは、外線端子Noを示します。
xx = 01~12

調整項目

1. パッド (PAD) の調整

- ・パッドの調整は、4COTもしくは2COTカード上のジャンパプラグの差し替えで行います。
- ・主装置の設置場所が電話局から近く、側音（受話への送話の回り込み）が大きい場合、パッドをON (3dB) にします。



JP	外線 No
JP11	外線 (n)
JP12	外線 (n + 1)
JP13 *	外線 (n + 2)
JP14 *	外線 (n + 3)

* 4COTカードのみ
 (nは実装したスロット
 に対応する最も若番の
 端子番号を示す。)

設定		OFF	ON	OFF	ON
0dB					
3dB					

■ : ジャンパープラグ

通常使用時 : 0dB
 受話量が大きい時 : 3dB

2. バランシングネットワーク調整

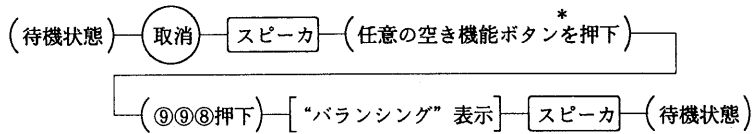
受話器の側音が大きい場合や、FAXの手順/画像信号が通りにくい時は該当回路のバランシングネットワークを調整して下さい。

① バランシングモードボタンの設定

バランシングネットワークの調整は、主装置バランシングモードにて行います。尚、バランシングモードを使用する為に専用電話機にバランシングモードボタン（以下「バランシング」ボタンと呼ぶ）を設定する必要があります。

<設定方法>

- ・任意の機能ボタンに「998 バランシング」を設定します。

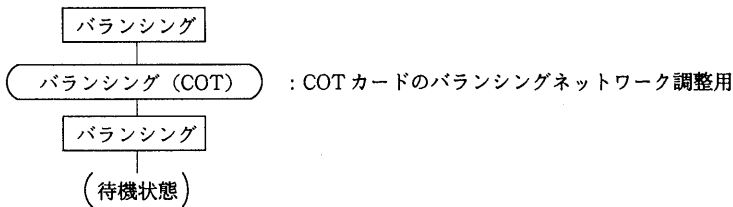


*空きボタンがない場合、「000」を入力し設定済のモードを取消することができる。

② バランシングモード

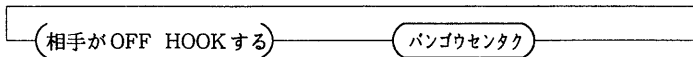
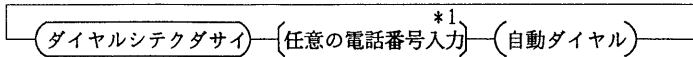
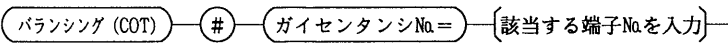
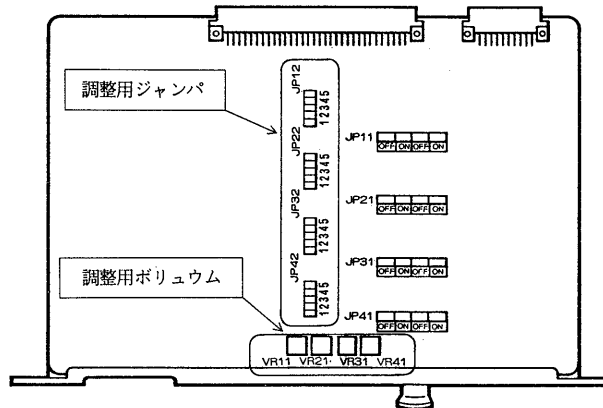
一旦バランシングボタンを設定すると、これを押すだけでバランシングモードへ移行できます。

<バランシングモード>



③ バランシングネットワーク調整

- (1) 主装置の電源をOFFし、フロントカバーを取外します。
- (2) 調整対象となる回線を収容するCOTカードを取外し、該当するジャンパの「5」のプラグを「4」へ、「1」のプラグを「1~3」のどれかへ差替えます。
- (3) COTカードを元の位置へ戻しCCMTSカードのSW2が「HOLD」側にあることを確認し、電源をONします。
- (4) 「バランシング」ボタンのある専用電話機よりバランシングモードを起動し「バランシング (COT)」を選択します。



- ① 1800Hz
- ② 1300Hz
- ③ 1000Hz
- ④ 400Hz
- ⑤ ホリユウオン (Volume)

* 1. 主装置に収容されている調整対象外の電話番号にダイヤルします。
 ・取消ボタンでメニューへ、「バランシング」ボタンで待機状態へ戻ります。

- (5) テストモードを起動した専用電話機の受話器より、①~⑤の音を聞きながらVRを回し、音量が最小になる所にセットします。
(調整終了)
- (6) うまく調整できない場合、「1~3」の任意のジャンパへセットしたプラグを他のジャンパへセットして、再度調整してみてください。
- (7) 調整が終了したら「バランシング」ボタンを押し、待機状態へ戻します。

4/2 内線増設カード取付工事説明書

概要

- ・内線増設 (DLC) カードは、内線を増設する場合に使用します。
- ・4DLCカードは内線4回線、2DLCカードは内線2回線の収容が可能です。
- ・2/4DLCカードの組み合わせで、DIGI16iで14回線、DIGI32iで28回線の内線増設が可能です。
- ・他のオプションカードが増設されている場合、増設数に制約があります。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・内線カード……………1枚
- ・工事説明書……………1部
- ・クイックコネクタ……6ケ (4DLC)
- ・ビス (M3×6) ……2本
- 3ケ (2DLC)

取付方法

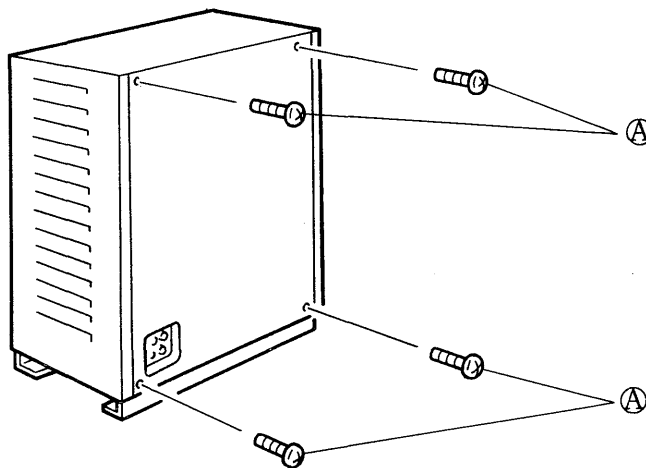
1. 主装置電源をOFFします。

注 意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを“OFF”にして下さい。

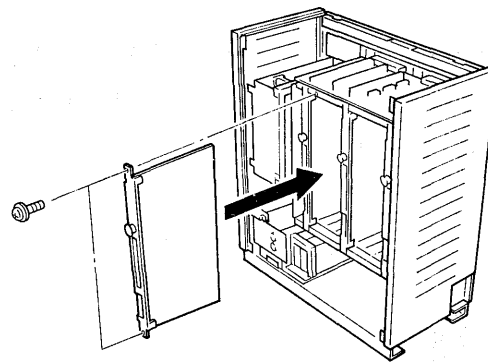
2. 主装置のフロントカバーを取外します。

ビス① (4本) を外し、フロントカバーを取外す。



3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装し、ビス (2本) で固定します。

主装置	カード	スロット No. (* 1)
DIGI16i	2DLC	5,6,7,8
	4DLC	5 (* 2),6,7
DIGI32i	2DLC	6,7,8,9,10,11,12,13
	4DLC	6 (* 2),7, (* 2),8,9,10,11,12

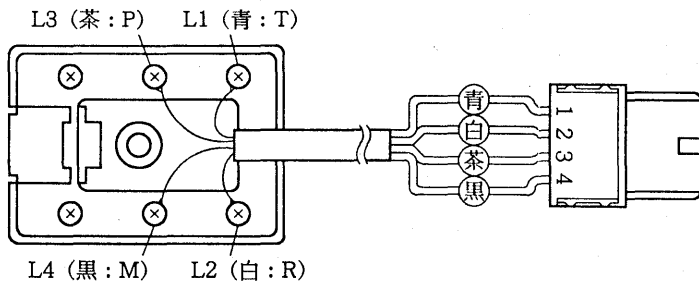


* 1 : どのスロットにでも実装可能です。

* 2 : 標準で実装。

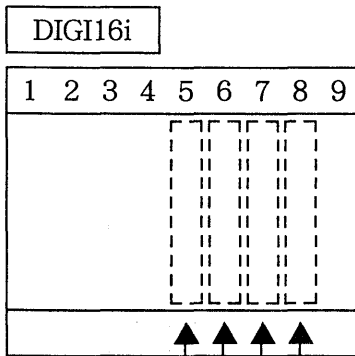
4. MDFカード上の配線

- 配線には接続する電話機に応じて4線または2線ケーブルを使用します。



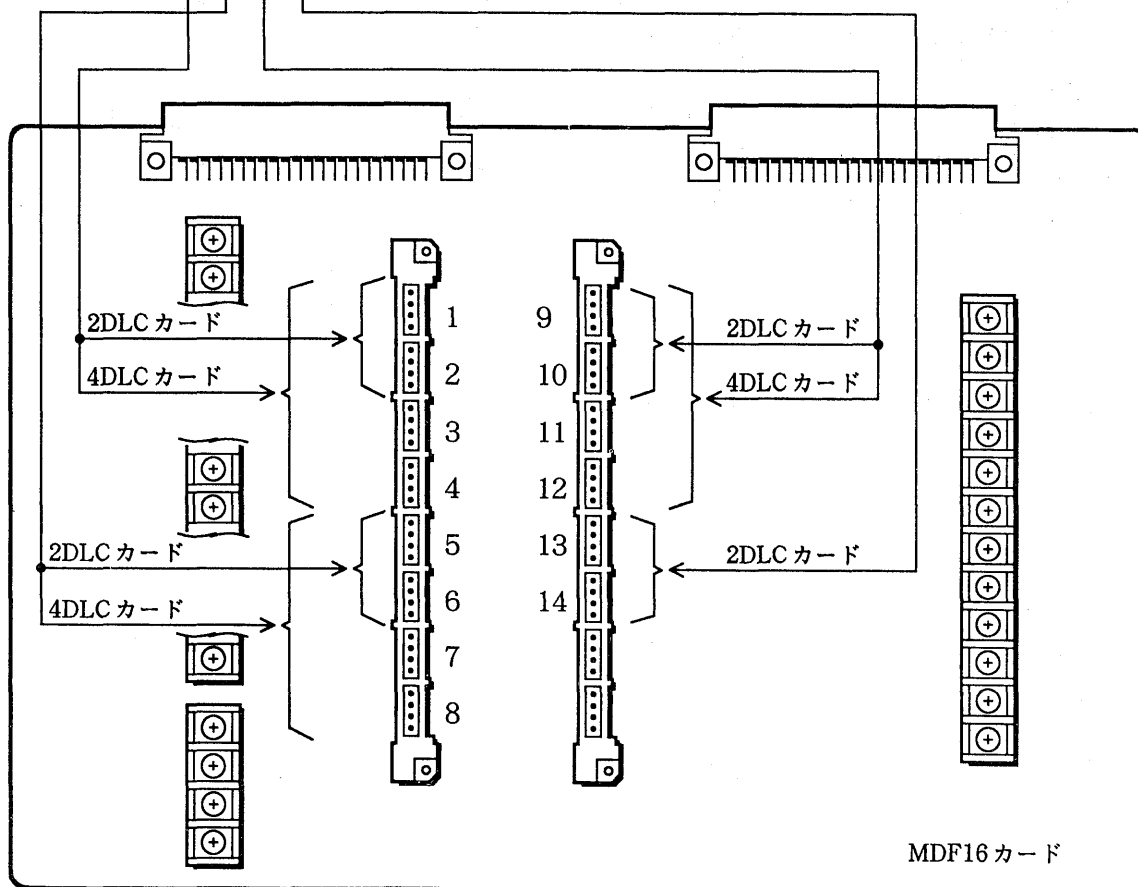
4線式 停電用電話機用
 ・接続方法…左図参照

2線式 専用/標準/ハンズフリー
 電話機用
 ・接続方法…左図にてL3とL4のみ使用する。(極性なし)

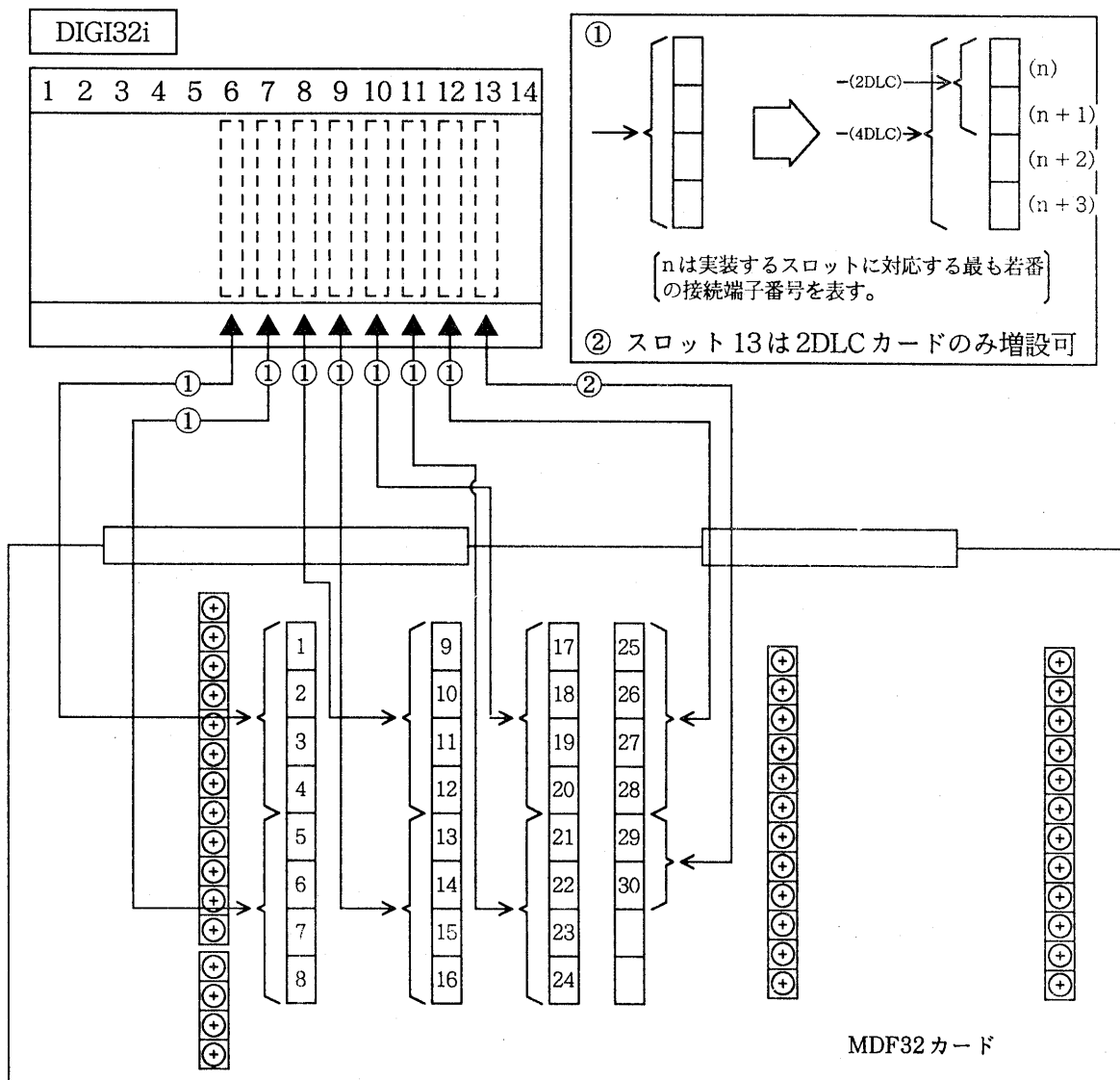


〔主装置 - 専用電話機間許容線路長〕

線径 (mm)	0.4	0.5	0.65
線路長 (m)	130	200	300



MDF16カード



5. MDF上の配線が終了したら専用電話機をローゼットに接続します。

注 意

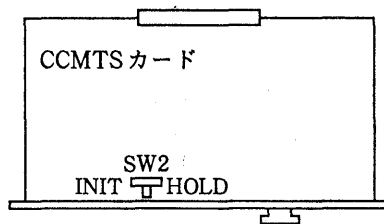
停電用電話機を接続する場合、以下の内線端子に接続して下さい。

	標準時	増設時
DIGI16i	内線 1,2	内線 1~6
DIGI32i	内線 1~4	内線 1~12

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDFカード上にショートの原因になる様な異物がありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は确实ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

< LEDチェック >

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

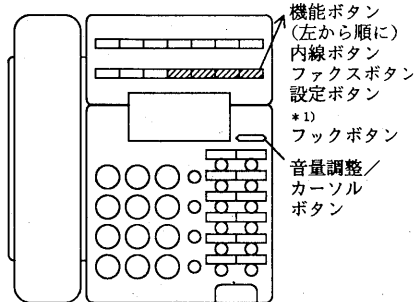
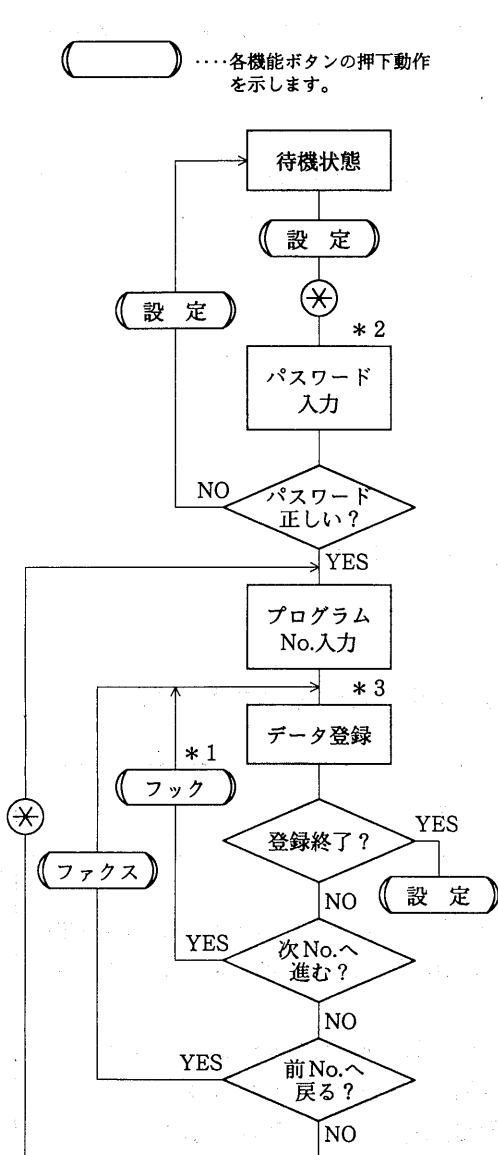
カード名	LED		機 能	動 作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中(約10秒間)点灯し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
2/4DLC	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中(約5秒間)点滅し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー(カードの挿入位置誤り) 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



* 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

* 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“*”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

* 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大－順方向スクロール、音量小－逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないません。

(b) 外線別データ、内線別データ
i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力（“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします）

ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大－順方向スクロール、音量小－逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCCデータ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

内線別データ

プログラム No.	サービス名称	データ可変範囲	初期値	備 考
304	内線番号	10～59		内線番号順に11から自動設定される。変更可
305	発信テナント	1～5	1	同じ発信テナント番号もしくは“0”を設定した外線からのみ発信可
306	内線グループ	1～5	1	設定した番号と同じ着信テナント番号をもつ外線への着信のみ鳴動する
307	発信デフォルト	ガイセン・ナイセン	ガイセン	発信の時の初期値を設定
308	外線着信	0: 鳴動なし、自動応答不可 1: 鳴動あり、自動応答可 2: 鳴動なし、自動応答可 3: 鳴動あり、自動応答不可	マスタ電話機のみ全て“0” その他は全て“0”	左から順に各外線 (DIGI16i: 1～6, DIGI32i: 1～12) に対応
309	外線発信可否	0: 発信不可 1: 発信可、自動捕捉可 2: 発信可、自動捕捉不可	全内線とも全て“1”	各外線 (DIGI16i: 1～6, DIGI32: 1～12) の発信可否
312	捕捉トランクタイプ	0: NTT 1: CES 2: PBX 3: ルートKDD 4: その他 5: INS	012534	捕捉するトランクタイプの優先順位 (左が高い)
313	通話時間表示	アリ・ナシ	ナシ	
314	通話料金表示	アリ・ナシ	ナシ	
316	話中着信音	アリ・ナシ	ナシ	“アリ”にて外線と通話中にスピーカからの音で他の外線からの着信を知らせる。

4/2 SLT 増設カード取付工事説明書

概要

- ・ SLT カードは、単独電話機または FAX を収容する場合に使用します。
- ・ 4SLT カードは単独電話機 4 台、2SLT カードは単独電話機 2 台の収容が可能です。
- ・ 4/2SLT カードの組み合わせで、DIGI16i で 7 台、DIGI32i で 18 台の単独電話機収容が可能です。
- ・ 他のオプションカードが増設されている場合、増設数に制約があります。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・ SLT カード……1 枚
- ・ クイックコネクタ……6 ケ (4SLT)
- ・ 工事説明書……1 部
- ・ ビス (M3 × 6) ……2 本
- ・ クイックコネクタ……3 ケ (2SLT)

取付方法

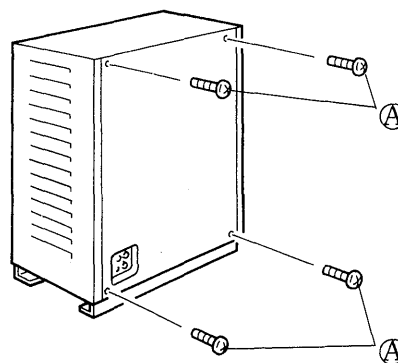
1. 主装置電源をOFFします。

注 意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを“OFF”にしてください。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。

ビス④(4本)を外し、フロントカバーを取外す。



3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装します。

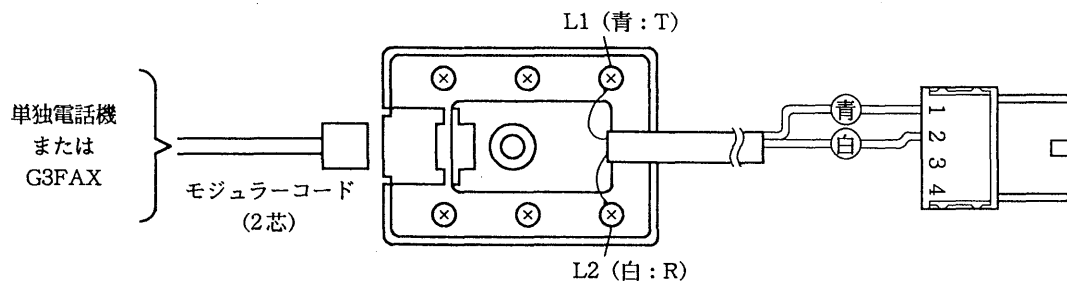
主装置	カード	スロット No. (* 1)
DIGI16i	2SLT	7,8
	4SLT	7
DIGI32i	2SLT	9,10,11 (* 2),12,13
	4SLT	9,10,11,12

* 1 : どのスロットにでも実装可能です。

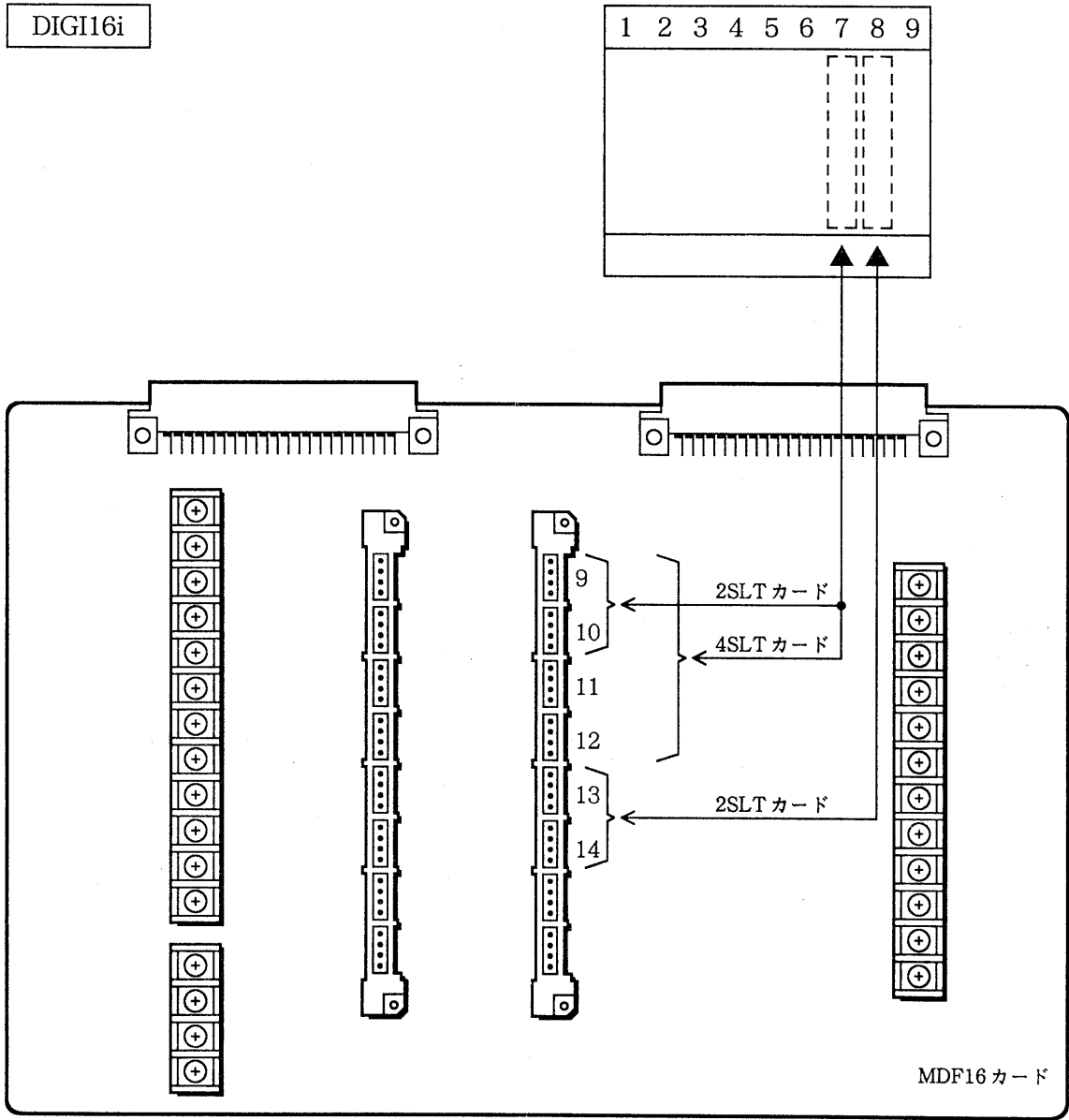
* 2 : スロット 11 には 2SLT カードが基本実装されています。

4. MDF カード上の配線

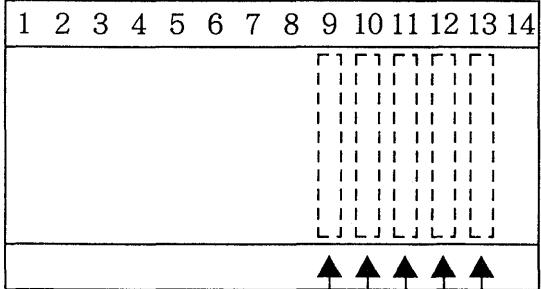
・SLT の配線には、クイックコネクタを用います。



DIGI16i

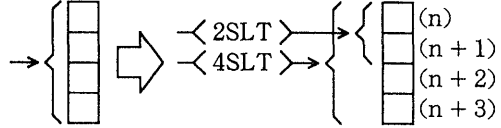


DIGI32i

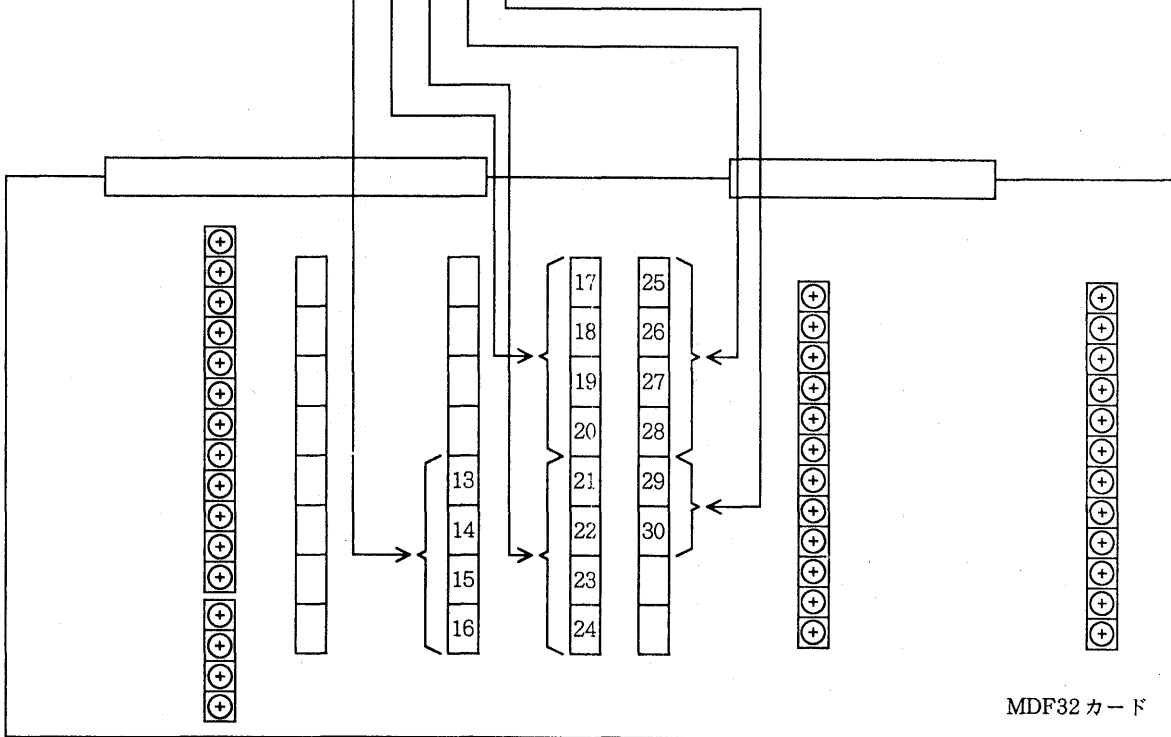


注 意

1. 2SLT と 4SLT の違いは以下のとおり。



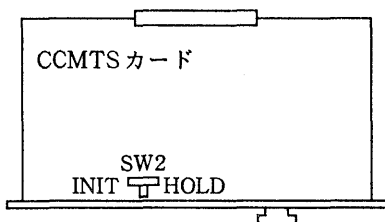
2. スロット 13 に実装できるのは 2SLT のみ。



MDF32 カード

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。
 - ① 配線ケーブルは規格通りですか。
 - ② MDFカード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
 - ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
 - ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
 - ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

< LEDチェック >

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

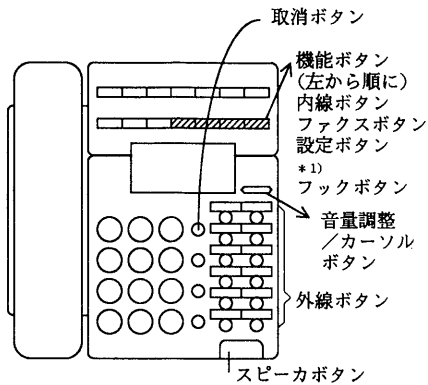
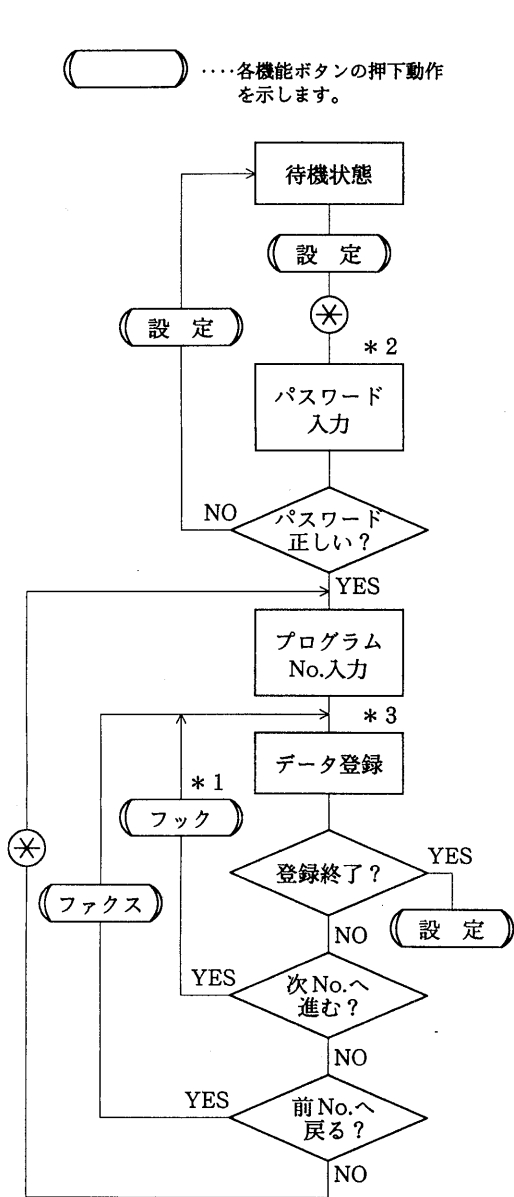
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中(約10秒間)点灯し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
2/4SLT	CHK	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中(約5秒間)点滅し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー(カードの挿入位置誤り) 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



*1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

*3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

- (a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大－順方向スクロール、音量小－逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
- (b) 外線別データ、内線別データ
 - i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力（“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします）
 - ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大－順方向スクロール、音量小－逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
- (c) NCCデータ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

内線別データ

プログラム No.	サービス名称	データ可変範囲	初期値	備 考
301	電話機タイプ	SLT 端末のみ選択可 ファクス・ムメイドウファクス モデム (SLT)・モデム (RS-232C)	SLT or ファクス	初期値がファクスなのは DIGI16i では内線端子番号“16”で、 DIGI32iでは“21”
303	ダイヤル方式	ソノタ PB・DP10・DP20	ソノタ	
304	内線番号	10~59		11から順に自動設定。変更可
305	発信テナント	1~5	1	同じ発信テナント番号もしくは “0”を設定した外線からのみ発信 可
306	内線グループ	1~5	1	設定した番号と同じ着信テナント 番号をもつ外線への着信のみ鳴動 する。
307	発信デフォルト	ガイセン・ナイセン	ガイセン	発信時の初期値を設定
308	外線着信	0: 鳴動なし、自動応答不可 1: 鳴動あり、自動応答可 2: 鳴動なし、自動応答可 3: 鳴動あり、自動応答不可	マスタ電話機の み 全て“1” その他は 全て“0”	左から順に各外線 (DIGI16i: 1~ 6, DIGI32i: 1~12) に対応
309	外線発信可否	0: 発信不可 1: 発信可、自動捕捉可 2: 発信可、自動捕捉不可	全内線とも 全て“1”	
312	捕捉トランク タイプ	0: NTT 1: CES 2: PBX 3: ルート KDD 4: その他 5: INS	012534	捕捉するトランクタイプの優先順 位 (左が高い)
317	SLTフッキング	システムホリユウ フッキングソウシュツ	システム ホリユウ	SLTでのフッキング動作の意味 を設定

調 整

バランスングネットワーク調整

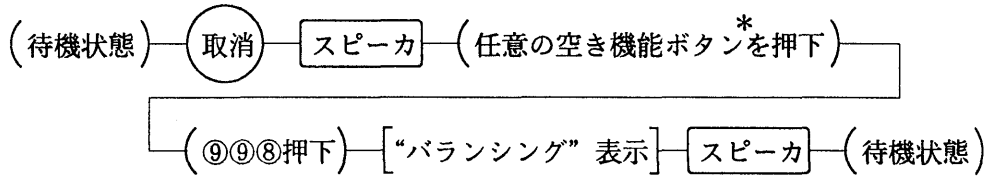
受話器の側音が大きい場合や、FAXの手順／画像信号が通りにくい時は該当回路のバランスングネットワークを調整して下さい。

① バランスングモードボタンの設定

バランスングネットワークの調整は、主装置バランスングモードにて行います。尚、バランスングモードを使用する為には専用電話機にバランスングモードボタン（以下「バランスング」ボタンと呼ぶ）を設定する必要があります。

<設定方法>

- 任意の機能ボタンに「998 バランスング」を設定します。

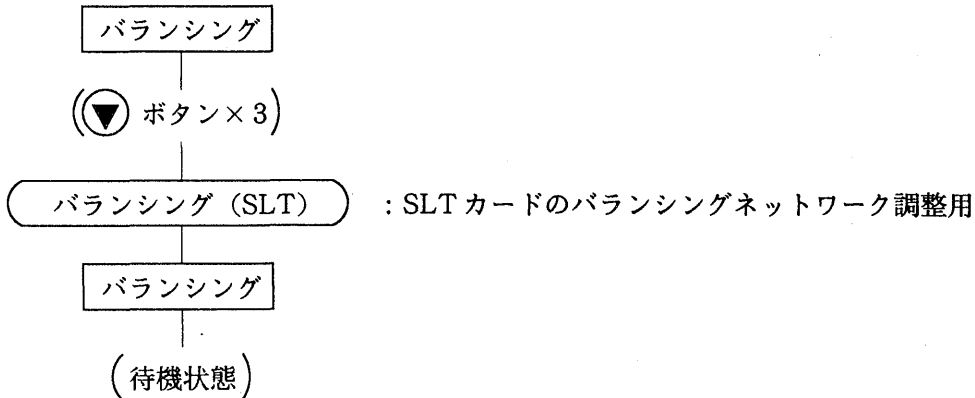


*空きボタンがない場合、「000」を入力し設定済のモードを取消することができる。

② バランスングモード

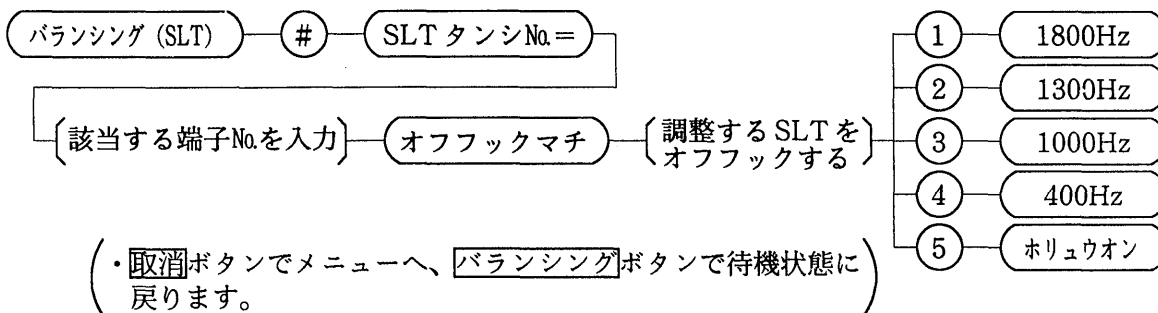
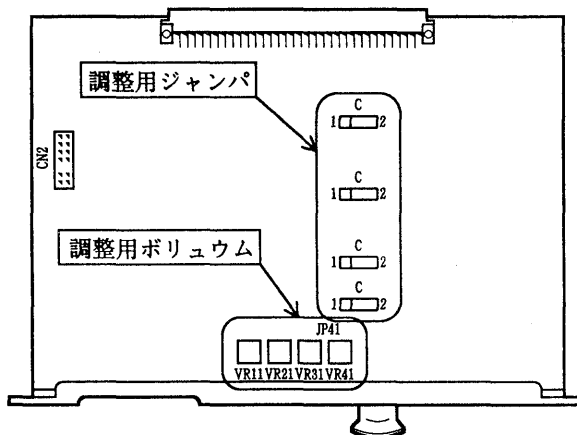
一旦バランスングボタンを設定すると、これを押すだけでバランスングモードへ移行できます。

<バランスングモード>



③ バランシングネットワーク調整

- (1) 主装置の電源をOFFし、フロントカバーを取外します。
- (2) 調整対象となる回線を収容するSLTカードをカードラックより外し、該当するジャンパを「2-C」側に切替えます。
- (3) SLTカードを元の位置へ戻しCCMTSカードのSW2が「HOLD」側にあることを確認し、電源をONします。
- (4) **バランシング**ボタンのある専用電話機よりバランシングモードを起動し「バランシング (SLT)」を選択します。



- (5) バランシングモードを起動した専用電話機の手話器より、①～⑤の音を聞きながらVRを回し、音量が最小になる所にセットします。
(調整終了)
- (6) 調整が終了したら**バランシング**ボタンを押し、待機状態へ戻します。

ドアホンカード取付工事説明書

概要

- ・ドアホンカードはドアホン、拡声機及び来客センサ等を収容する場合に使用します。
- ・各、外部接続機器については、推奨品を御使用ください。
- ・ドアホンカードは、主装置1台につき、1枚実装可能です。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・ドアホンカード……1枚
- ・工事説明書……1部
- ・ビス (M3×6) ……2本

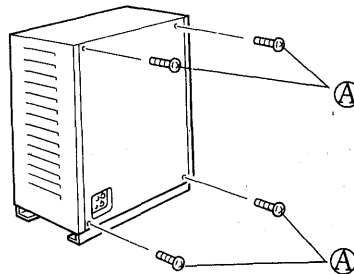
取付方法

1. 主装置電源をOFFします。

注意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを“OFF”にしてください。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビス④ (4本) を外し、フロントカバーを取外す。

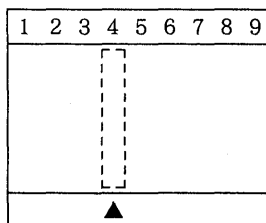


3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装します。

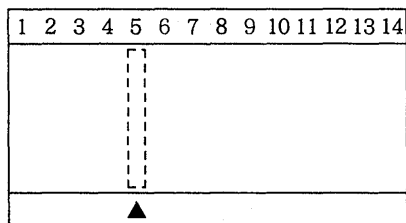
主装置	スロット No.
DIGI16i	4
DIGI32i	5

*ドアホンカードは実装可能なスロットが1ヶ所しかないのでここに音声応答もしくはデータ出力カードが実装されている場合、これらを他のスロットへ移動して下さい。

DIGI16i

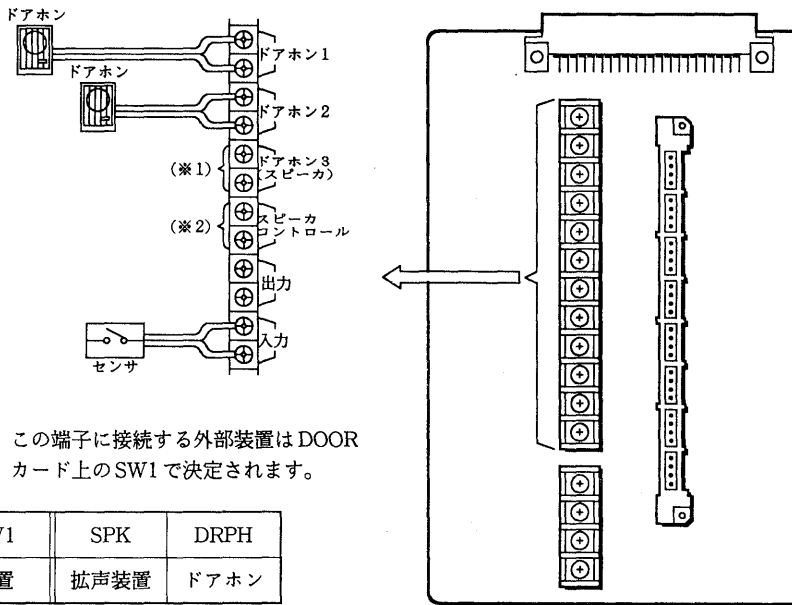


DIGI32i



4. MDFカード上の配線

- ・ドアホン及び各外部装置の接続ケーブルを端子台のビスで固定します。



(※1) この端子に接続する外部装置はDOORカード上のSW1で決定されます。

SW1	SPK	DRPH
装置	拡声装置	ドアホン

(※2) ドアホン3に接続される拡声装置にコントロール端子がある場合この端子に接続します。

5. ドアホンユニットの取付方法

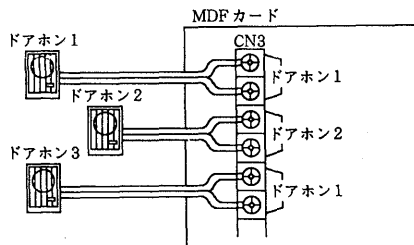
- ・ドアホンとドアホンカード間の線路抵抗はループで20Ω以内にする。

- ・ドアホン3にドアホンを接続する場合、ドアホンカード上のSW1の設定を「DRPH」にセットしてください

<推奨品>

メーカー名	品名
キャノン販売	DOOR-JCS

<接続例>



6. 拡声装置の取付方法

- ・拡声装置とMDFカード間のケーブル長は17m以内にして下さい。

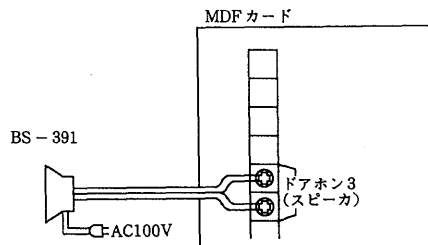
(17mを超える場合は中継アンプが必要です。)

- ・ドアホン3に拡声装置を接続する場合、ドアホンカード上のSW1の設定を「SPK」にセットして下さい。

<推奨品>

メーカー名	品名
キャノン販売	CS-191

<接続例>



7. リモート付拡声装置（アンプスピーカ分離型）の取付方法

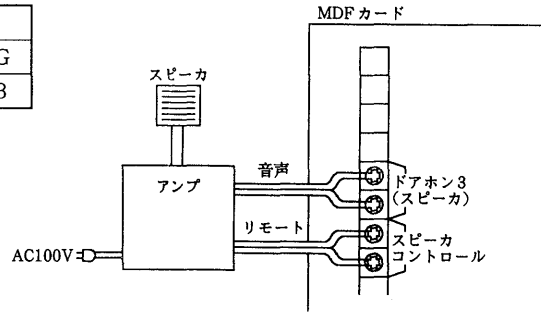
・拡声装置とMDFカード間のケーブル長が17mを超える場合、中継アンプをういます。

・ドアホンカード上のSW1を「SPK」にセットして下さい。

<推奨品>

<接続例>

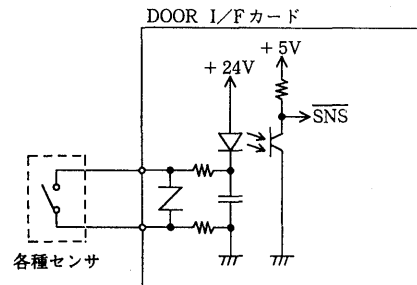
	メーカー品	品名
アンプ	ノボル電機	FG-10G
スピーカ	ノボル電機	BS-313



8. 入力端子の取付方法

・オープンショートのSW（マイクロSW等）を接続して使用します。

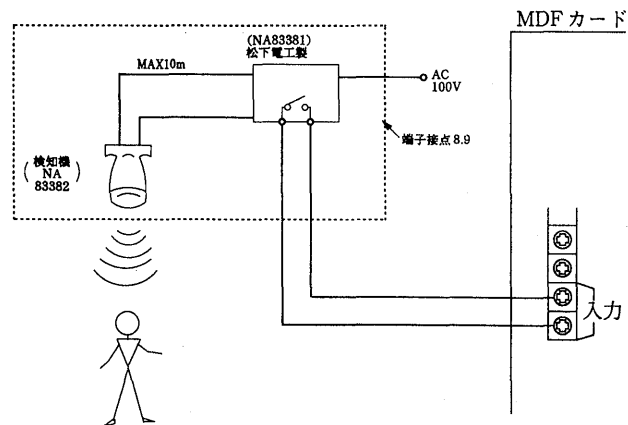
・SWがONするとSNS信号が“H”から“L”になり、センサが検知したことを主装置に知らせます。



(例) 来客検知機の接続

<推奨品>

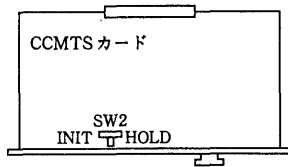
	メーカー品	品名
コントローラ	松下電工	NA83381
検知機	〃	NA83382



システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDF カード上にショートの原因になる様な異物がありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

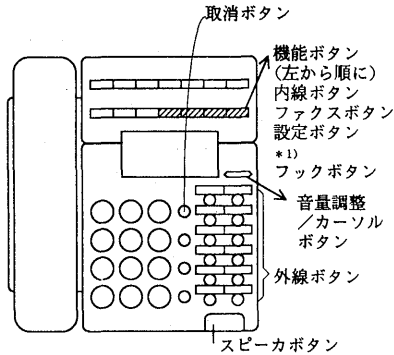
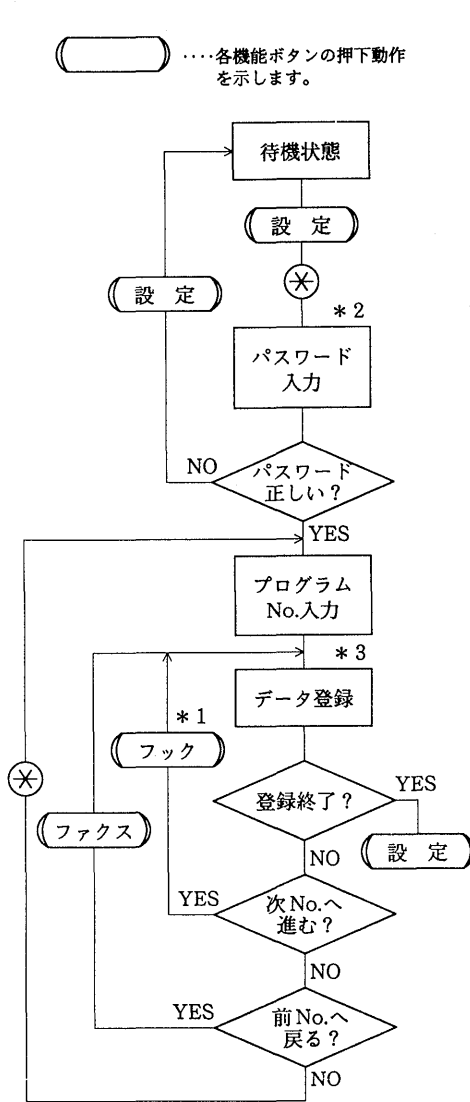
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p>正常時 電源ON後イニシャルチェック中(約10秒間)点灯し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p>異常時</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
3DRPH	LED1	緑	ドアホン1 状態表示	収容しているドアホンまたは拡声装置の切替リレードライブを監視している。
	LED2		ドアホン2 状態表示	
	(無)		ドアホン3 状態表示	

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



- * 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)
- * 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“*”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)
- * 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。
 - (a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
 - (b) 外線別データ、内線別データ
 - i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力（“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします）
 - ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
 - (c) NCCデータ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

(1) システムデータ

プログラムNo.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備考
118	予告音	アリ・ナシ	アリ	“アリ”にてドアホン呼び出しの時、予告音を送出する
130	ドアホン着信音	1~3	111	ドアホン1~3の着信音の種類を登録

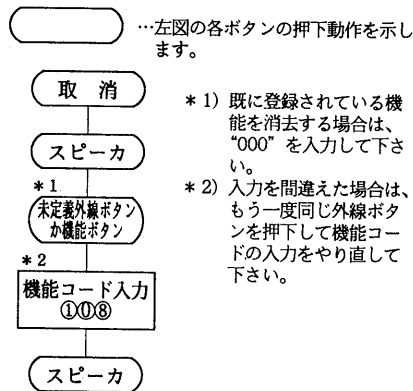
(2) 内線別データ

プログラムNo.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備考
310	ドアホン着信音	0: なし 1: あり	内線端子番号01のみ 111 その他 000	左から順にドアホン1~3に対応

動作チェック

[1] フレキシブルキーアサインによる機能ボタン割りつけについて

以下の手順により未定義外線ボタンに機能ボタン（ドアホン）を割りつけます。



[2] ドアホンの着信に対して電話機で対応する。

(1) 自電話機への着信

〈ドアホン着信音〉—(オフフック)—〈通話中〉

(2) 他の電話機への着信

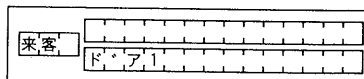
〈他の電話機に着信〉—(ドアホン)—〈通話中〉

(3) SLTでの着信

〈内線発信状態〉—(9)(0)—〈通話中〉

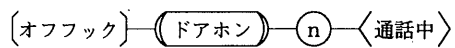
- i) 応答は着信音鳴動後、10秒間有効です。
- ii) ドアホンはシステムで最大3台まで接続できます。
- iii) 着信音は通常の内線着信音と異なり、ピンポンと鳴ります。また、ドアホン子機にもピンポンと鳴ります。
- iv) 構内放送設備を使用中の場合、本機能は使用できません。
- v) SLTにおいては着信音が鳴りません。

※ドアホン1からの着信時のLCD表示



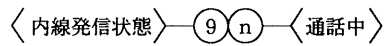
[3] 電話機からドアホンを呼び出して通話する。

(1) 専用電話機の場合



n: ドアホン番号 (1-3)

(2) SLTの場合



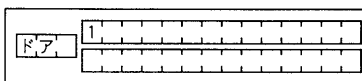
i) データ設定によって<プログラムNo.118>予告音を双方に送出したり、停止したりできます。

ii) 同時に複数のドアホン呼び出すことはできません。

iii) ドアホン着信中は、そのドアホン及び他のドアホンへの呼び出しはできません。

iv) 構内放送設備を使用中の場合、本機能は使用できません。

※ドアホン1への呼び出し中のLCD表示



調整

バラシングネットワーク調整

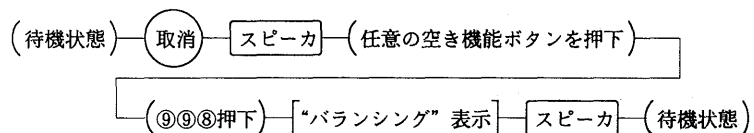
ドアホン使用時にハウリングを起こしている場合は該当回路のバラシングネットワークを調整して下さい。

① バラシングモードボタンの設定

バラシングネットワークの調整は、主装置バラシングモードにて行います。尚、バラシングモードを使用する為には専用電話機にバラシングモードボタン（以下「バラシング」ボタンと呼ぶ）を設定する必要があります。

<設定方法>

- ・任意の機能ボタンに「998 バラシング」を設定します。

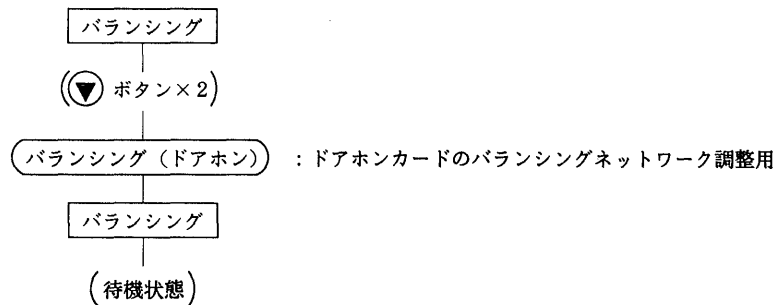


*空きボタンがない場合、「000」を入力し設定済のモードを取消することができる。

② バラシングモード

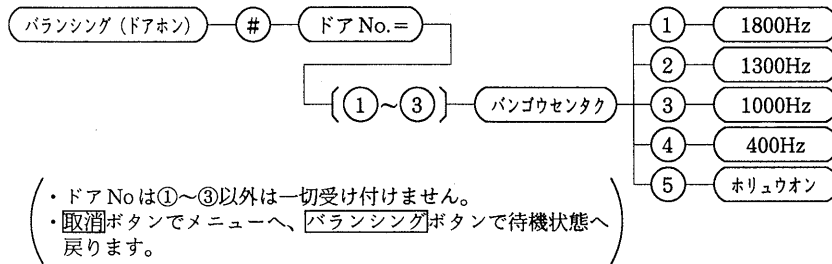
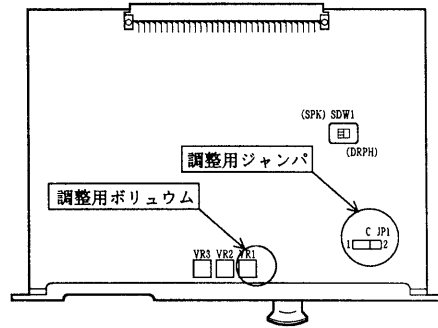
一旦バラシングボタンを設定すると、これを押すだけでバラシングモードへ移行できます。

<バラシングモード>



③ バランシングネットワーク調整

- (1) 主装置の電源をOFFし、フロントカバーを取外します。
- (2) ドアホンカードをスロットより外し、JP1を「2-C」側に切替えます。
- (3) ドアホンカードを元の位置へ戻し CCMTS カードのSW2が「HOLD」側にあることを確認し、電源をONします。
- (4) **バラ**ンシングボタンのある専用電話機よりバランシングモードを起動し「バランシング (ドアホン)」を選択します。

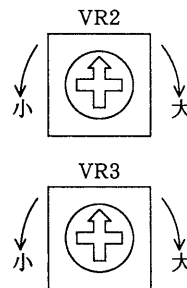


- ・ドアNoは①~③以外は一切受け付けません。
- ・**取**消ボタンでメニューへ、**バラ**ンシングボタンで待機状態へ戻ります。

- (5) テストモードを起動した専用電話機を受話器より、①~⑤の音を聞きながら VR1を回し、音量が最小になる所にセットします。
(調整終了)
- (6) 調整が終了したら **バラ**ンシングボタンを押し、待機状態へ戻します。

送・受話音の調整

- ① 電話機からドアホンへの送出音は VR2にて調整可能です。
- ② ドアホンから電話機への受話音は VR3にて調整可能です。



データ出力カード取付工事説明書

概要

- ・データ出力カードは、システムデータや課金データを主装置に接続されたファクシミリに出力する場合に使用します。
- ・データの出力は、単独電話機（SLT）用回線やFAXアダプタ付の専用電話機に接続されたファクシミリを使用します。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・データ出力カード……1枚
- ・ビス（TP M3×6）……2本
- ・工事説明書……1部

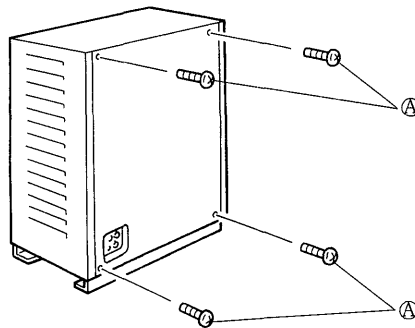
取付方法

1. 主装置電源をOFFします。

注意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが"ON"になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを"OFF"にして下さい。

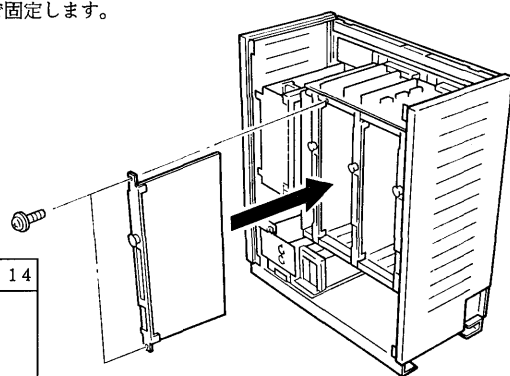
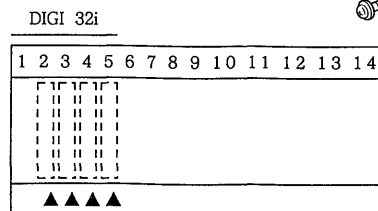
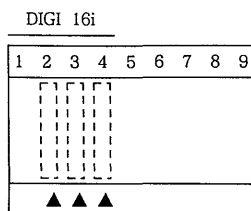
2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビス①（4本）を外し、フロントカバーを取外す。



3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに装着し、ビス（2本）で固定します。

主装置	スロットNo.(* 1)
DIGI 16i	2, 3, 4
DIGI 32i	2, 3, 4, 5

* 1. どのスロットにも実装が可能です。



ファクシミリの接続

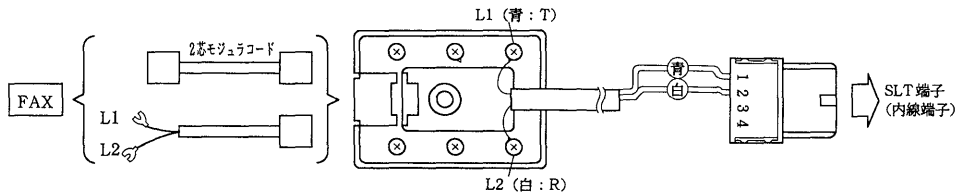
1. SLT (単独電話機) 回線への接続

- ・主装置のSLT端子に既にFAXが接続されている場合、このFAXを使用します。
- ・主装置にFAXが接続されていない場合、SLT端子にFAXを接続します。

標準SLT端子

主装置	接続端子
DIGI 16i	内線16
DIGI 32i	内線21, 22

ファクシミリの接続



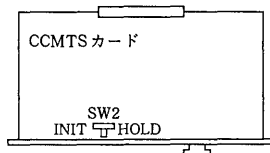
2. 専用電話機への接続

- ・専用電話機へファクシミリを接続するには「FAXアダプタ」が必要です。接続方法につきましては、FAXアダプタ工事説明書を参照して下さい。

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDFカード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

< LEDチェック >

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

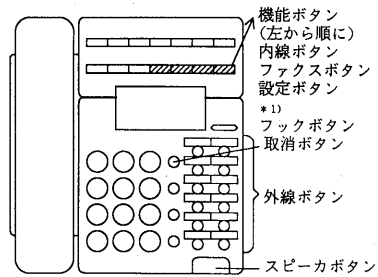
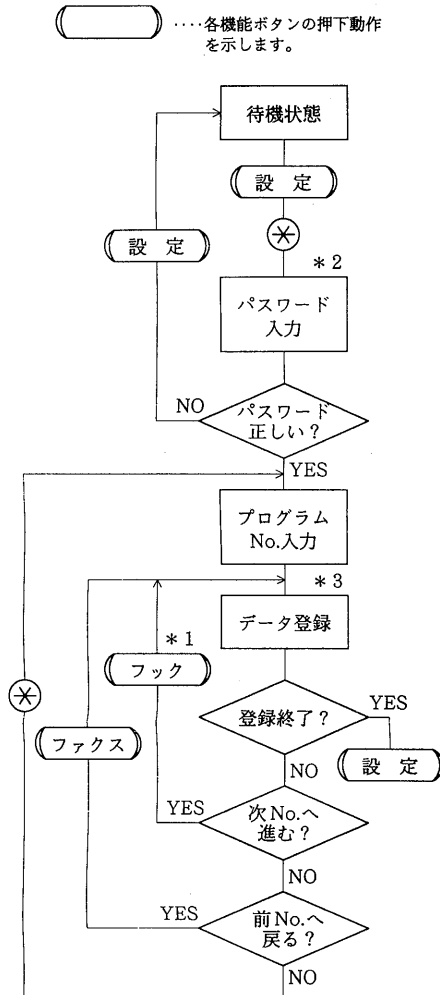
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p>正常時 電源ON後イニシャルチェック中(約10秒間)点灯し、その後周期的(5秒間隔)に点灯する。</p> <p>異常時</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ登録は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



- * 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)
- * 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“*”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)
- * 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。
 - (a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
 - (b) 外線別データ、内線別データ
 - i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力（“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします）
 - ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
 - (c) NCCデータ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

システムデータ

プログラムNo.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
315	優先転送先FAX		16	DIGI 32iにおいては“21”。ファクス出力の時、優先的に着信させる内線端子番号を登録

動作チェック

以下に示す操作により各種のデータリストをFAXに出力することができます。

各種データ出力リスト一覧

リストの種類	出力操作
システム短縮ダイヤルリスト	(設定) — (短縮) — (ファクス) — ① ②
電話機別短縮ダイヤルリスト	
電話機別ボタン定義リスト	
運用データ (システム、外線別、内線別データ) リスト	(設定) — ⊗ — ①⑨⑨① — (ファクス) — ① パスワード ② ③
システムデータリスト	
外線別データリスト	
内線別データリスト	
通話料金集計リスト1	(設定) — (ファクス) — ① ②
通話料金集計リスト2 (リスト出力後料金データクリア)	
通話明細リスト (リスト出力後通話明細データクリア)	

- (1) ファクスボタン押下後は、LCDは通常表示になります。(出力中はファクスボタン点灯)
- (2) 出力するファクスが使用中の場合は、1分間待ちます。しかし、1分過ぎててもまだ使用中の場合は出力されません。

※データの出力先は、データ設定<プログラムNo.315>によって他のファクス接続先に変更できます。(ファクスアダプタを介して接続したファクスへの出力も可能です。詳細はファクスアダプタの工事説明書を参照願います)

音声応答カード取付工事説明書

概要

・音声応答カードを取付けることにより、音声応答機能、音声伝言メッセージ、通話メモなどの機能が使用できます。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

・音声応答カード……1枚 ・工事説明書……1部 ・ビス……2本

取付方法

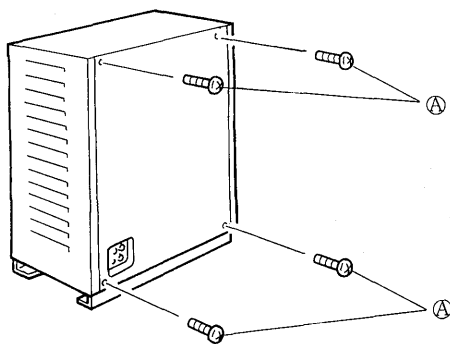
1. 主装置電源をOFFします。

注意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると、主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを“OFF”にしてください。

2. 主装置のフロントカバーを取り外します。

ビス④（4本）を外し、フロントカバーを取外す。



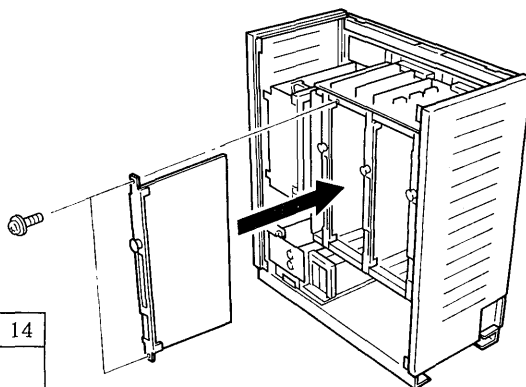
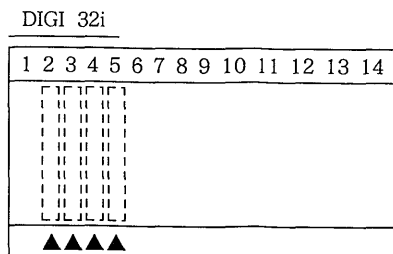
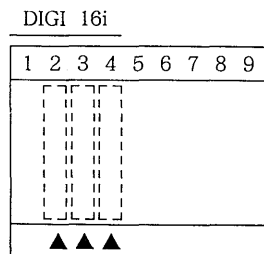
3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに装着し、ビス（2本）で固定します。

主装置	スロット No. (*1)
DIGI 16i	2, 3, 4
DIGI 32i	2, 3, 4, 5

注意

音声応答機能を使用する時は必ずスロット2に実装して下さい。

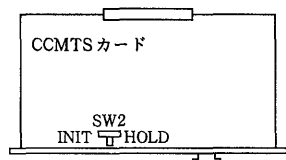
*1. 表中のスロットの範囲であれば何枚でも実装可能です。



システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDF カード上にショートの原因になる様な異物がありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32 カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

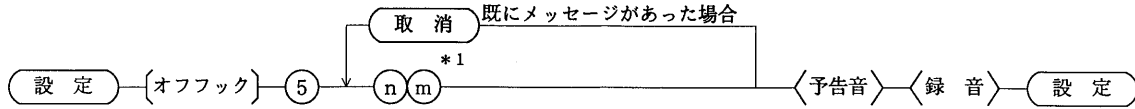
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点灯し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

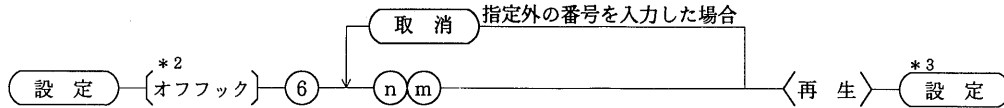
動作チェック

メッセージ録音（マスター電話機のみ可能）

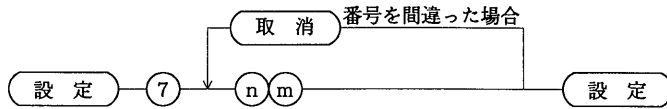
(1) メッセージの録音



(2) メッセージの再生



(3) メッセージの消去



*1) n: メッセージタイプ (n=1: 16秒メッセージ, n=2: 8秒メッセージ)

m: メッセージ番号 (n=1の場合: 1~4, n=2の場合: 1~8)

11~14: 音声応答に使用する。21~28: DIDに使用する。

*2) オフフックしなければ、スピーカから再生します。

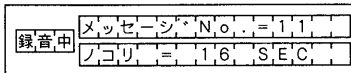
*3) 設定ボタンを押下するまで、再生を続けます。

※DIDにおいて音声メッセージでの応答に設定<プログラムNo.214>する場合のDIDメッセージID (プログラムNo.215) は上記のメッセージ番号の21~28に対応しています。また、音声応答の1~4は、11~14に対応します。

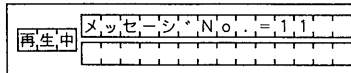
注) 音声応答機能使用時は音声応答カードをスロット2に挿入して下さい。

< LCD表示 >

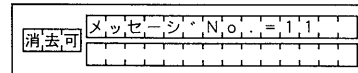
a) メッセージ録音中



b) メッセージ再生中



c) メッセージ消去中



システム間接続カード取付工事説明書

概要

- ・システム間接続カードは、DIGI 16iもしくはDIGI 32iを用いたシステム同士を接続するために使用します。
- ・システム間接続カード1枚につき、2台の主装置が収容可能です。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・システム間接続カード…1枚
- ・工事説明書……………1部
- ・クイックコネクタ……………3ヶ
- ・ビス (M3×6) ……2本

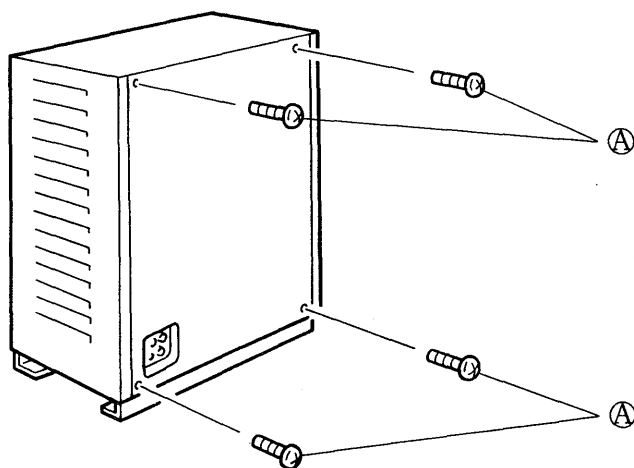
取付方法

1. 主装置電源をOFFします。

注意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを“OFF”にしてください。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビス① (4本) を外し、フロントカバーを取外す。

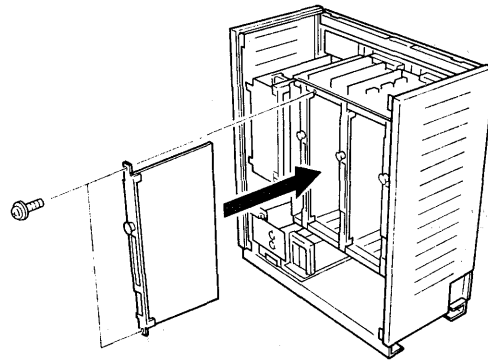


3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装しビス（2本）で固定します。

主装置	スロット No. (*1)
16ポート	5 (*2), 6, 7, 8,
32ポート	6 (*2), 7, (*2), 8, 9, 10, 11, 12, 13

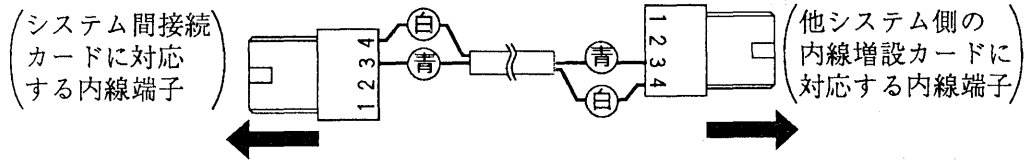
*1: どのスロットにでも実装可能です。

*2: 標準で4DLCが実装されています。

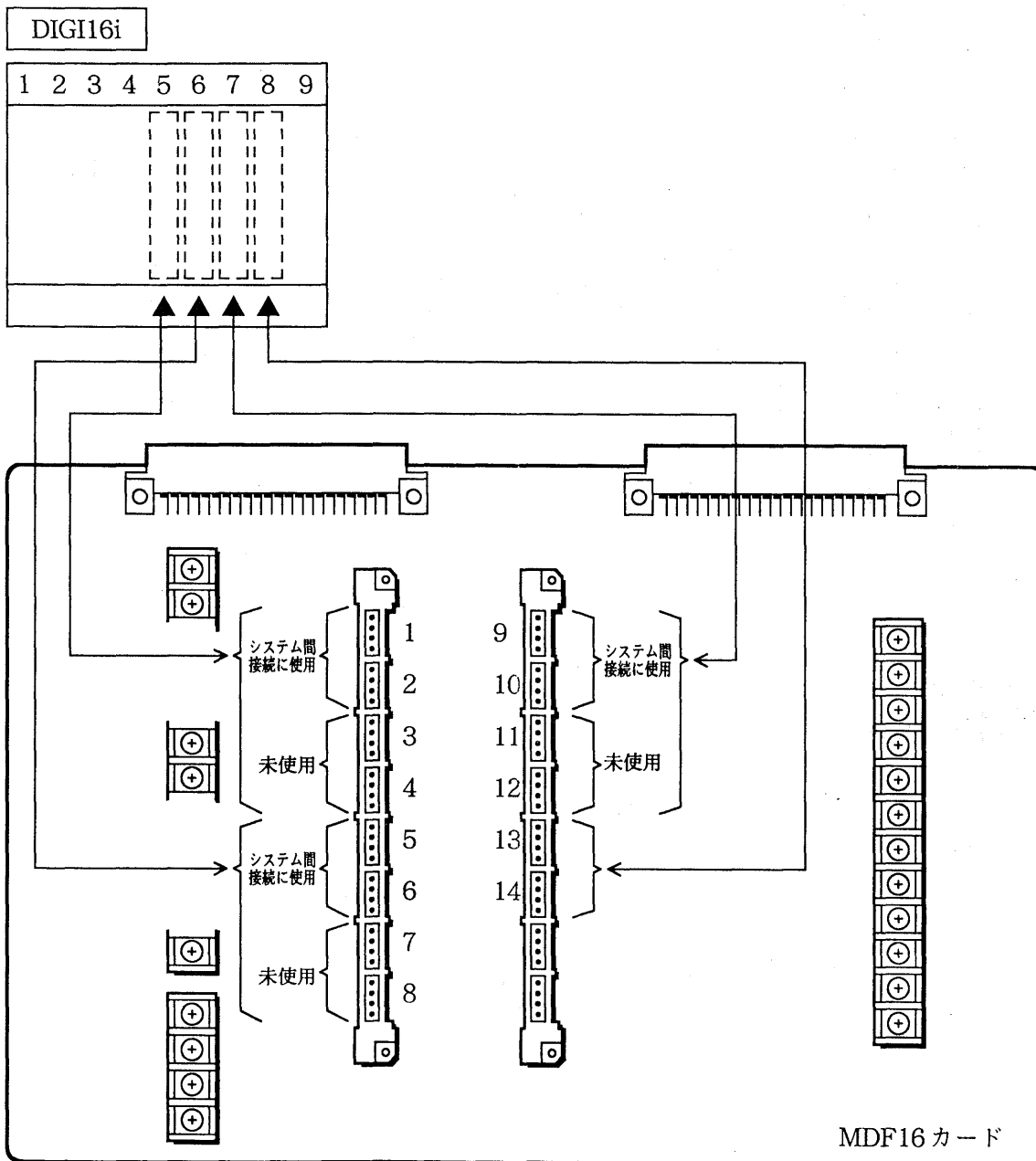


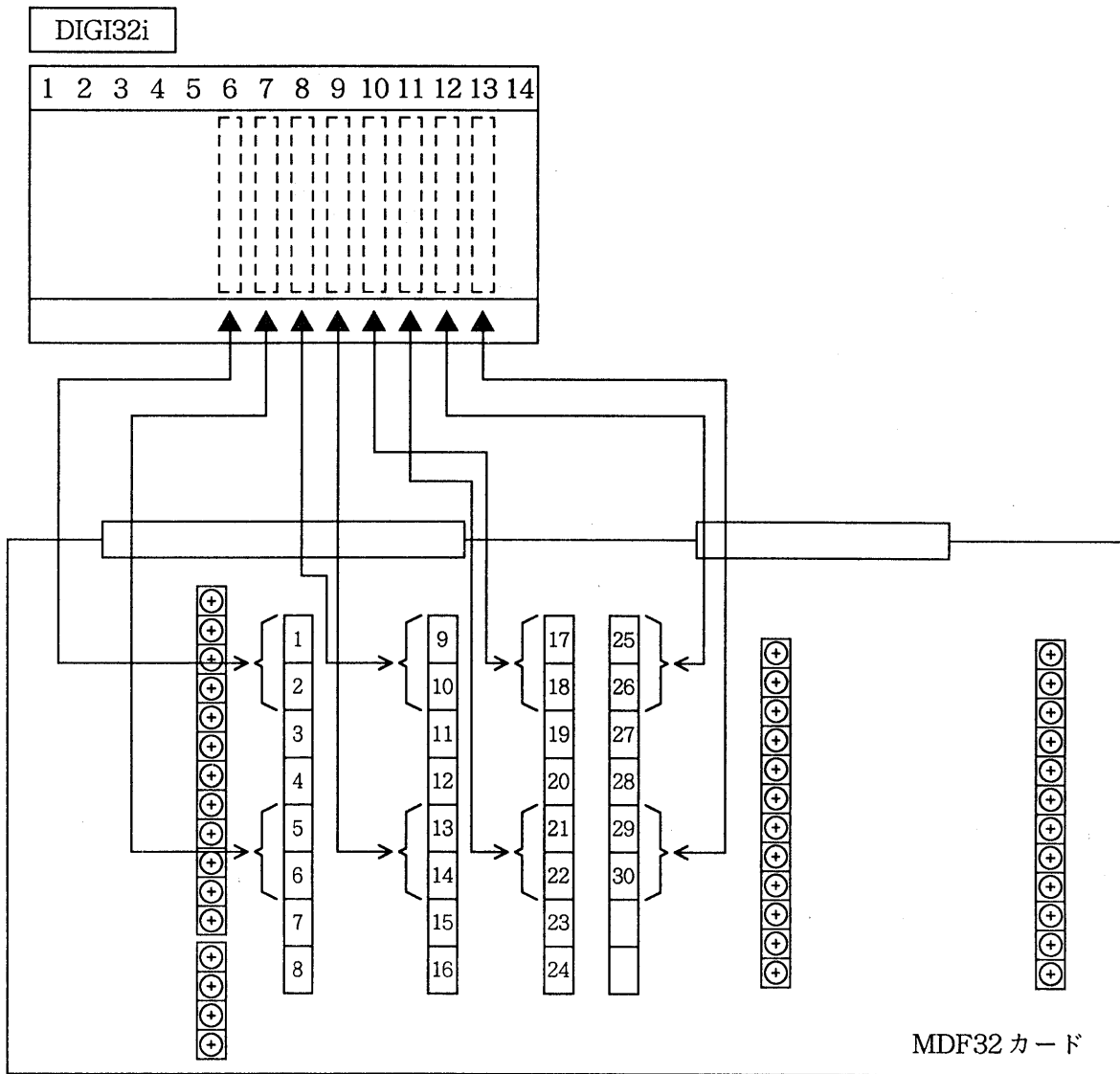
4. MDFカード上の配線

- ・システム間接続にはクイックコネクタを以下の様に接続したケーブル（1本）を用いて接続します。



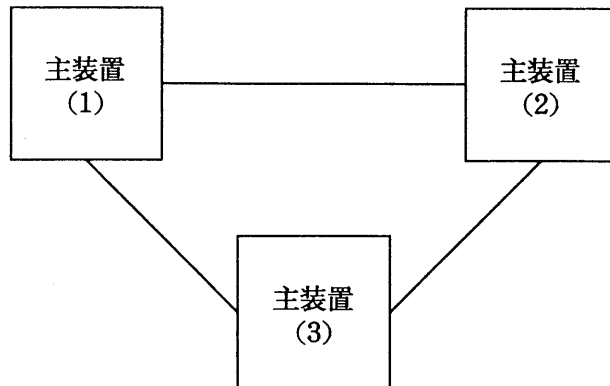
- ・実装スロットに対応する内線端子（×4）のうち内線（n）と（n+1）を使用し、残り2つ（n+2, n+3）は使用しません。





配線上の注意

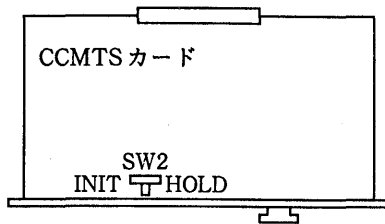
システム間接続カードを実装すると主装置2台が接続可能となりますが、このとき構築できるシステムは3台構成までとします。



システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDF カード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

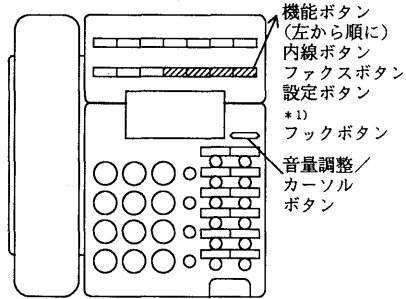
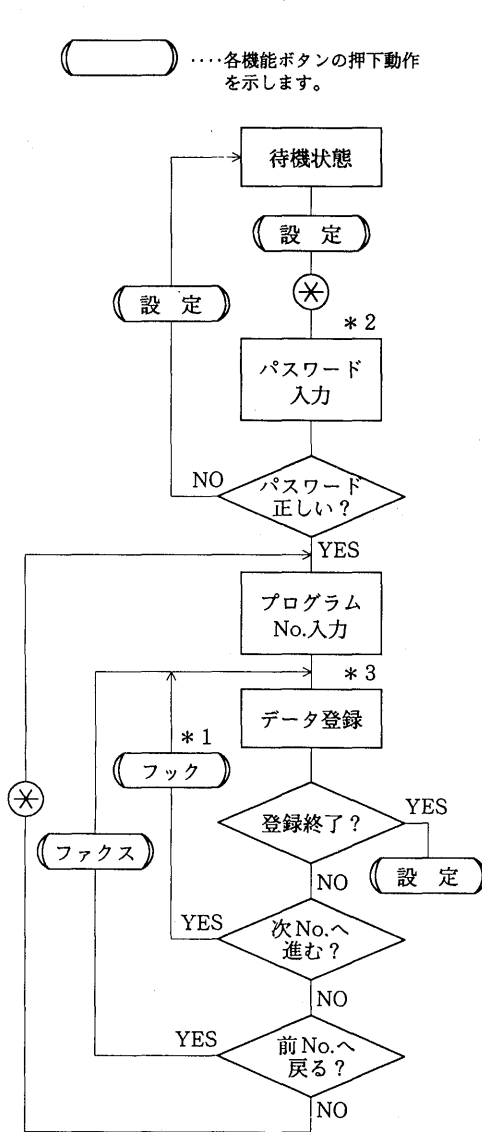
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点灯し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
2SSC	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点滅し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー（カードの挿入位置誤り） 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



* 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

* 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“*”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

* 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大－順方向スクロール、音量小－逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないません。

(b) 外線別データ、内線別データ
i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力（“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします）

ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択（音量大－順方向スクロール、音量小－逆方向スクロール）もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCC データ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

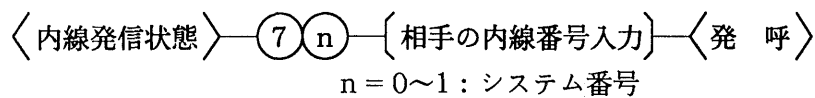
内線別データ

プログラム No.	サービス名称	データ可変範囲	初期値	備 考
322	システム番号	0, 1	0	

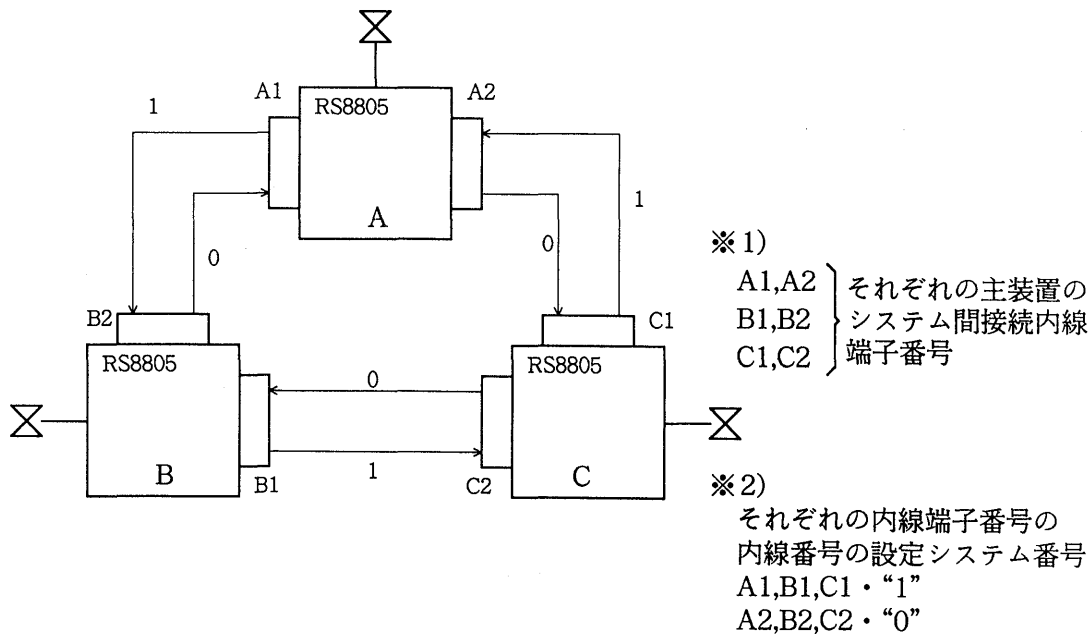
動作チェック

以下に3台でのシステム間の接続概略図と発信方法を示します。

○発信方法



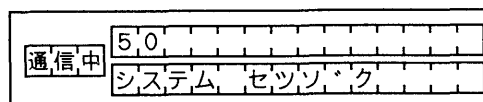
注) システム番号nは、システム間接続に使用している自分の内線番号の設定値〈プログラムNo. 322〉です。(3台で接続をする場合には、2つの接続内線端子のシステム番号が同じにならないようにして下さい。)



※3) 他のシステムへの発信方法

A → B	〈内線発信状態〉 71 + 相手先内線番号	A → C	〈内線発信状態〉 70 + 相手先内線番号
B → C		B → A	
C → A		C → B	

※ 他のシステムの内線 (例: 内線番号50) とシステム番号“0”を設定した、システム間接続をしている内線の通話中のLCD表示



モデム接続カード取付工事説明書

概 要

- ・モデム接続カードは、モデムプール機能に用いるモデムを主装置に収容するために使用します。
- ・モデム接続カードは、SLTカード上に取付けるため、DIGI 16iの場合SLTカードの増設が必要です。2SLTもしくは、4SLTカードを御用意下さい。
(DIGI 32iは、標準で2SLTカードを実装しています。)
- ・モデム接続カードに接続可能なMODEM（推奨品）は以下のとおりです。

メーカー名	名 称
AIWA	PV-A シリーズ (PV-A2400MMNP4等)
NEC	COMSTAR シリーズ (COMSTAR2424AT15等)
EPSON	SR シリーズ (SR2400AT等)
OMRON	MD シリーズ (MD2400F等)

同 梱 品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・ MODEM カード……1 枚
- ・ カードスペーサ……3 ケ
- ・ Dsub ケーブル……1 ケ
- ・ 工事説明書……1 部
- ・ スペーサ用ビス……6 ケ
- ・ Dsub 用ビス……2 ケ

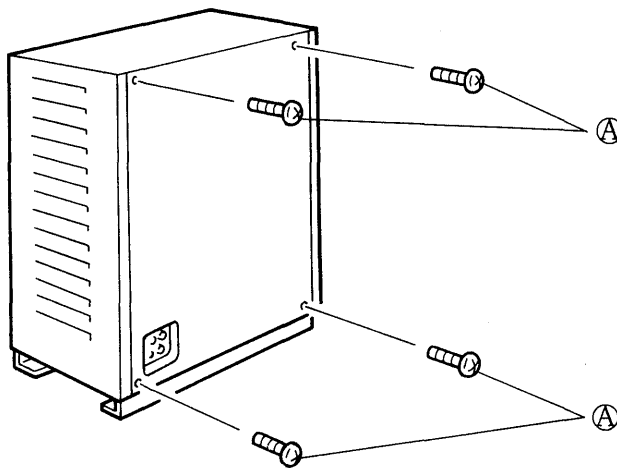
使用方法

1. 主装置電源をOFFします。

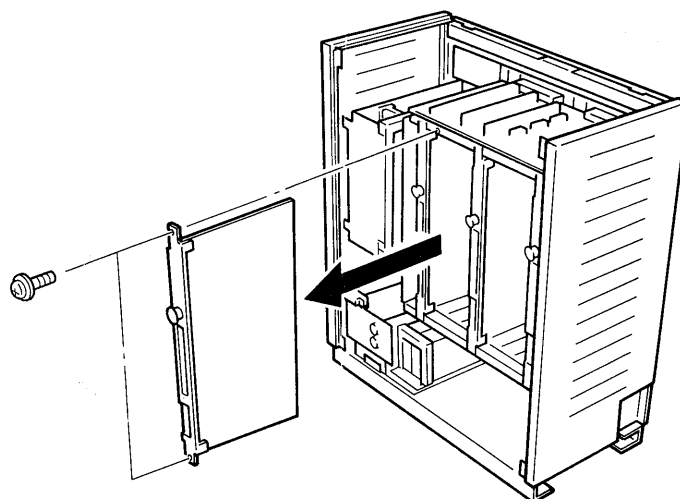
注 意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源SWを“OFF”にして下さい。

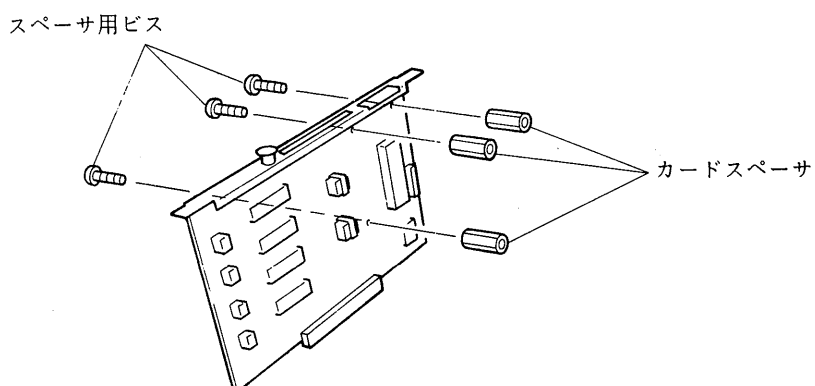
2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビス① (4本) を外し、フロントカバーを取外す。



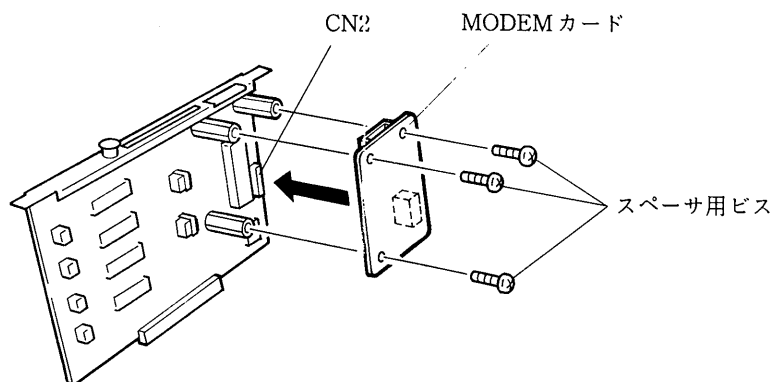
3. 主装置よりSLTカードを取外します。



4. SLTカード上にカードスペーサ（3ヶ）を取付けます。



5. SLTカード上のコネクタ（CN2）にカードを取付けます。

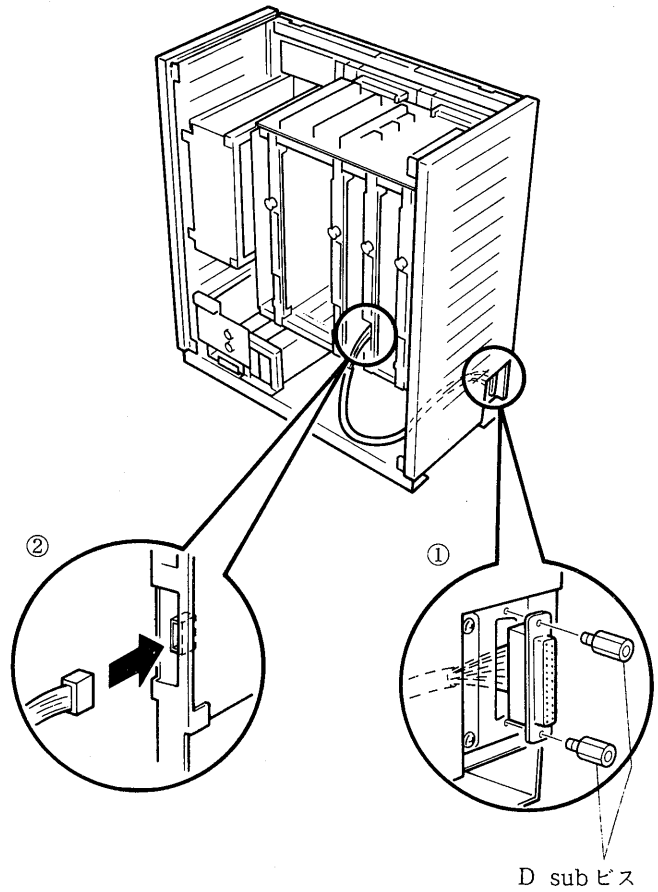


6. SLTカードを主装置内の元の位置へ取付けます。

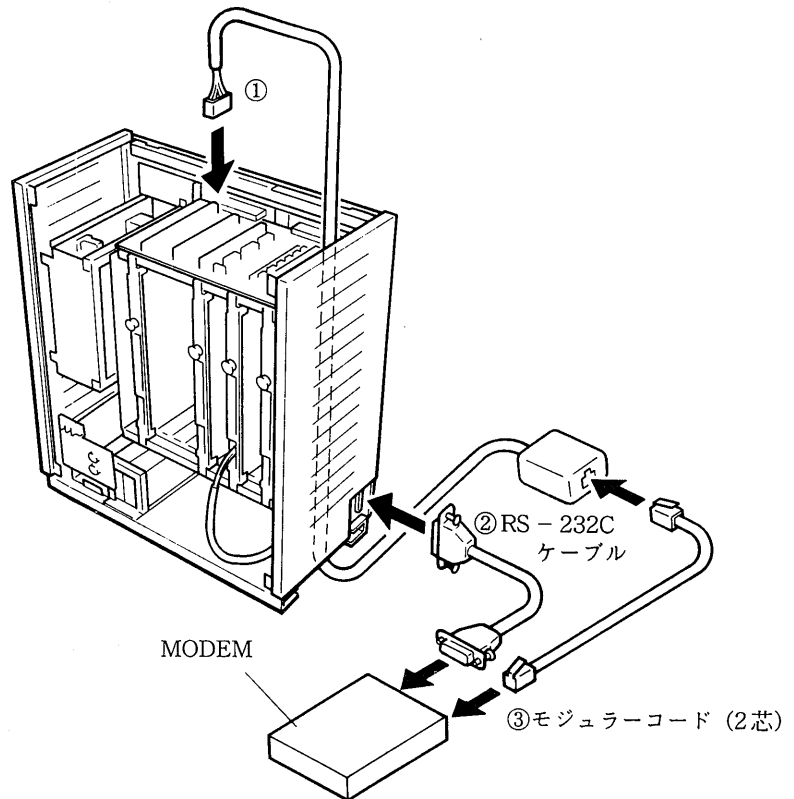
尚、SLTカードを新規で増設する場合は、SLTカードの工事説明書を参照して下さい。

7. 主装置にケーブルを取付けます。

- ① 先にケーブルをコネクタホルダに通した後、付属のDsub ビスでコネクタを固定する。
- ② ケーブルをモデム接続カード上のコネクタ (CN2) に接続します。



8. 主装置にMODEMを接続します。

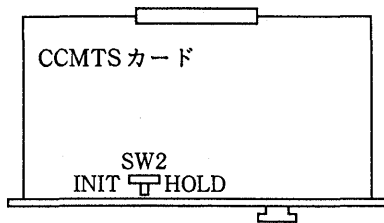


- ① “モデム (SLT)” に設定する端子に接続します。
(配線ケーブルはSLT用と同じものを使用します。)
- ② RS - 232Cケーブルで主装置とモデムを接続します。
- ③ モジュラコード (2芯) で、SLT端子とモデムを接続します。

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDF カード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

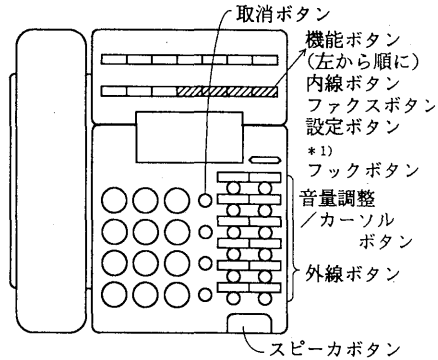
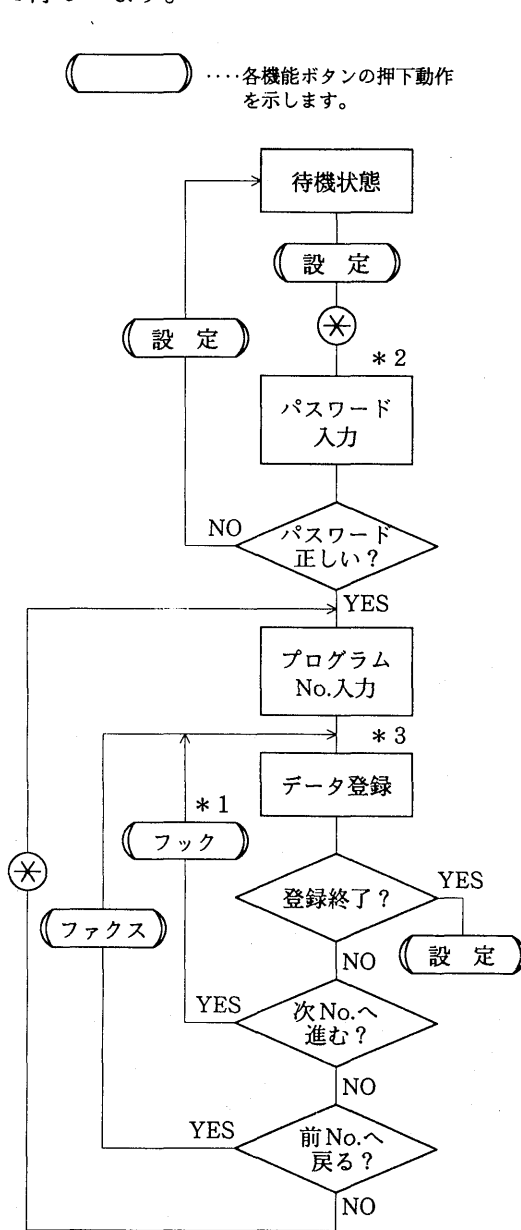
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点灯し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生の際I/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
4/2SLT	CHK	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点滅し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー（実装スロットが間違っている場合等） 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ登録は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



*1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

*3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択(音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール)もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(b) 外線別データ、内線別データ
i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力(“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします)
ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択(音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール)もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCCデータ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

内線別データ

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
301	電話機タイプ	SLT 端末のみ選択可 ファクス・ムメイドウファクス モデム (SLT)・ モデム (RS - 232C) SLT		取り付けた電話機により自動設定。SLT 端末では左記のデータから選択可。初期値は以下の通り。 DIGI16i 内線端子番号“16”のみ“ファクス”他は“SLT” DIGI32i 内線端子番号“21”のみ“ファクス”他は“SLT” 注1)
318	モデム接続先			内線端子番号を登録 注2)

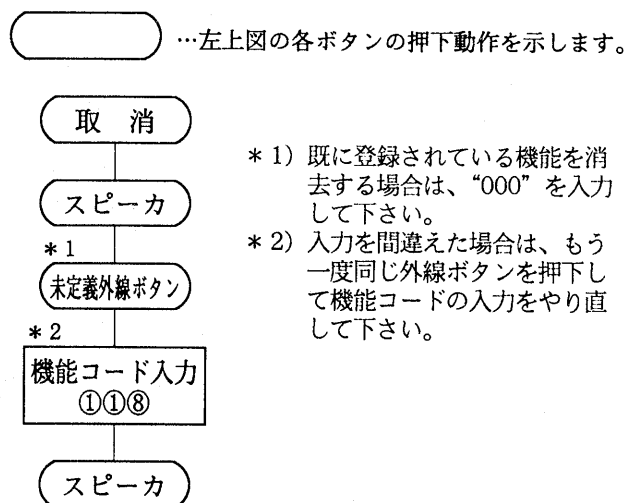
注1) モデムカードがある SLT I/F カード内の3番目の端子番号 (9, 10, 11, 12の場合、11) の内線番号の電話機タイプを“モデム (RS232C)”とし、モデムの2線側が接続される端子番号の電話機タイプを“モデム (SLT)”します。

注2) モデムのRS232C側と2線側を対応づけるため、上記のそれぞれの内線番号に相手の内線端子番号を設定します。

動作チェック

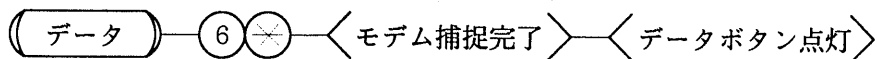
(1) フレキシブルキーアサインによる機能ボタン割り付け

以下の手順によりデータアダプタを取り付けた専用電話機の未定義外線ボタンに機能ボタン（データ）を割り付けます。



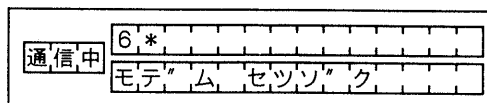
(2) モデム捕捉／解除（この他の機能については、サービスマニュアルの4-21項を参照願います。）

モデムプール方式で発信する場合は、発信に先立ってモデムを捕捉する必要があります。尚、この操作は専用電話機から行います。



- i) 捕捉の解除は、データボタンの押下により行います。（データボタン消灯）
- ii) モデムの捕捉は、発信先毎に行う必要はありません。
- iii) モデム捕捉状態において、自動発信もできます。（モデムレス着信はできません。）

* モデム捕捉中のLCD表示



ISDN 外線カード取付工事説明書

概要

- ISDN外線 (IST) カードは、ISDN (INS ネット 64) 回線を収容する場合に使用します。
- 2IST カードは ISDN2 回線、IST カードは ISDN1 回線の収容が可能です。
- 2/IIST カードの組み合わせで、DIGI16i で 3 回線、DIGI32i で 6 回線の ISDN 増設が可能です。
- 他のオプションが増設されている場合、増設数に制約があります。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ISDN 外線カード……1 枚
- 工事説明書………1 部
- ビス (M3×6)………2 本
- 終端抵抗………2 個 (1IST カード)
4 個 (2IST カード)

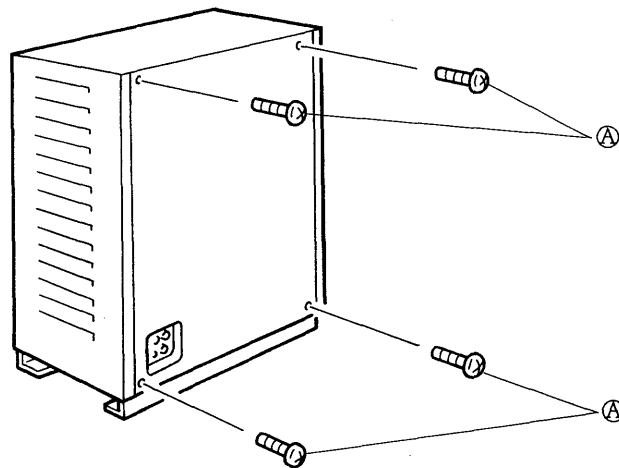
取付方法

1. 主装置電源を OFF します。

注 意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源 SW が “ON” になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源 SW を “OFF” にして下さい。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビスⒶ (4 本) を外し、フロントカバーを取外す。



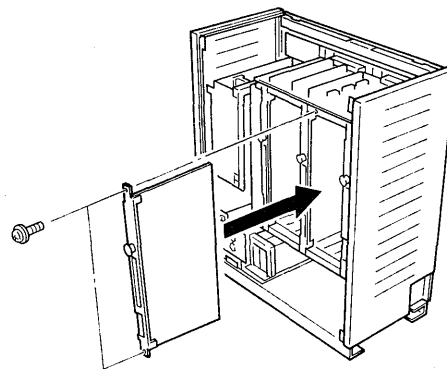
3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装し、ビス (2本) で固定します。

主装置	カード	スロット No. (* 1)
DIGI16i	1IST	8,9 (* 2)
	2IST	8
DIGI32i	1IST	12,13,14 (* 3)
	2IST	

* 1 : どのスロットにでも実装可能です。

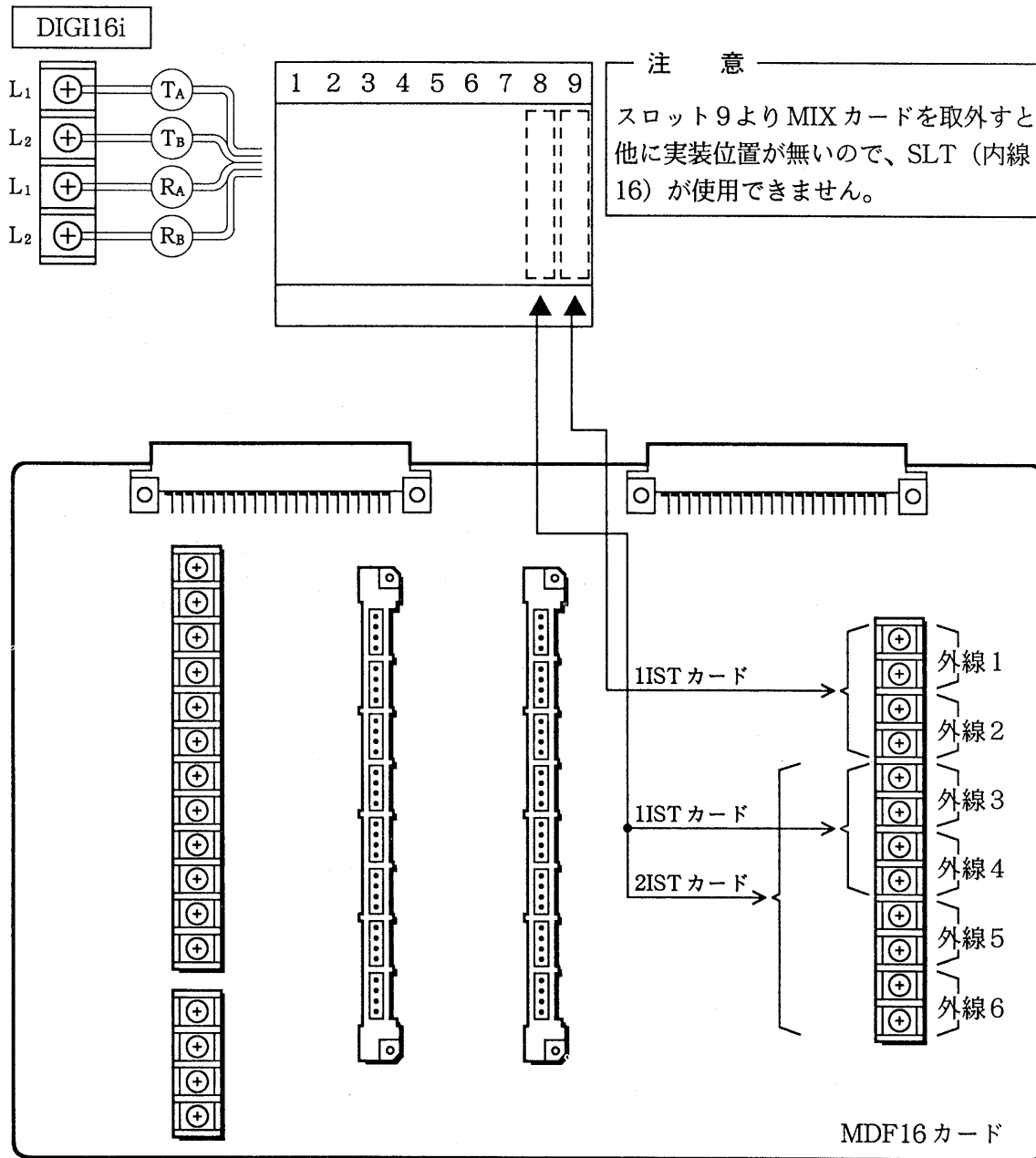
* 2 : 標準でMIXが実装されています。

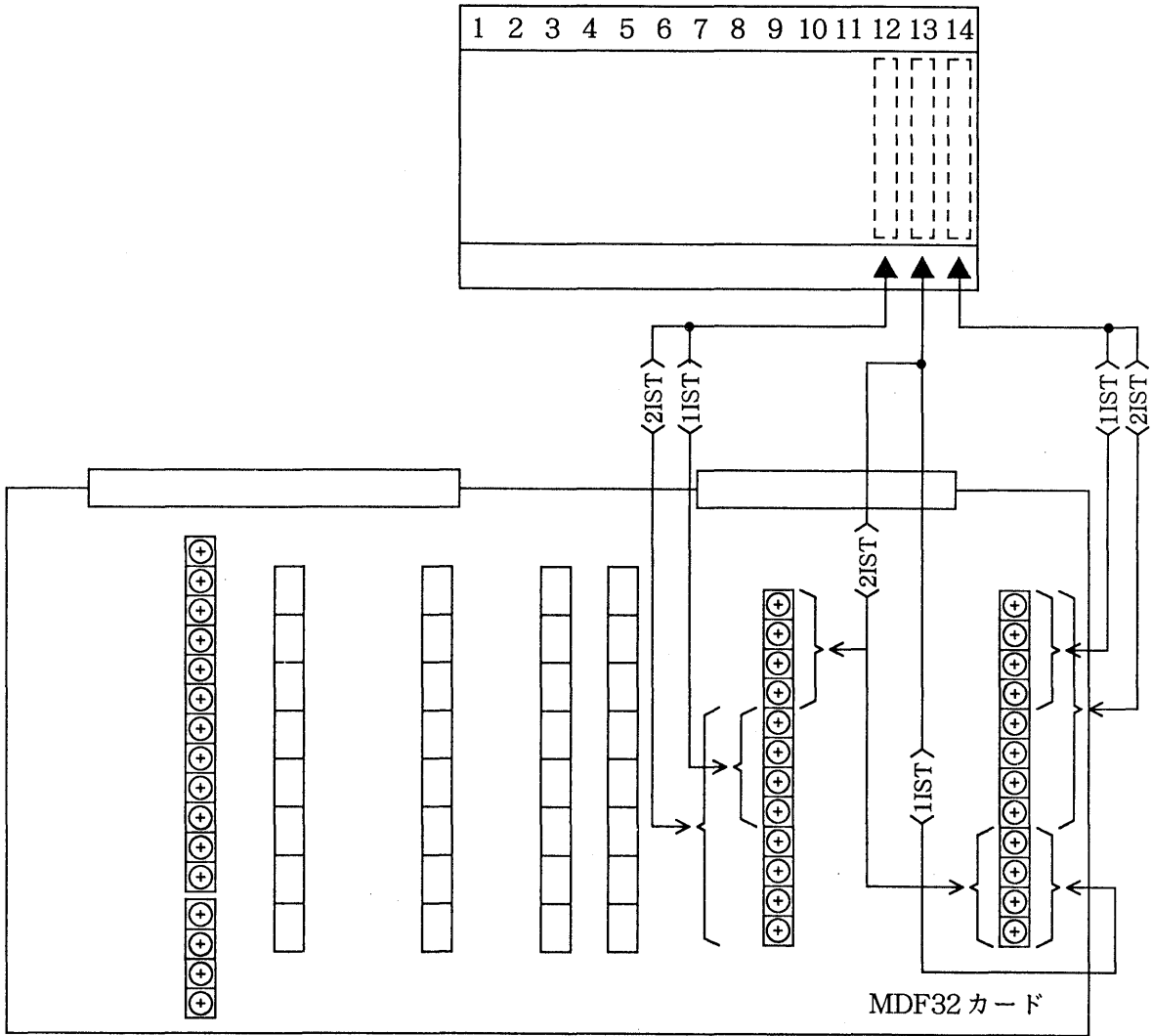
* 3 : 標準で4COTが実装されています。



4. MDFカード上の配線

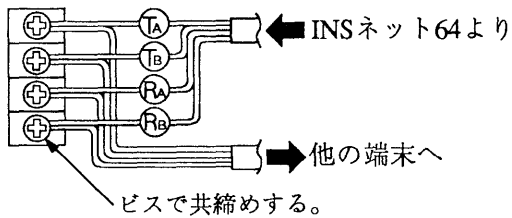
- INS ネット 64 回線は 1 回線につき、外線端子 2 回線分を使用し収容します。





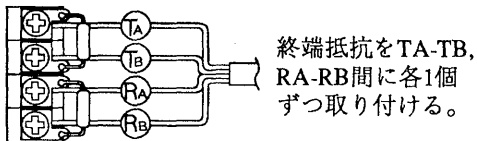
5. 外線端子への接続方法

(1) P-MP配線の途中に接続する場合



(2) P-MP配線の終端に接続する場合

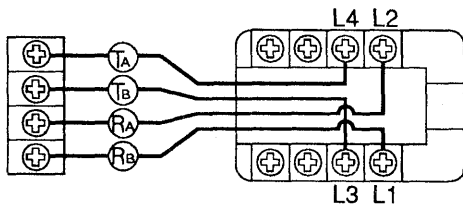
・本機用ISDN外線カードには終端抵抗を内蔵していません。従って本機をP-MP配線の終端に接続する場合、図のようにISDN外線増設カードに付属の終端抵抗をTA-TB間、RA-RB間に各1個ずつ端子台のビスで共締めして取り付けてください。



ローゼットを用いて終端抵抗付ローゼットに接続する場合は終端抵抗を付ける必要はありません。

(3) ローゼットを用いて接続する場合

・(1)、(2)の場合にISDN用ローゼットを用いて接続することで他の端末のようにISDNケーブルによる接続が可能です。



注意

本機が接続可能な回線の形態は次の通りです。

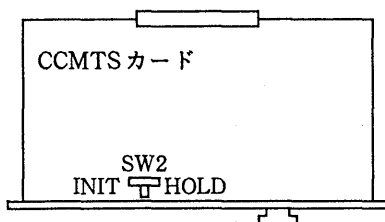
インターフェース形態：P-MP（ポイント-マルチポイント）配線

レイヤ1 起動種別：呼毎起動／常時起動

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDFカード上にショートの原因になる様な異物がありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

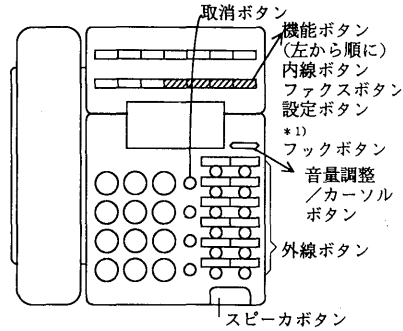
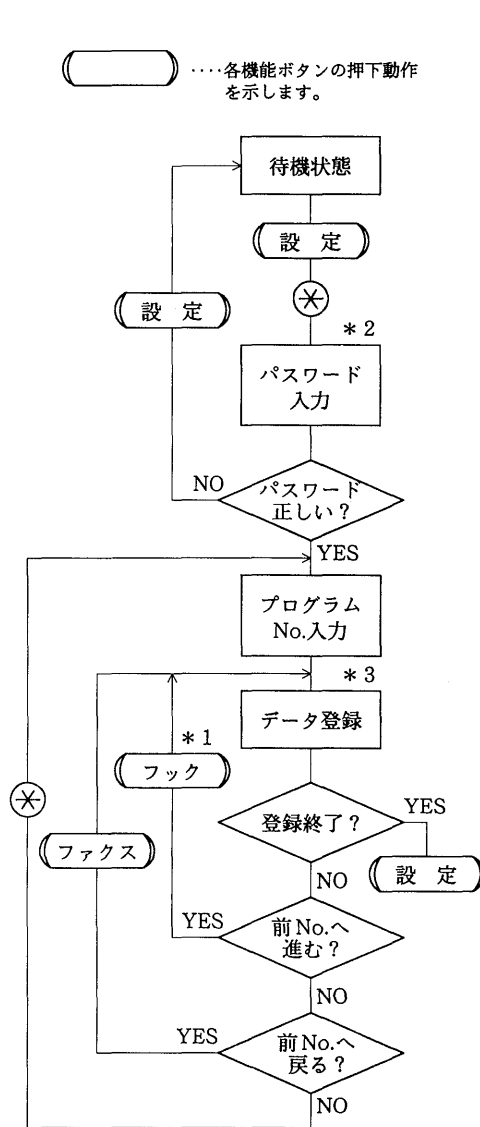
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点灯し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
1/2IST	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点滅し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー（カードの挿入位置誤り） 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



* 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

* 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“*”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

* 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(b) 外線別データ、内線別データ
i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力 (“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします)
ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCC データ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

(1) システムデータ

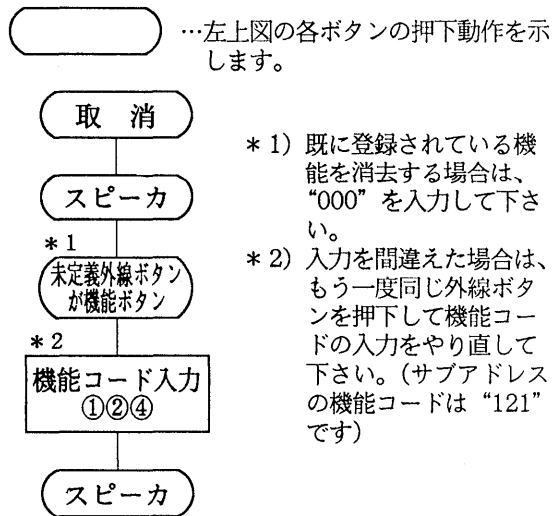
プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
132	ISDN 発呼番号通知	アリ・ナシ	アリ	“アリ”にてISDN回線での発呼者の番号をLCDに表示

(2) 外線別データ

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
205	発信テナント	0~5	1	同じ発信テナント番号をもつ電話機からのみ発信(“0”に設定した場合は共通テナント)
206	着信テナント	1~5	1	設定した番号と同じ内線グループの電話機に着信する。
207	発信可否	カノウ・フカ	カノウ	“フカ”に設定すると着信専用回線となる
208	着信音	チャクシンオン1~3	チャクシンオン1	3種類の着信音から外線ごとに着信音を登録可
219	INS インタフェース	I/F1 (P-M CALL) I/F2 (P-M EVER)	I/F1 (P-M CALL)	INS ネットと契約したインタフェース形態(呼毎起動・常時起動)の設定に合わせる。初期値は呼毎起動。
220	電話番号			最大10桁まで登録可

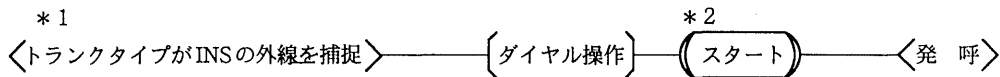
動作チェック

1. フレキシブルキーアサインによる機能ボタン割りつけについて
右の手順により未定義外線ボタンに機能ボタンを割りつけます。

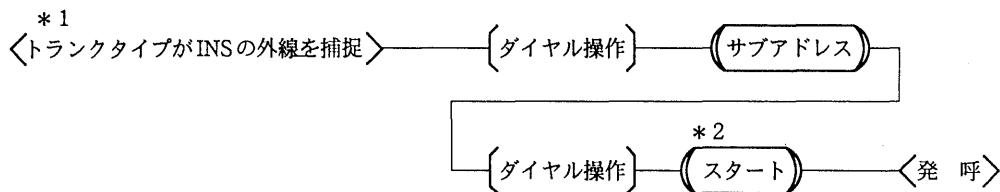


2.

(1) 発信



(2) サブアドレス発信



(3) 着信

- i) ISDN 網からの着信を着信音と LCD 表示により知らせます。
 - ii) サブアドレス指定時はサブアドレスを内線番号として処理します。
 - iii) 下位レイヤ、上位レイヤ整合性により着信端末の選択が可能です。
 - iv) 網から発信者番号が送られてくる場合、LCD 表示にその番号を表示します。
- * 1) データ設定にてサーチするトランクタイプをINSだけに設定しておけばINS外線を自動捕捉します。〈プログラムNo.312で任意の内線の設定値を全て“5”に〉
- * 2) スタートボタンを押下しなくても、8秒後に発信します。
- ※ワンタッチ、短縮ダイヤル発信や着信モード設定もできます。

ISDN内線増設カード取付工事説明書

概要

- ・ ISDN 内線増設カードは、内線端子に ISDN 端末を収容する場合に使用する。
- ・ ISDN 内線増設カードは、ISDN 端末 2 台の収容が可能です。
- ・ DIGI 16i で 6 台、DIGI 32i で 4 台の ISDN 端末収容が可能です。
- ・ 他のオプションカードが増設されている場合、増設数に制約があります。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・ ISDN 内線カード……………1 枚
- ・ クイックコネクタ……………6 ケ
- ・ 工事説明書……………1 部
- ・ ビス (M3×6) ……2 本

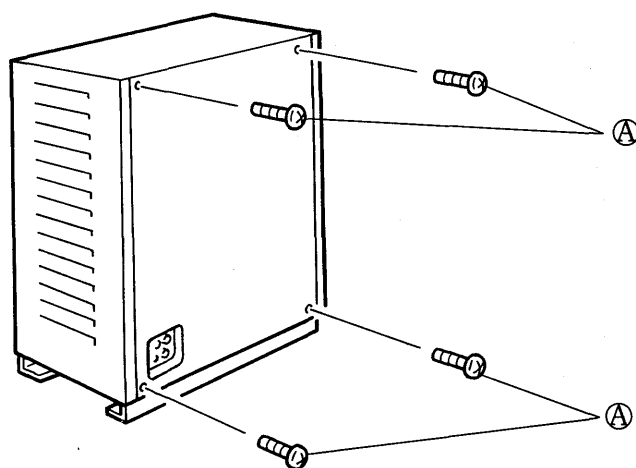
取付方法

1. 主装置電源を OFF します。

注 意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源 SW が “ON” になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源 SW を “OFF” にして下さい。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビス A (4 本) を外し、フロントカバーを取外す。

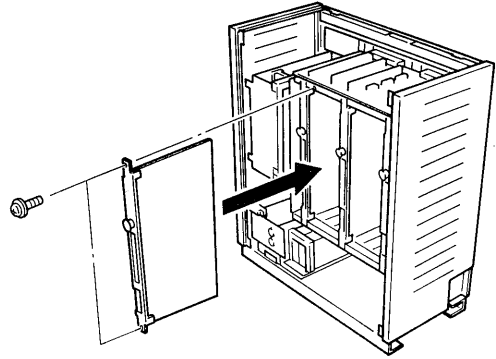


3. カードを主装置内のカードラックの所定のスロットに実装します。

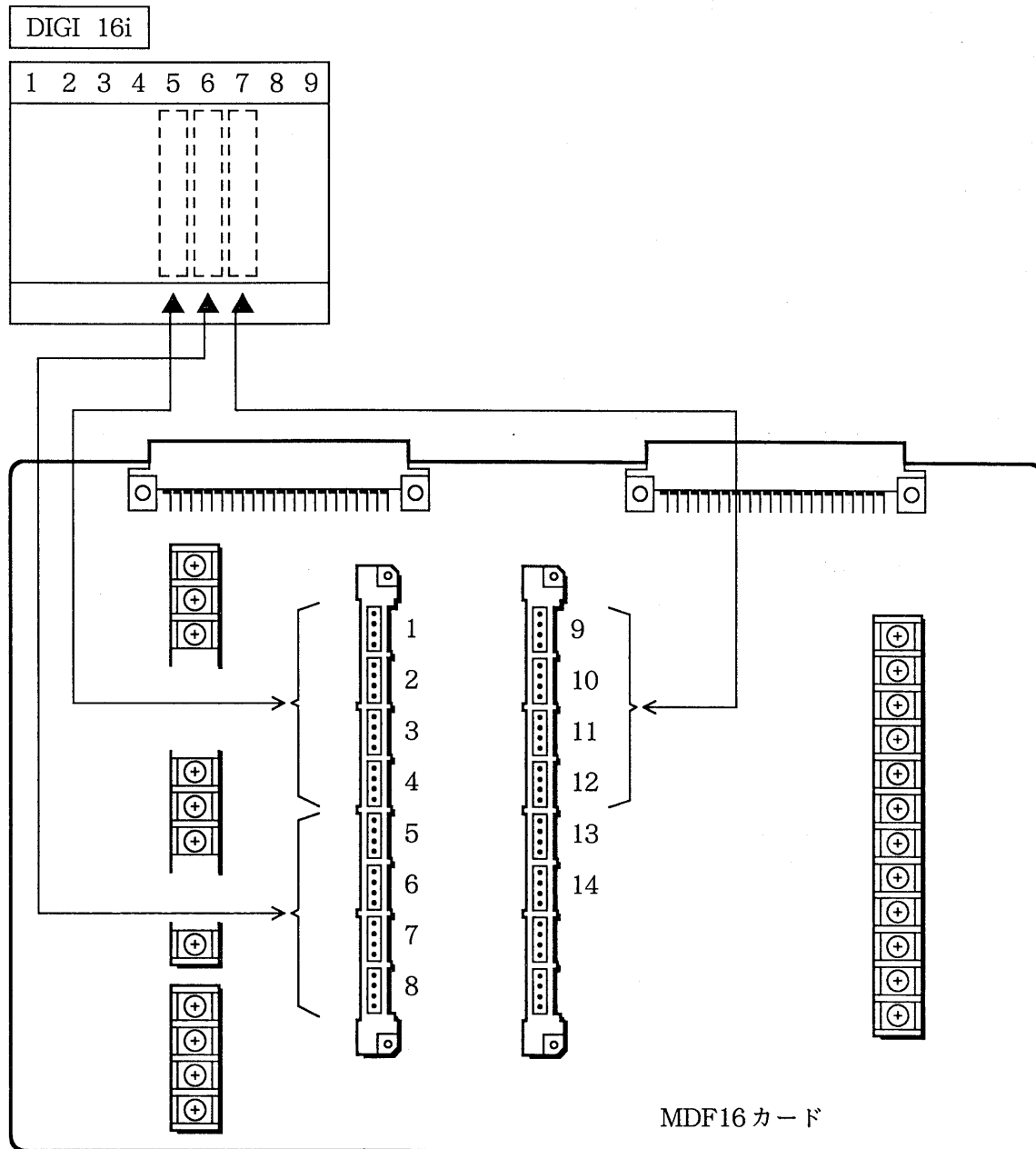
主装置	スロット No. (*1)
DIGI 16i	5 (*2), 6, 7
DIGI 32i	6 (*2), 7 (*2), 8, 9, 10, 11, 12

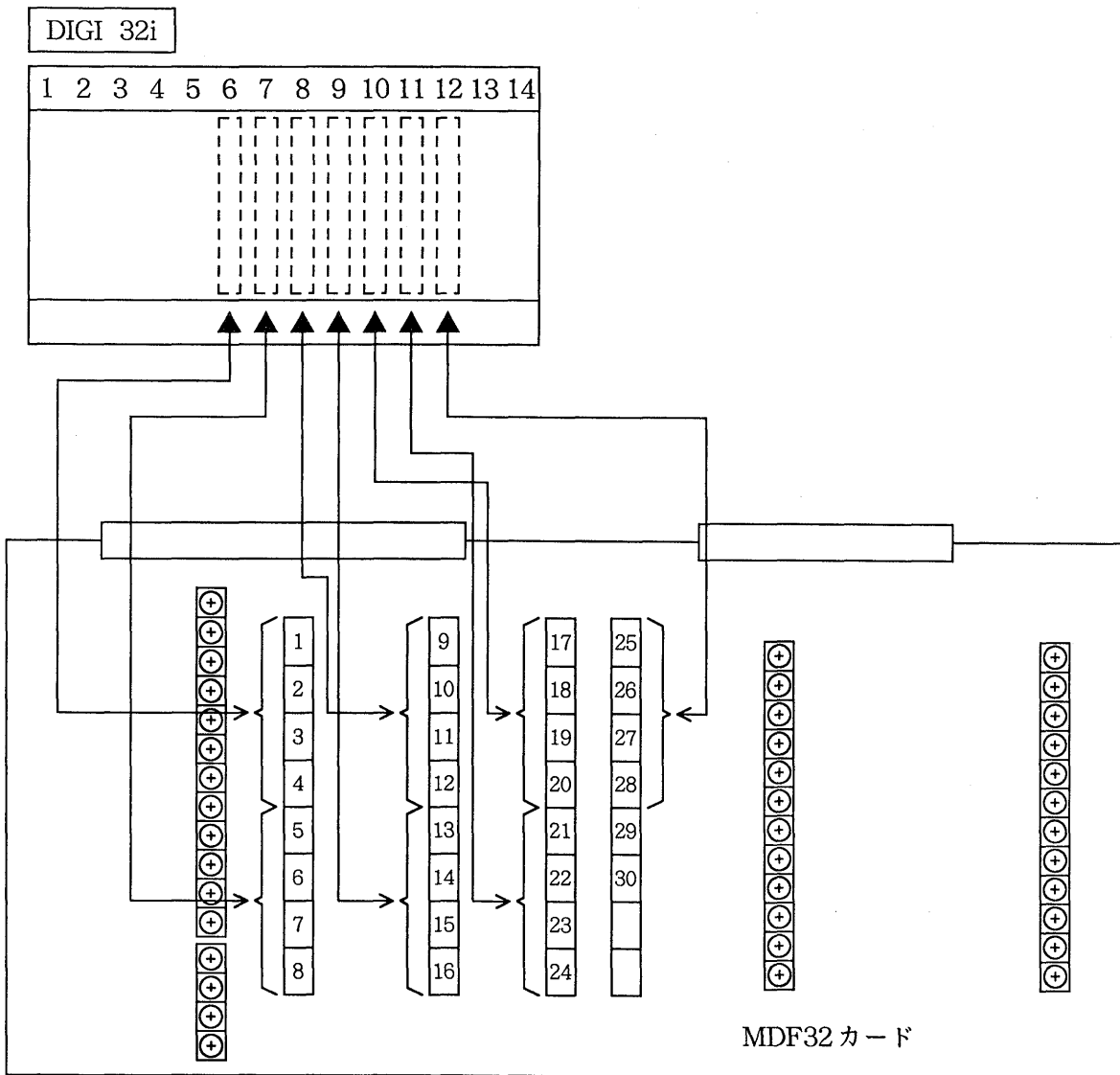
*1: どのスロットにでも実装可能です。

*2: 標準で4DLC実装。



4. MDFカード上の配線



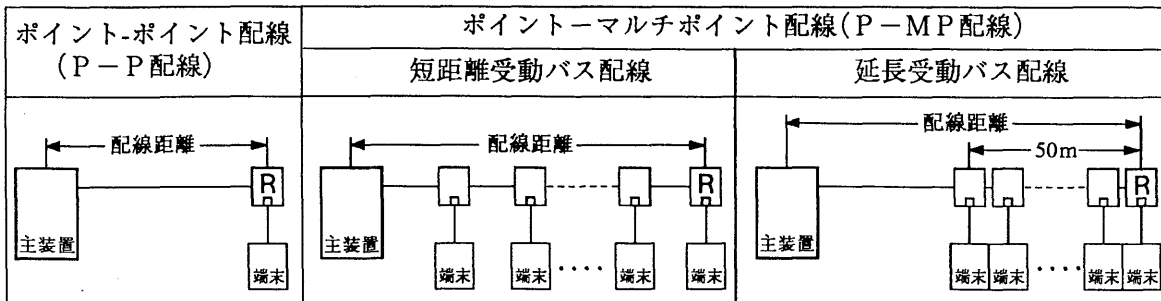


5. 端末の接続方法

ISDN端末の配線形態

本装置にISDN端末を収容する際の配線形態は、次のように分類されます。

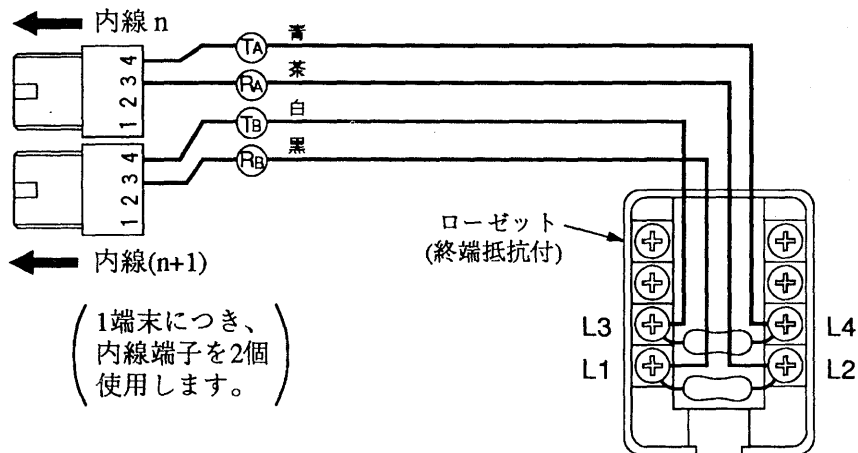
1. ポイント-ポイント配線：配線1に対して端末が1台接続される。
2. ポイント-マルチポイント配線：以下の2種類に分類されます。
 - (1) 短距離受動バス配線：配線1に対して8台の端末がランダムに接続される。
 - (2) 延長受動バス配線：配線1に対して8台の端末が遠端のある一定距離内に接続される



R：終端抵抗付ローゼット

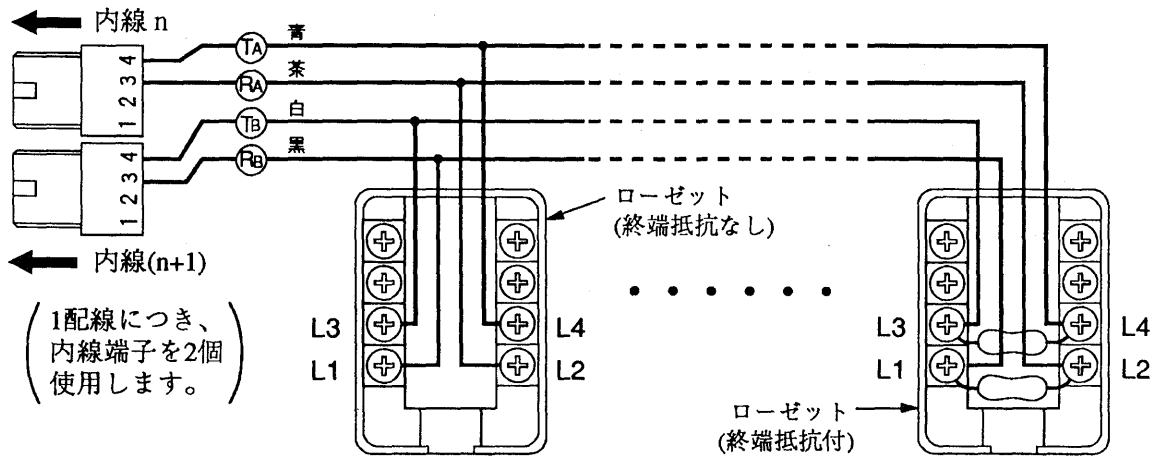
P-P配線の接続方法

P-P配線を行う場合、クイックコネクタと終端抵抗付ローゼットを下図のように接続します。



P-MP配線の接続方法

P-MP配線を行う場合は下図のように接続します。なお終端には必ず終端抵抗付ローゼットを使用してください。



注意：ローゼットの種類によって内部配線が異なる場合があります。

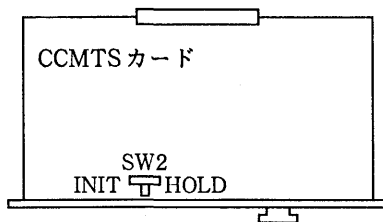
[主装置-内線ISDN電話機間許容線路長]

線 径 (mm)	0.4	0.5	0.65
ポイント・ポイント接続	390m	600m	900m
ポイント・マルチポイント接続 (短距離受動バス)	130m	200m	300m
ポイント・マルチポイント接続 (延長受動バス)	260m	400m	600m

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDF カード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

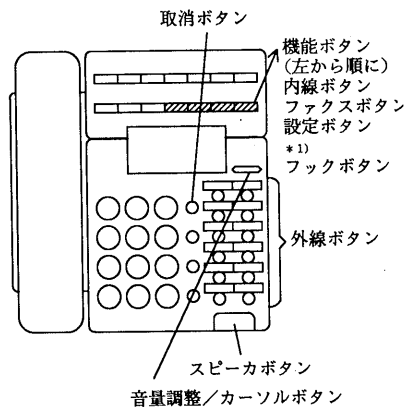
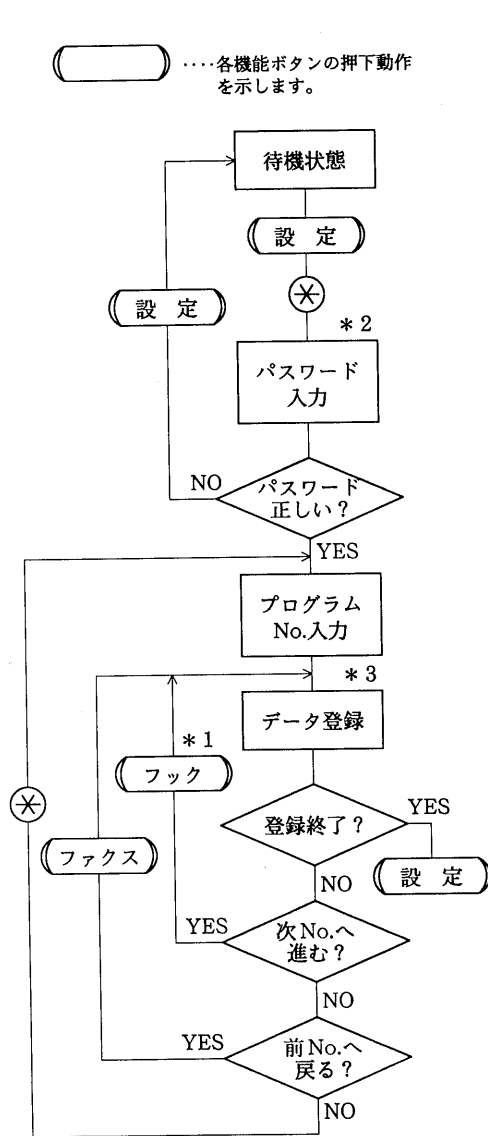
カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点灯し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生の際I/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない
ISS	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点滅し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…CCMTSとの通信エラー（カードの挿入位置誤り） 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



*1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

*3) データ登録について

運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

- (a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
- (b) 外線別データ、内線別データ
- i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力 (“#” ボタン押下にて順次No.をスクロールします)
 - ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
- (c) NCC データ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

(1) システムデータ

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
102	G3FAX 送出力レベルアップ値	0・3・6・9dB	6dB	G4FAXのG3機能でアナログ網に発信した場合の送出力レベルアップ

(2) 内線別データ

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
301	電話機タイプ	ISDN デンワ G4 ファクス	ISDN デンワ	
304	内線番号	10~59		内線端子番号順に11から自動設定される。変更可。
305	発信テナント	1~5	1	同じ発信テナント番号もしくは“0”を設定した外線からのみ発信可
306	内線グループ	1~5	1	設定した番号と同じ着信テナント番号をもつ外線への着信のみ有効
307	発信デフォルト	ガイセン・ナイセン	ガイセン	発信の時の初期値を設定
308	外線着信	0: 鳴動なし 自動応答不可 1: 鳴動あり 自動応答可 2: 鳴動なし 自動応答可 3: 鳴動あり 自動応答不可	マスタ電話機のみ全て“1” その他は全て“0”	左から順に各外線 (DIGI 16i: 1~6, DIGI 32i: 1~12) に対応
309	外線発信	0: 発信不可 1: 発信可 自動捕捉可 2: 発信可 自動捕捉不可	全内線とも全て“1”	同上
312	捕捉トランクタイプ	0: NTT 1: CES 2: PBX 3: ルートKDD 4: その他 5: INS	012534	捕捉するトランクタイプの優先順位 (左が高い)

※G4ファクスを接続した場合、プログラムNo. 301の設定は若番の内線端子番号を“G4ファクス”老番の内線端子番号を“ISDN デンワ”に設定して下さい。

網同期カード取付工事説明書

概要

- ・ 網同期カード (SYNC) は、主装置に収容された ISDN 回線に同期したクロックを生成し、システムに供給するために使用します。
- ・ 1/2IST、2ISS カード増設の際、同時に増設する必要があります。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・ SYNC カード……1枚
- ・ カードスペーサ……2ヶ
- ・ 工事説明書……1部
- ・ ビス……4ヶ

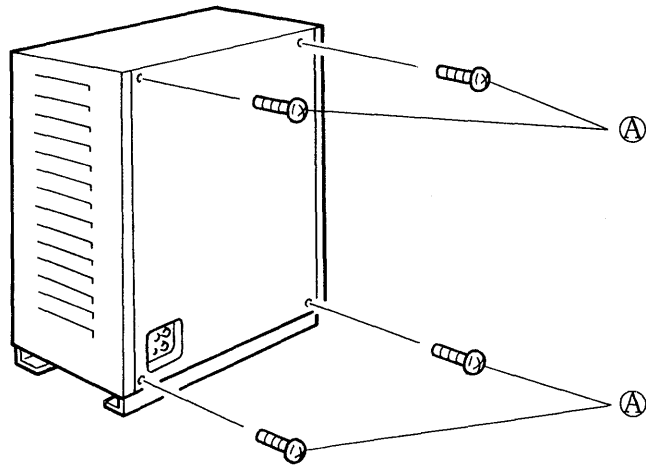
取付方法

1. 主装置電源を OFF します。

注意

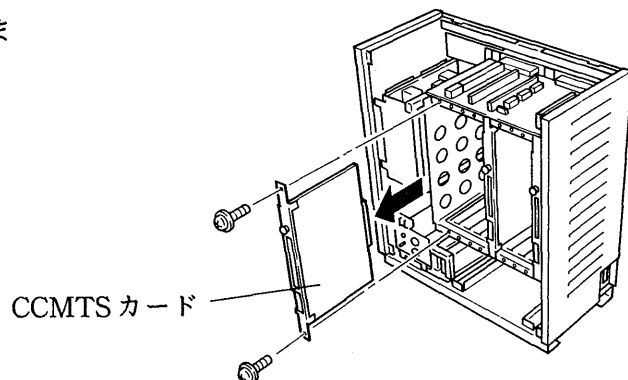
内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源 SW が "ON" になっていると主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際は、必ず電源 SW を "OFF" にして下さい。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。
ビス① (4本) を外し、フロントカバーを取外します。

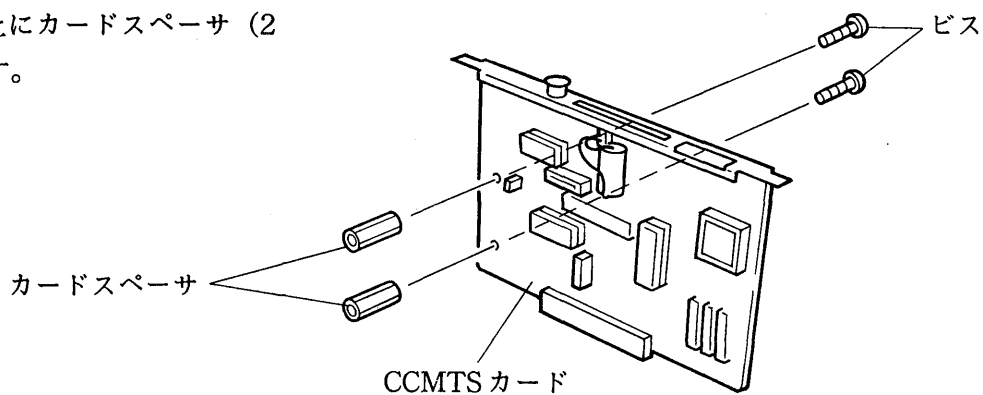


3. 主装置より CCMTS カードを取外します。

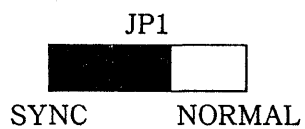
DIGI 16i	DIGI 32i
スロット 1	スロット 1



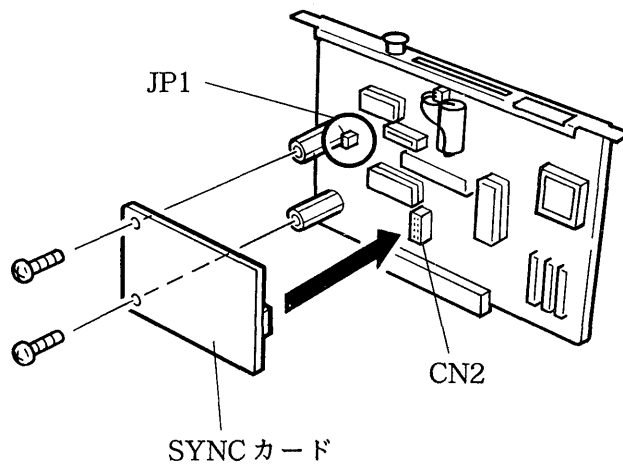
4. CCMTSカード上にカードスペーサ（2ヶ）を取付けます。



5. CCMTSカード上のJP1を「SYNC」側に切替えます。



6. CCMTSカード上のコネクタ（CN2）にSYNCカードを取付けビス2本で固定します。

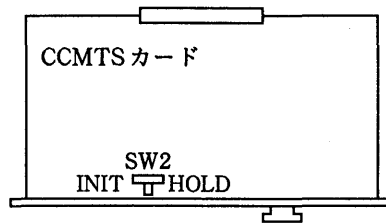


7. CCMTSカードを主装置の元の位置に装着します。

システムの動作

1. 電源スイッチを入れる前に必ず確認して下さい。

- ① 配線ケーブルは規格通りですか。
- ② MDFカード上にショートの原因になる様な異物はありませんか。
- ③ 各カードは、所定のスロットにセットされていますか。またコネクタに確実に挿入されていますか。
- ④ 外線及び電話機の配線は確実ですか。
- ⑤ CCMTS16/32カード上のSW2が「INIT」になっていると電源ON時にサービスデータが消去されてしまいますので、注意して下さい。



2. 主装置電源をONし、システムが正常に立ち上がるのを確認します。

<LEDチェック>

以下のLEDをチェックすることで、システムの立ち上がり状況がチェックできます。

カード名	LED		機能	動作
	記号	色		
CCMTS 16/32	LED1	赤	エラー表示	<p><u>正常時</u> 電源ON後イニシャルチェック中（約10秒間）点灯し、その後周期的（5秒間隔）に点灯する。</p> <p><u>異常時</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 連続点灯…ROM/RAMチェックエラー 2. 速い点滅…エラー発生時のI/Fカード有 3. 不規則な点灯…プログラムの暴走 4. 点灯せず…電源が供給されていない

3. システムの正常な立ち上がりが確認できたら、主装置にフロントカバーを取付けます。

運用データ登録

- ・SYNCカード取付に対してデータ登録は特に必要ありません。
- ・動作チェック等につきましては、ISTカード/ISSカードの工事説明書を御参照下さい。

FAXアダプタ取付工事説明書

概要

・FAXアダプタは、専用電話機（単独専用電話機を除く）にFAXを接続する場合に使用します。

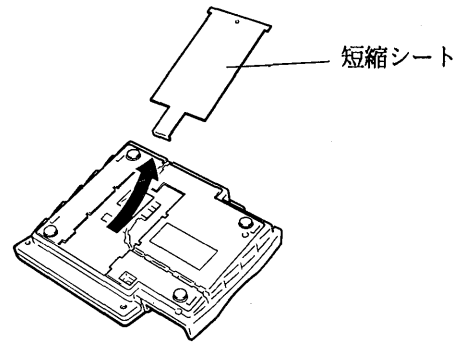
同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

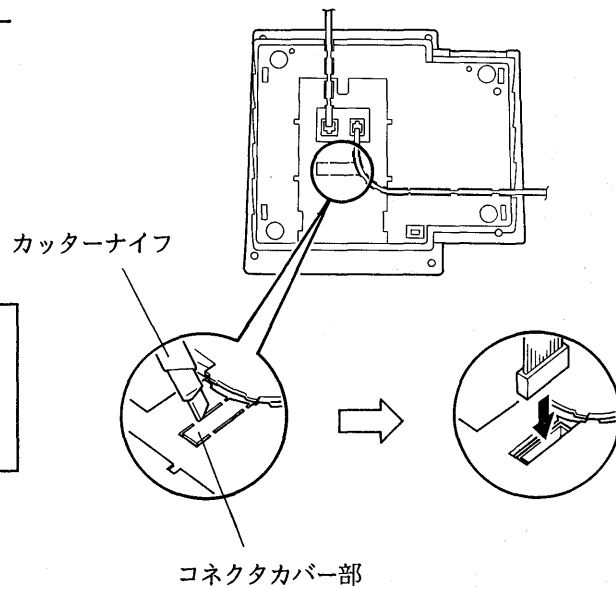
- ・アダプタ本体……1
- ・ACアダプタ（電源）……1
- ・工事説明書……1部

取付方法

1. 専用電話機のモジュラコードをローゼットより取外して下さい。
2. 専用電話機底面より短縮シートを取外して下さい。



3. 専用電話機底面のコネクタカバーをカッターなどで切り取り、アダプタのケーブルを接続して下さい。

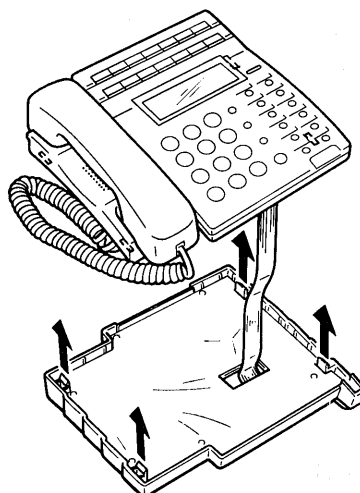


注意

切りカスやコネクタカバーを電話機内部、特にコネクタ内に落さないよう注意して下さい。

- アダプタの爪（4本）を電話機底面の取付穴に挿入し、電話機本体と結合します。

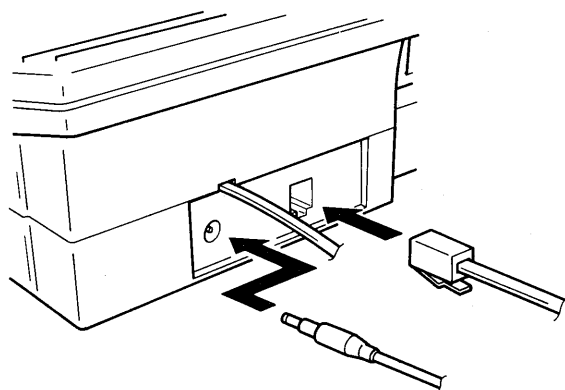
この時、配線用、及びハンドセットのモジュラーコードが電話機に接続されていることを確認した上で結合を行って下さい。



- アダプタ背面にACアダプタのコネクタ、及びFAXのモジュラーコードを接続します。

注 意

接続するFAXのダイヤル方式は、必ずDP10ppsもしくは20ppsにセットして下さい。
尚、FAXの接続及びデータ設定方法は各FAXのサービスマニュアルを参照してください。

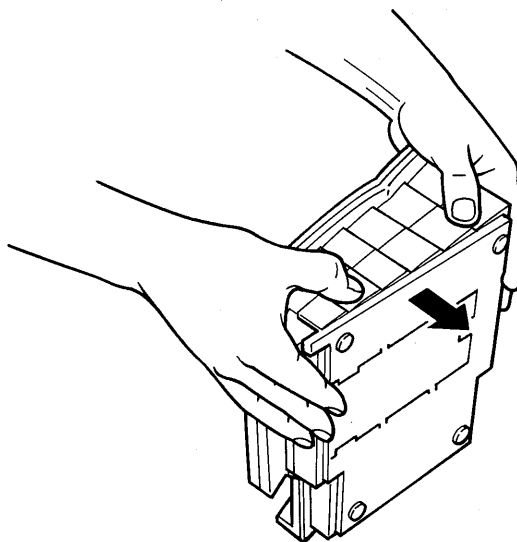


- 短縮シートをアダプタ底面に取付けます。

- モジュラーコードをローゼットに接続します。

取外し方法

- アダプタ本体の取外し方法は、図の様に切欠きのある側面を指で押し、爪の引掛りを解除して取外します。



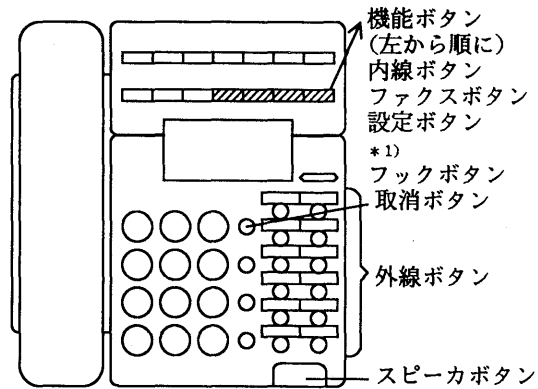
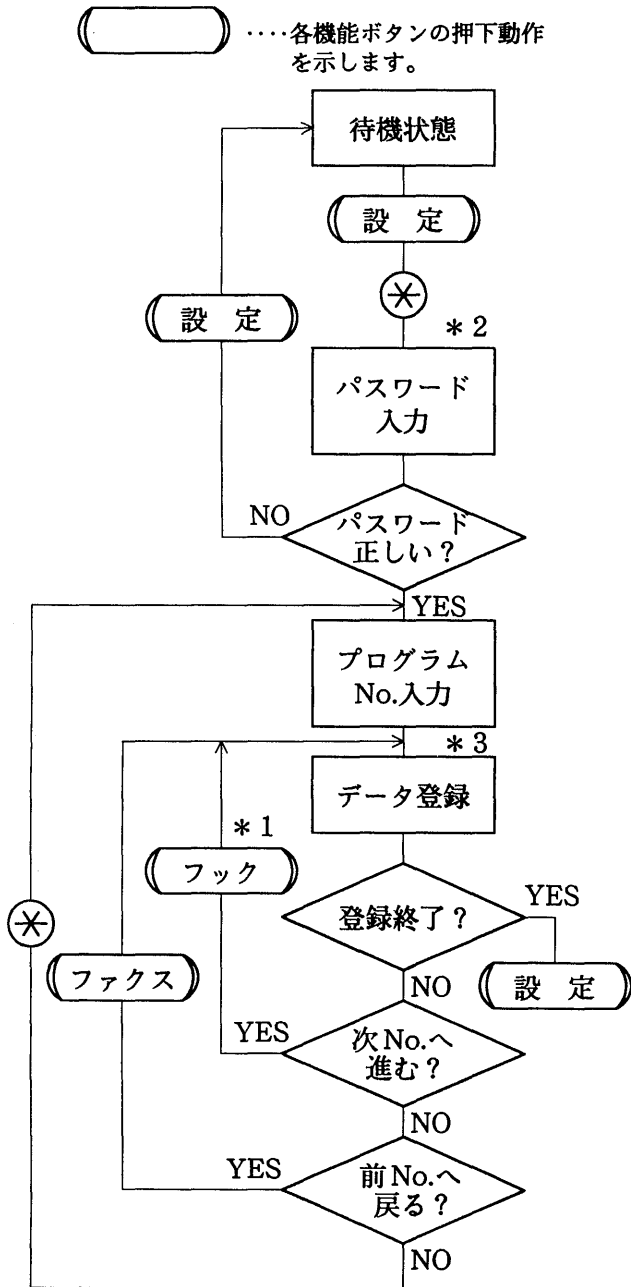
注 意

無理な力を加えると爪が破損する場合がありますので注意して下さい。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ登録は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。



- * 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)
- * 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“＊”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)
- * 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。
 - (a) システムデータ、特殊データ
音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
 - (b) 外線別データ、内線別データ
 - i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力 (“#” ボタン押下にて順次No.をスクロールします)
 - ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。
 - (c) NCCデータ
ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

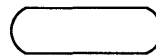
システムデータ

プログラム No.	サービス名称	データ可変範囲	初期値	備 考
315	優先転送先FAX		16	DIGI 32iでの初期値は“21”。ファクス出力の時、優先的に着信させる内線端子No.を登録

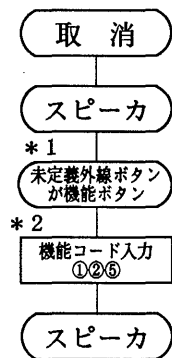
動作チェック

1. フレキシブルキーアサインによる機能ボタン割りつけ

以下の手順により未定義外線ボタンに機能ボタン(ファクス切替)を割りつけます。(ファクスアダプタを接続した電話機に行ってください。)



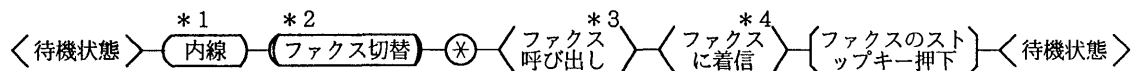
…左図の各ボタンの押下動作を示します。



- * 1) 既に登録されている機能を消去する場合は、“000”を入力して下さい。
- * 2) 入力を間違えた場合は、もう一度同じ外線ボタンを押下して機能コードの入力をやり直して下さい。

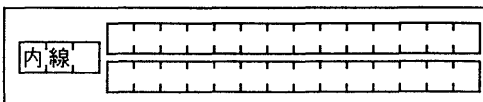
2. 動作チェック (ファクス切替動作の詳細についてはサービスマニュアルの3-8-10項を参照願います。)

ファクスを自動受信モードに設定して、以下の動作を確認して下さい。(注意：ファクスのダイヤル方式は、DP < 10pps または 20pps > に設定して下さい。)

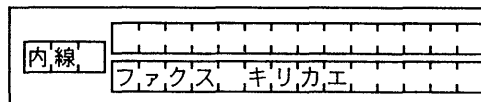


< LCD 表示 >

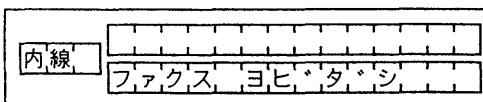
* 1) 内線ボタン点灯



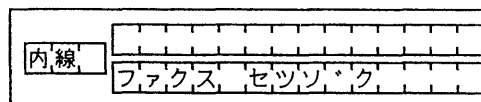
* 2) ファクス切替ボタン早い点灯



* 3) ファクス呼び出し中



* 4) ファクス切替ボタン遅い点灯 (アダプタランプ緑に点灯)



データ端末接続アダプタ取付工事説明書

概要

- データ端末接続アダプタは、DIGI 16i/32iの専用電話機（専用単独電話機を除く）にデータ端末（パソコンやワープロ）を接続しデータ通信を行う際に使用します。
- データ端末接続アダプタ（1）とデータ端末接続アダプタ（2）は次の点が異なります。
 - ①データ端末接続アダプタ（1）：内線相互、もしくは電話回線を用いたデータ通信用
 - ②データ端末接続アダプタ（2）：内線相互、電話回線、およびINS64 ネットを用いたデータ通信用
- データ通信機能の詳細については、サービスマニュアルの「第6章 ③データ通信機能」を参照して下さい。

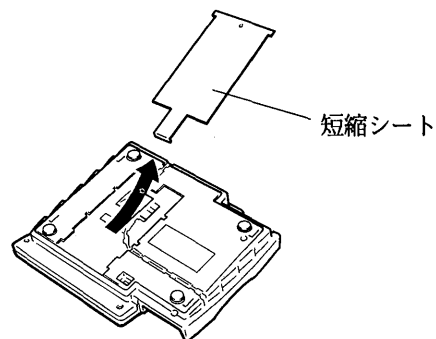
同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

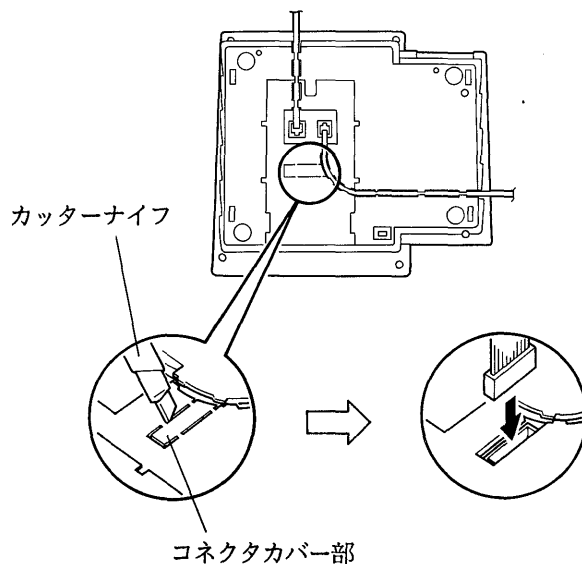
- アダプタ本体……1
- ACアダプタ（電源）……1
- 工事説明書……1部

取付方法

1. 専用電話機のモジュラコードをローゼットより取外して下さい。
2. 専用電話機底面より短縮シートを取外して下さい。
3. 専用電話機底面のコネクタカバーをカッターなどで切り取り、アダプタのケーブルを接続して下さい。



3. 専用電話機底面のコネクタカバーをカッターなどで切り取り、アダプタのケーブルを接続して下さい。



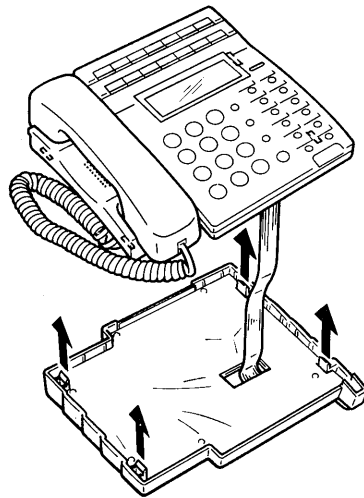
注意

切りカスやコネクタカバーを電話機内部、特にコネクタ内に落さないよう注意して下さい。

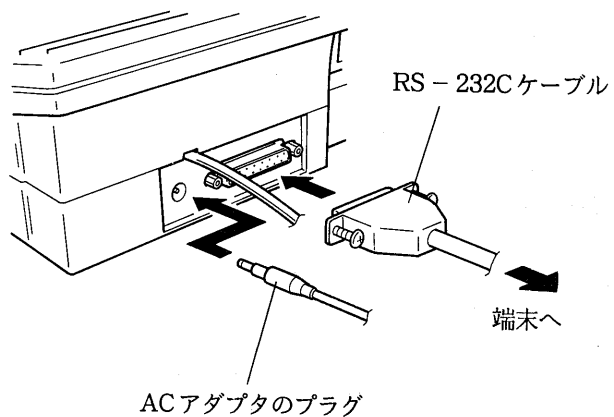
- アダプタの爪（4本）を電話機底面の取付穴に挿入し、電話機本体と結合します。

注 意

この時、配線用、及びハンドセットのモジュラーコードが電話機に接続されていることを確認した上で結合を行って下さい。



- アダプタ背面にACアダプタのコネクタ、及びRS-232Cコネクタを接続します。



- 短縮シートをアダプタ底面に取付けます。

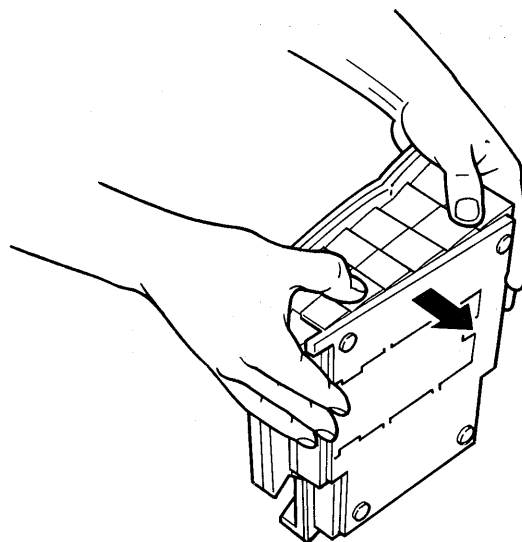
- モジュラーコードをローゼットに接続します。

取外し方法

- アダプタ本体の取外し方法は、図の様に切欠きのある側面を指で押し、爪の引掛りを解除して取外します。

注 意

無理な力を加えると爪が破損する場合がありますので注意して下さい。

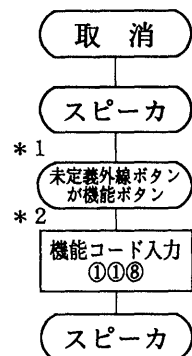


動作チェック

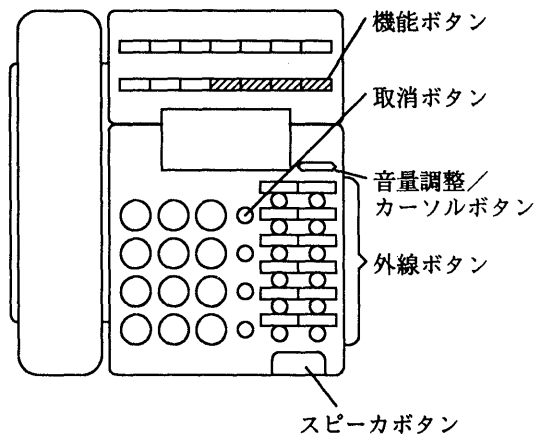
1. フレキシブルキーアサインによる機能ボタン割り付け

以下の手順により未定義外線ボタンに機能ボタン（データ）を割りつけます。（データアダプタを接続した電話機に行ってください。）

…右図の各ボタンの押下動作を示します。

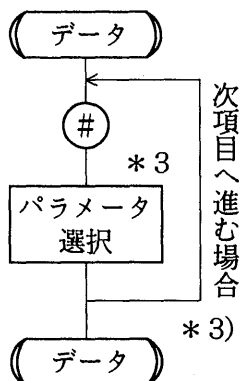


- * 1) 既に登録されている機能を消去する場合は、“000”を入力して下さい。
- * 2) 入力を間違えた場合は、もう一度同じ外線ボタンを押下して機能コードの入力をやり直して下さい。



2. 通信フォーマット

以下の手順により、データ端末もデータアダプタ間の通信フォーマットを設定して下さい。



- * 3) カーソルボタン押下にて行います。約10秒間キー入力がなければタイムアウトします。

注意) 最後にデータボタンを押さなければ設定内容は登録されません。

設定項目	データ可変範囲			初期値
通信速度	300BPS 600BPS 1200BPS	2400BPS 4800BPS 9600BPS		1200BPS
データ長	5ビット 7ビット	6ビット 8ビット		8ビット
ストップビット長	1ビット	2ビット		1ビット
パリティ	EVEN ODD ナシ			EVEN
通信タイムアウト時間	ナシ 30sec 4min	2sec 1min 8min	10sec 2min	ナシ
接続手順	AT V.25bit			V.25bis
ER制御	DTE ON			DTE
速度整合	アリ ナシ			ナシ

※データ端末から他の内線へ発信動作を行い、発信を検出してデータランプが点灯するのを確認して下さい。（データ通信に関する詳細については、サービスマニュアルの4-21項を参照願います。）

高音量ベル接続用ローゼット取付工事説明書

概要

- ・高音量ベル接続用ローゼットは、専用電話機（専用単独電話機を除く）に高音量ベルを接続する場合に使用します。
- ・高音量ベルは市販品を接続して下さい。

(推奨品)

メーカー名	型番
キャノン販売	CS-191

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・ローゼット本体……1
- ・モジュラーコード（6芯）……1
- ・工事説明書……1
- ・取付用磁石……1

使用方法

1. 主装置電源をOFFします。

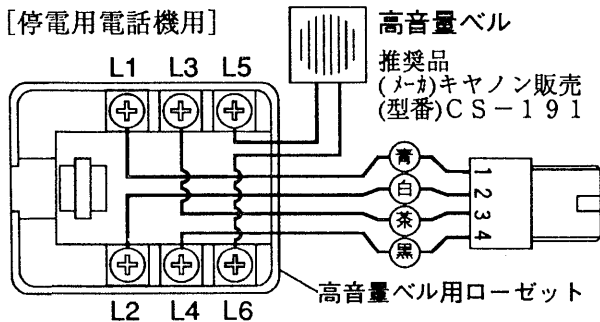
注意

内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源SWが“ON”になっていると、主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際には必ず電源SWを“OFF”にして下さい。

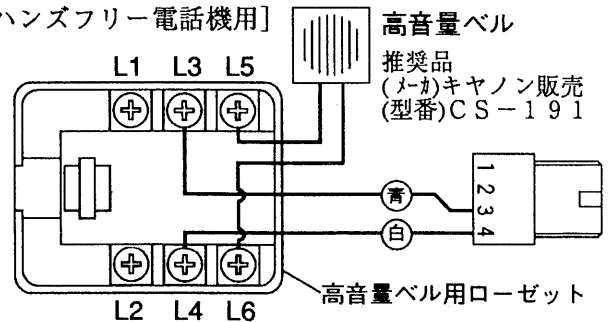
2. ローゼットと高音量ベルを接続します。

- ①既に設置されている専用電話機に取付ける場合、接続されているローゼットと交換する。
- ②新規追加の専用電話機に接続する場合、クイックコネクタとローゼットを図の様に接続する。

[停電用電話機用]



[標準/ハンズフリー電話機用]



3. 付属のモジュラーコード（6芯）で電話機-ローゼットを接続します。

4. 主装置電源をONします。

使用方法

高音量ベルを取付た電話機に対して、他の電話機より発呼し、高音量ベルが作動することを確認して下さい。

LD専用線アダプタ取付工事説明書

概要

- ・LD専用線アダプタは、DIGI32iに市内（2線式）専用線を収容する場合に使用します。
- ・LD専用線アダプタ1台で、市内専用線1回線の収容が可能です。

仕様

- ・線路抵抗：400～4k Ω （相手装置含む）
- ・リーク抵抗：40k Ω 以上（線間）
- ・回線インピーダンス：600 Ω ±20%（300～3400Hz）
- ・挿入損失：0±1dB（1500Hz）
- ・D P規格：下表参照

	DP送出規格		DP受信規格	
	10pps	20pps	10pps	20pps
速度	10±0.8pps	20±1.6pps	10±2pps	20±2pps
メーク率	33±3%	33±3%	30～60%	30～60%
ミニアムポーズ	600ms以上	450ms以上	300ms以上	300ms以上

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・アダプタ本体……………1
- ・電源アダプタ……………1
- ・工事説明書……………1
- ・モジュラローゼット……………1
- ・モジュラコード……………1
- ・FG用ケーブル……………1
- ・LG用ケーブル……………1

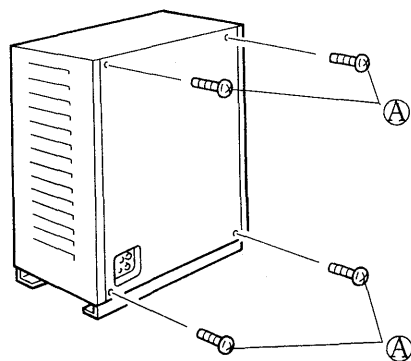
取付方法

1. 主装置電源をOFFします。

注 意

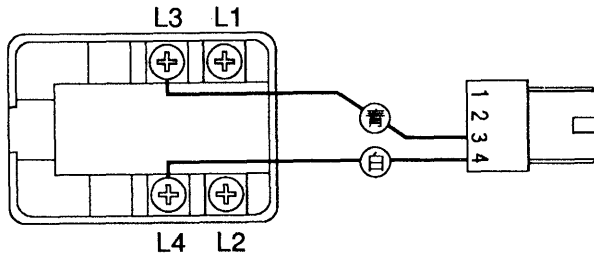
内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源スイッチが“ON”になっていると、主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際には必ず電源SWを“OFF”にしてください。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。

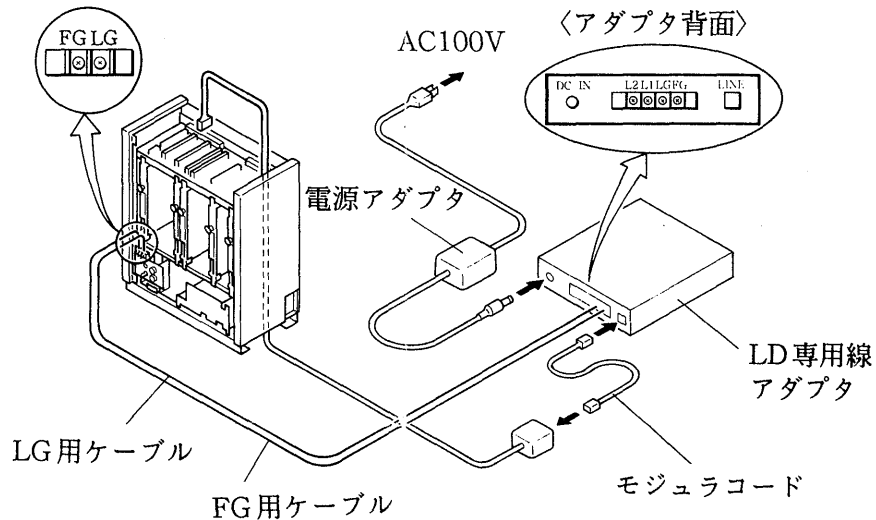


3. MDFカード上の内線端子にアダプタを接続します。

- ① 空き端子に接続する際、クイックコネクタとローゼットを図の様に配線したものを用品います。



- ② 空き端子が無い場合、4DLCまたは2DLCカードを増設して下さい。
③ 内部端子及び増設スロットに空きが無い場合、既に接続されている専用電話機のうち、任意の1ヶを取外し、そこへ接続して下さい。



4. LD専用線アダプタ背面に専用線、FG/LGケーブル及び電源アダプタを接続します。

— 注 意 —

L1,L2に接続を行う際、相手システムと極性を合わせて下さい。

(L1 = -48V, L2 = 0V)

5. 主装置にフロントパネルを取付けます。

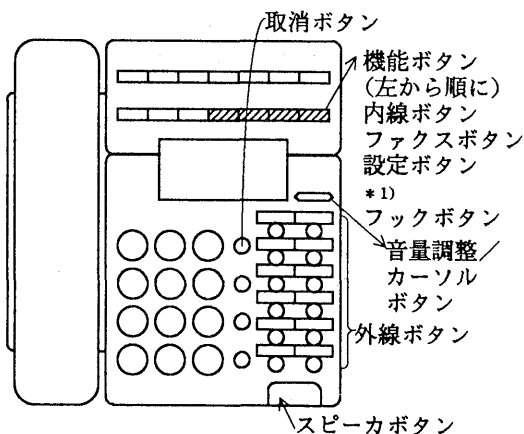
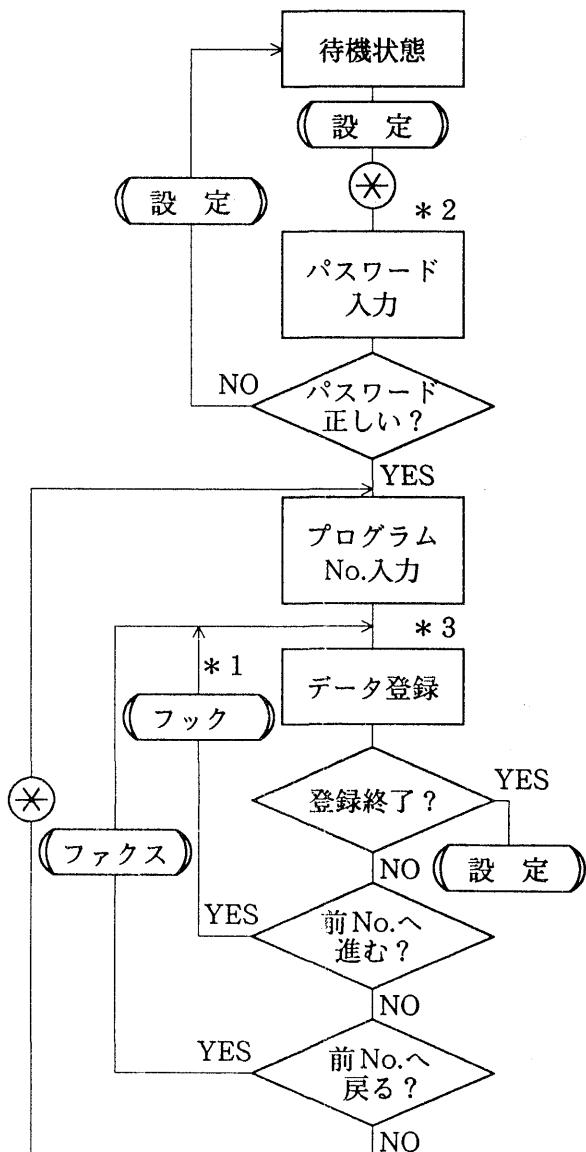
6. 主装置の電源をONします。

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。

() ……各機能ボタンの押下動作を示します。



* 1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り当てられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

* 2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力“*”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

* 3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ

音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(b) 外線別データ、内線別データ

i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力 (“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします)

ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCC データ

ダイヤルボタン押下による数値入力。

2. 関連運用データ一覧

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
319	専用線対地番号	2~9	2	専用線を接続した内線端子に任意の番号を設定する。複数線を接続した時は別々の番号を設定する。
320	OD/LD用 スタート方式		SDT	SW1の設定値を参照できる。
321	OD/LD用 スタートタイマ	0~5000 (100mS単位)	3000msec	WAIT3の時のみ有効になる。回線捕捉後の信号送出までの時間

動作チェック

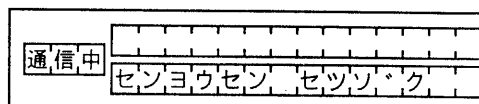
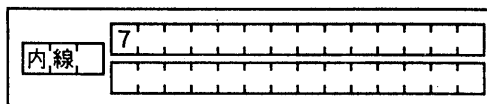
以下のフローにより発信動作を確認して下さい。

〈内線発信状態〉—⑦n—〈相手内線番号入力〉
n = 2~9 : 専用線の対地番号

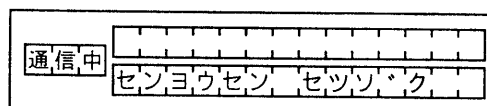
- i) 専用線の対地数は最大8。
- ii) 相手内線番号はDP (10/20pps) で送受信できます。

〈LDT接続時のLCDディスプレイ〉

〈a〉 内線発信状態からダイヤルボタン“7”押下 〈b〉 専用線の対地番号 (例: 2) 押下



〈c〉 専用線の対地番号 (例: 5410) 押下。及び通話中



LED表示

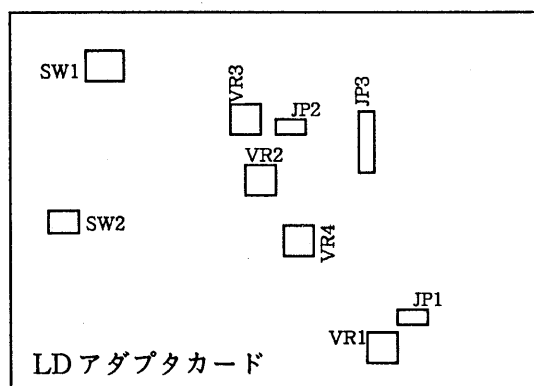
ALM	BUSY
○	○

〈LD専用線アダプタ前面〉

LED	色	機 能	動 作
BUSY	緑	回線使用中表示	接続されている専用線が使用されている時点灯する。
ALM	赤	回線異常表示	接続されている専用線へアクセスした際、回線に異常がある場合点灯する。

調 整

表に示すSW、ジャンパ、VRを必要に応じて設定・調整を行って下さい。



JP/VR	用 途	設 定	出荷時設定																	
SW1	スタート方式設定用	SDT：セカンドダイヤルトーン方式 相手からのダイヤルトーンを検 出後ダイヤル送出可能 WAIT3：3秒ウェイト方式 回線捕捉して3秒後にダイヤ ル送出可能 IMD：イミディエイトスタート方式 回線捕捉後即ダイヤル送出可能	SDT																	
SW2	DP速度切替用	10PPS/20PPS	20PPS																	
JP1	L1 - L2間電圧調整時切替用	<table border="1"> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>C</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>C</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1 - C：調整不可</td> <td colspan="3">2 - C：調整可</td> </tr> </table> <p>■：ジャンパプラグ</p>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	2	C	1	2	C	1	1 - C：調整不可			2 - C：調整可			1 - C
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>															
2	C		1	2	C	1														
1 - C：調整不可			2 - C：調整可																	
VR1	L1 - L2間電圧調整用	中間値																		
JP2	balancingネットワーク 調整時切替用	1 - C：調整不可	1 - C																	
VR3	balancingネットワーク 調整用	■：ジャンパプラグ	中間値																	
JP3	3dBパッド (通話音量が大きい時、ON) にすると3dBの減衰が可 能	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>OFF</td> <td>ON</td> <td>ON</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>3dB</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>0dB</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> </table> <p>■：ジャンパプラグ</p>		OFF	ON	ON	OFF	3dB	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	0dB	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	0dB (OFF)		
	OFF	ON	ON	OFF																
3dB	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																
0dB	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																
VR2	受話レベル調整用	設定範囲：-8~8dB	0dBに 調整済																	
VR4	送話レベル調整用																			

バラシングネットワーク調整

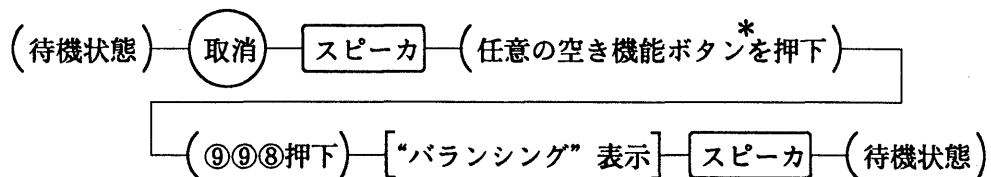
受話器の側音が大きい場合や、FAXの手順／画像信号が通りにくい時は該当回路のバラシングネットワークを調整して下さい。

① バラシングモードボタンの設定

バラシングネットワークの調整は、主装置バラシングモードにて行います。尚、バラシングモードを使用する為には専用電話機にバラシングモードボタン（以下「バラシング」ボタンと呼ぶ）を設定する必要があります。

<設定方法>

- ・任意の機能ボタンに「998バラシング」を設定します。

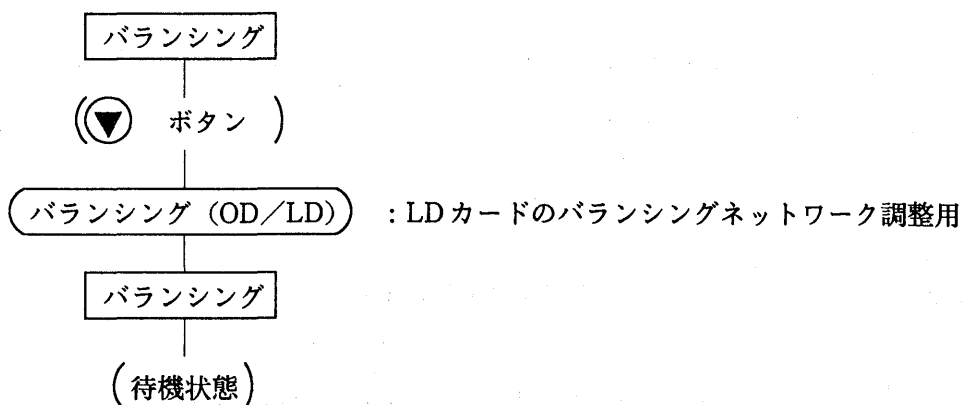


*空きボタンがない場合、「000」を入力し設定済のモードを取消することができる。

② バランシングモード

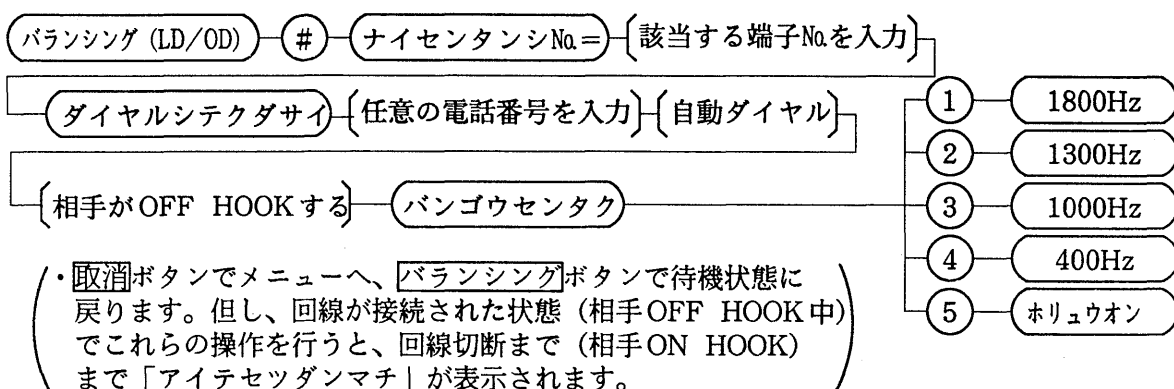
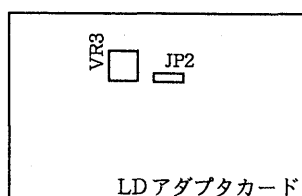
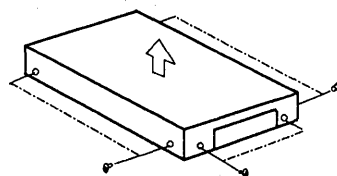
一旦バランシングボタンを設定すると、これを押すだけでバランシングモードへ移行できます。

<バランシングモード>



③ バランシングネットワーク調整

- (1) アダプタ本体より電源プラグを抜き取った後、ビス (6本) を外して上カバーを取外します。
- (2) LDアダプタカード上のJP2を「2-C」側に切替えた後、電源プラグを取り付けます。
- (3) **バランシング** ボタンのある専用電話機よりバランシングモードを起動し「バランシング (LD/OD)」を選択します。



- (4) バランシングモードを起動した専用電話機の手話器より、①～⑤の音を聞きながらVR3を回し、音量が最小になる所にセットします。(調整終了)
- (5) 調整が終了したら**バランシング** ボタンを押し、待機状態へ戻します。

OD専用線アダプタ取付工事説明書

概要

- ・OD専用線アダプタは、DIGI32iに市外（4線式）専用線を1回線収容する場合に使用します。
- ・OD専用線アダプタ1台で、インバンドリング（別売）を通して市外専用線1回線の収容が可能です。

仕様

項目	特性	備考																								
線路抵抗	0~150 Ω	TTC (JJ-50.10) 準拠																								
リーク抵抗	40k Ω以上 (線間)																									
回線インピーダンス	600 Ω ± 20 %	TTC (JJ-50.10) 準拠																								
SS端子信号	開放時：アースに対して40k Ω以上 地気送時：直流抵抗	TTC (JJ-50.10) 準拠																								
SR端子信号	開放受信 地気受信	TTC (JJ-50.10) 準拠																								
PB送出規格	信号継続時間：50ms以上 ミニマムポーズ：40ms以上 周期：120ms以上 送出電力：-16.5~-6.5dBm (低群) -16.0~-6.5dBm (高群) 周波数偏差：±1.5%	TTC (JJ-50.10) 準拠																								
PB受信規格	信号検出継続時間：45ms以上 ミニマムポーズ：30ms以上 周波数偏差：±1.8%以下で検出 ±4%以上のもの非検出	TTC (JJ-50.10) 準拠																								
DP規格	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">DP送出規格</th> <th colspan="2">DP受信規格</th> </tr> <tr> <th>10pps</th> <th>20pps</th> <th>10pps</th> <th>20pps</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>速度</td> <td>10±0.8pps</td> <td>20±1.6pps</td> <td>10±1.5pps</td> <td>20±3pps</td> </tr> <tr> <td>メーク率</td> <td>33±3%</td> <td>33±3%</td> <td>35±10% 以内</td> <td>35±10% 以内</td> </tr> <tr> <td>ミニマムポーズ</td> <td>600ms以上</td> <td>450ms以上</td> <td>300ms以上</td> <td>300ms以上</td> </tr> </tbody> </table>		DP送出規格		DP受信規格		10pps	20pps	10pps	20pps	速度	10±0.8pps	20±1.6pps	10±1.5pps	20±3pps	メーク率	33±3%	33±3%	35±10% 以内	35±10% 以内	ミニマムポーズ	600ms以上	450ms以上	300ms以上	300ms以上	TTC (JJ-50.10) 準拠
	DP送出規格		DP受信規格																							
	10pps	20pps	10pps	20pps																						
速度	10±0.8pps	20±1.6pps	10±1.5pps	20±3pps																						
メーク率	33±3%	33±3%	35±10% 以内	35±10% 以内																						
ミニマムポーズ	600ms以上	450ms以上	300ms以上	300ms以上																						

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

- ・アダプタ本体……………1
- ・電源アダプタ……………1
- ・工事説明書……………1
- ・モジュラローゼット……………1
- ・モジュラコード……………1
- ・FG用ケーブル……………1

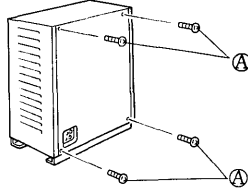
取付方法

1. 主装置電源をOFFします。

注意

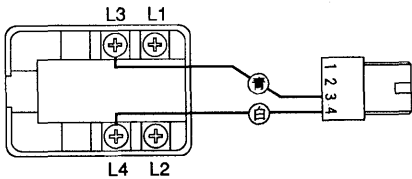
内部または外部バッテリーを搭載している場合、電源コードがコンセントから抜けていても、電源スイッチが“ON”になっていると、主装置に電源が供給されてしまいますので、作業を行う際には必ず電源SWを“OFF”にして下さい。

2. 主装置のフロントカバーを取外します。



3. MDFカード上の内線端子にアダプタを接続します。

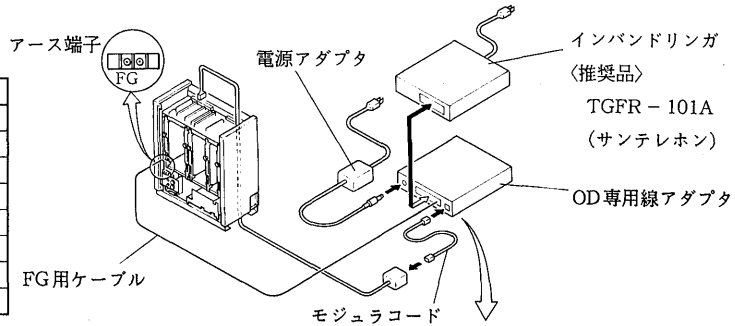
① 空き端子に接続する際、クイックコネクタとローゼットを図の様に配線したものを uses。



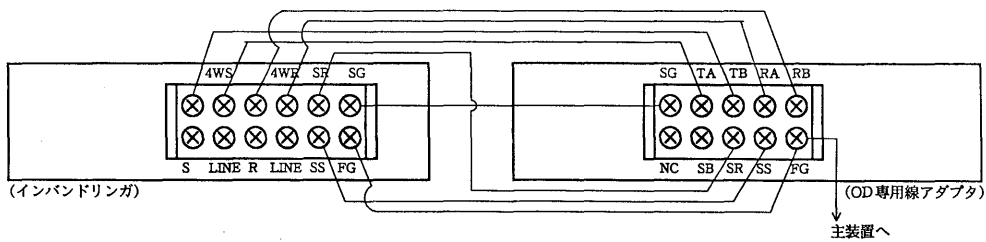
② 空き端子が無い場合、4DLCまたは2DLCカードを増設して下さい。

③ 内線端子及び増設スロットに空きが無い場合、既に接続されている専用電話機のうち、任意の1ケを取外し、そこへ接続して下さい。

端子名	用途
TA/TB	音声線 (送信側)
RA/RB	音声線 (受信側)
SS	制御信号 (送信側)
SR	制御信号 (受信側)
SB	制御信号 (ループ式)
SG	制御信号用グラウンド
FG	接地用端子
NC	電圧 (-48V) チェック端子



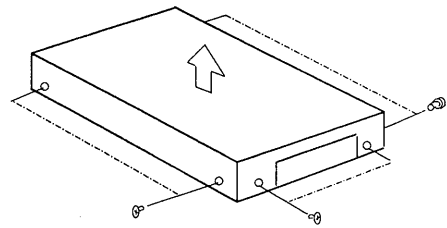
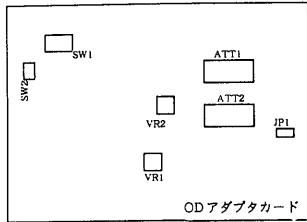
接続図



- OD専用線アダプタとインバンドリングを図の様に接続します。
- 専用線をインバンドリングの (S LINE) 端子及び (R LINE) 端子に接続します。
- OD専用線アダプター-主装置間をFGケーブルで接続します。
- OD専用線アダプタに電源アダプタを接続します。
- 主装置にフロントパネルを取付けます。
- 主装置の電源をONします。

各種設定・調整

- ① ODアダプタよりビス（6本）を外して上カバーを取り外します。
- ② 表に示すSW、ジャンパ、VRを必要に応じて設定・調整を行って下さい。



JP/VR	用途	設定	出荷時設定
SW1	スタート方式設定用	SDT : セカンドダイヤルトーン方式 相手からのダイヤルトーンを検出後ダイヤル送出可能 WINK : ウィンクスタート方式 ウィンクパルス受信後ダイヤル送出可能 WAIT3 : 3秒ウェイト方式 回線捕捉して3秒(*)後にダイヤル送出可能 * : 時間変更可 IMD : イミディエイトスタート方式 回線捕捉後、即ダイヤル送出可能	SDT
	PB送出時間切替用 (但し、SW2 = PBの時有効)	(100/200/300ms) より選択	100ms
SW2	ダイヤル方式切替用	(10/20PPS/PB) より選択	20PPS
JP1	着信方式切替用	NOR : 通常着信モード LOOP : ループ着信モード	NOR
VR1	PBレシーバ受信レベル調整用	—————	最小値
VR2	受話レベル調整用	—————	最小値
ATT1	受話レベル調整用アッテネータ	ビットSWの組合せにより0~15.5dBの範囲で0.5dB単位で設定可	8dB
ATT2	送話レベル調整用アッテネータ		

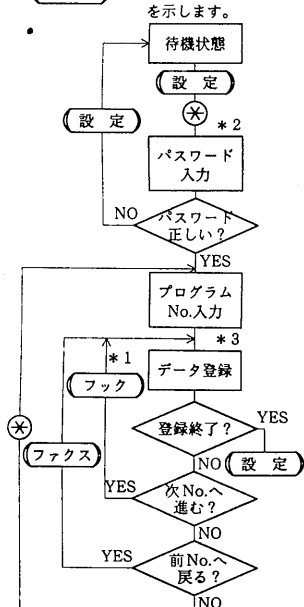
※音声レベルの調整は、インバンドリング側のボリュームで行って下さい。(インバンドリング用工事マニュアル参照)

運用データ登録

1. 運用データ登録方法

データ設定は、専用単独電話機及びSLT端末ではできません。設定方法は以下に示すフローにそって行ないます。

○ ……各機能ボタンの押下動作を示します。



*1) ハンズフリー電話機では、マイクボタンが割り付けられています。(マイクボタン押下でもプログラムNo.は進みます)

2) パスワードは“1990”です。尚、パスワード入力は“”ボタン押下後、8秒以内に完了して下さい。(8秒後にタイムアウトし、待機状態に戻ります)

*3) データ登録について
運用データの種類によってデータ登録の方法は異なります。

(a) システムデータ、特殊データ

音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

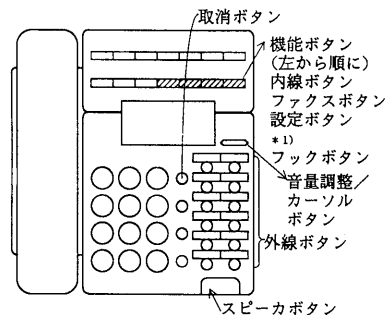
(b) 外線別データ、内線別データ

i) データ登録を行なう外線端子No.もしくは内線端子No.を入力 (“#”ボタン押下にて順次No.をスクロールします)

ii) 次に、音量調整ボタン押下によるデータ選択 (音量大-順方向スクロール、音量小-逆方向スクロール) もしくはダイヤルボタン押下による数値入力を行ないます。

(c) NCCデータ

ダイヤルボタン押下による数値入力。



2. 関連運用データ一覧

プログラム No.	設定内容	データ可変範囲	初期値	備 考
319	専用線対地番号	2~9	2	専用線を接続した内線端子に任意の番号を設定する。また、複数線を接続した時は別々の番号を設定する。
320	OD/LD用スタート方式		SDT	SW1 の設定値を参照できる。
321	OD用スタートタイム	0~5000msec (100ms 単位)	3000msec	WAIT3 の時のみ有効になる。回線捕捉後の信号送出までの時間

動作チェック

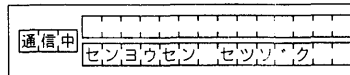
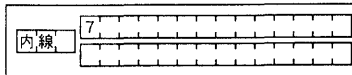
以下のフローにより発信動作を確認して下さい。

〈内線発信状態〉—⑦①—〈相手内線番号入力〉
n = 2~9 : 専用線の対地番号

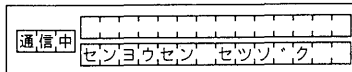
- i) 専用線の対地数は最大 8。
- ii) 相手内線番号は DP (10/20pps) で送受信できます。
- iii) 電気、物理的条件、シーケンスは TTC 標準に準拠しています。

〈ODT 接続時の LCD 表示〉

(a) 内線発信状態からダイヤルボタン “7” 押下 (b) 専用線の対地番号 (例: 2) 押下



(c) 専用線の対地内の番号 (例: 5410) 押下。及び通話中



LED 表示

ALM	BUSY
○	○

〈LD 専用線アダプタ前面〉

LED	色	機 能	動 作
BUSY	緑	回線使用中表示	接続されている専用線が使用されている時点灯する。
ALM	赤	回線異常表示	接続されている専用線へアクセスした際、回線に異常がある場合点灯する。

内部バッテリー取付工事説明書

概要

- ・内部バッテリーは、DIGI16i,32iのどちらにも使用できます。
- ・内部バッテリーは停電時のシステム駆動用に使用します。
- ・内部バッテリーの増設により、停電時DIGI16iで20分以上、DIGI32iで10分以上のシステム駆動が可能です。
- ・本バッテリーは増設直後に十分な出力が得られない場合がありますので、増設後主装置の電源ONし24時間以上経ってから動作チェックを行って下さい。

同梱品

以下の付属品が同梱されていることを確認して下さい。

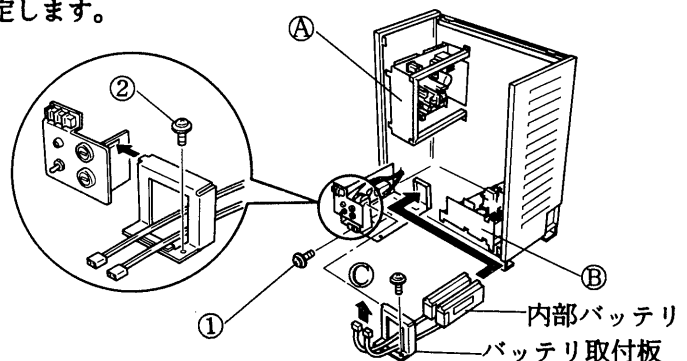
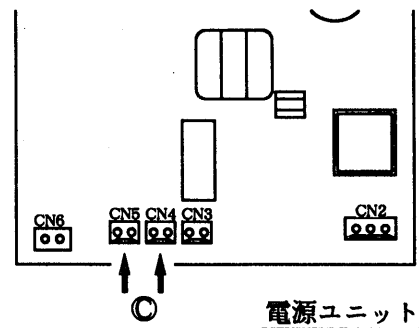
- ・鉛蓄電池 (12V/2Ah) ……2
- ・工事説明書 ……1
- ・バッテリー取付板 ……1
- ・ビス ……1

取付方法

1. 主装置のフロントカバーを取外します。
2. ビス①を外し、パネルユニットを前面に引出します。
3. バッテリー2本をパネルユニット上にセットします。
4. バッテリー取付板の穴にバッテリーケーブルを通した後、取付板の突起をパネルユニットの穴に差し込み、付属のビス②で固定します。
5. バッテリーコネクタを電源ユニット上のコネクタ (CN4,5) に接続します。(C)

〔電源ユニット取付位置〕
・DIGI16i ……①
・DIGI32i ……②

6. パネルユニットを元の位置へ戻し、ビス①で固定します。
7. 主装置のフロントカバーを取付けます。



Prepared by
Business Systems
Quality Assurance Division
CANON INC.
Printed In Japan
FIRST EDITION (9109-1200-22109/27192)

Canon